

ノミニシテ竊盜ヲ確認シタルモノニモアラス加之犯人ヲ逮捕シタル刑事巡查ノ供述トシテ寧口訴追官ノ意見ニモ準セラルヘク一概ニ之ヲ措信スヘカラサル事情ニアリ(三)原審カ證據トシテ援用シタル川端平三郎訊問調書ノ證據力ナキコト既述ノ如シ加之其ノ内容ハソノ以前提出シタル始末書ノ内容ト大ニ相違シ川端カ被告人ヲ犯人ナリト指定スルモ之ヲ信憑スルニカナシ(四)被告人ハ檢事ノ取調以來事實ヲ否認シタリ右事情ヲ綜合スルニ本件竊盜行爲自體ノ有無ニ付テ重大ナル疑アルノミナラス假ニ竊盜行爲ノ著手アリタリトスルモ之ヲ既遂ト認定シタルハ事實ノ重大誤認ナリト信スト云フニ在リ仍テ審案スルニ刑事訴訟法第二百十六條ノ規定ニ依レハ司法警察官カ證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ司法警察吏ヲシテ立會ハシムヘキモノニシテ而シテ右規定ハ該訊問ノ公平適正ヲ確保スルカ爲ニ設ケラレタルモノナレハ司法警察官カ右規定ニ反シ司法警察吏ヲ立會ハシムルコトナクシテ訊問シタル證人ノ供述ヲ錄取シタル調書ハ無効ナリト解スルヲ相當トス記錄ヲ查スルニ所謂司法警察官ノ證人川端平三郎ニ對スル訊問調書ニハ司法警察吏ヲシテ立會ハシメタル旨ノ記載ナキカ故ニ右訊問ニハ司法警察吏ノ立會ナカリシモノト認ムヘク從テ該調書ハ無効ナリトス故ニ原判決カ之ヲ罪證ニ供シタ違ハル法ナルモ原判示事實ハ右調書ヲ除外スルモ原判決擧示ノ其ノ餘ノ證據ニ依リ優ニ之ヲ證明シ得ルカ故ニ右探證上ノ瑕疵ハ未タ以テ原判決破毀ノ理由ト爲スニ足ラス尙記錄ヲ查スルモ原判決ノ事實認定ニ重大ナル誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルコトナク又李成雨ノ所論供述ノ措信スヘカ

ラサル事由ハ之ヲ發見シ難ク尙棚橋基ノ所論供述ハ同人ノ實驗シタル事實ニ基クモノニシテ單ニ同人ノ意見ニ準スヘキモノニ非サルコトハ其ノ供述ノ内容自體ニ徴シ明白ナリトス而シテ原判示事實ハ竊盜罪ノ既遂ヲ以テ論スヘキコト勿論ナルカ故ニ原判決カ之ヲ同罪ノ既遂ヲ以テ處斷シタルハ洵ニ正當ナリトス要スルニ原判決ニハ所論ノ如キ違法毫モ存スルコトナシ論旨理由ナシ右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事徳江治之助關與



○私文書偽造行使公正證書原本不實記載行使公文書毀棄贈賄被告事件

(昭和十一年(れ)第一八三三號  
同年十一月十六日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 磯部松次郎 辯護人 鬼丸義齊

【第一審】 名古屋地方裁判所 【第二審】 名古屋控訴院

○判示事項

區裁判所雇ト公務員

○判決要旨

區裁判所雇ハ裁判所書記ヲ補助スヘキモノニシテ明治二十三年十二月司法省訓令總第一二六號ニ依リ公務ニ從事スル職員ナリトス

【參照】 刑法第七條 本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ從事ス



ル議員、委員其他ノ職員ヲ謂フ  
公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ  
同法第九十八條第一項 公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ  
三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

明治二十三年十二月司法省訓令總第一二六號區裁判所、同檢事局及地方裁判所、同檢事  
局書記規則第一條 區裁判所書記課裁判所構成法第八條ハ必要アルニ從ヒ之ヲ數部  
ニ分ツコトヲ得

書記ハ互ニ代理ヲ爲シ又事務繁多ナルトキハ相補助スヘシ

書記課ニ雇員ヲ置キタルトキハ淨書、謄寫及記録編綴ニ從事セシメ其他書記ノ事務  
ヲ補助セシムルコトヲ得

○事實

第二審判決ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人磯部松次郎ヲ懲役一年ニ處ス第一審ニ  
於ケル未決勾留日數中百八十日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人熊澤利三郎ハ名古屋市中區大池町一丁目九番地齋藤きやう方ノ番頭被告人磯部松次郎ハ豫テヨリ齋藤きやう方  
ニ出入シ同人方ノ家事ニ關與セル者被告人水野代吉ハ會計士ヲ業トセル者、被告人小出幸一ハ元名古屋區裁判所雇ノ  
職ニ在リテ大正十二年十一月二日ヨリ昭和九年二月二十一日迄同裁判所書記ヲ補佐シ同裁判所ノ登記ニ關スル一切ノ  
事務ヲ擔當シ居リタルモノナルトコロ

第一 (一) 前記齋藤きやう方及其ノ繼子ナル齋藤とと子ハ、多額ノ資産ヲ擁シきやう方ニ同居シテ圓滿ナル生活ヲ營

ミ居タルカ偶々昭和五年八月頃右とと子カ齊藤本家ノ番頭友松梅雄ト情交關係ヲ結ビタルコトヨリ端ヲ發シ爾來  
親子間ニ紛争ヲ重ネ果テハとと子カきやう方ヲ家出シ別居スルニ至リタルヲ以テきやう方及其ノ側近者等ニ於テ齊  
藤家ノ資産ノ減損スルコトヲ虞レ協議ノ結果カ保全方法トシテ右財産ヲ出資シテきやう方及とと子並とと子ノ子  
貞子ノ三名ヲ社員トスル齊藤殖産合名會社ヲ設立スルニ如カスト爲シタルモ容易ニ右とと子等側ノ同意ヲ得難キ  
トコロヨリ茲ニ被告人熊澤利三郎 磯部松次郎 水野代吉ハ共謀ノ上齊藤とと子ノ承諾ナキニ拘ラス右とと子及其  
ノ子貞子ノ各名義ヲ冒用シ齊藤殖産合名會社ヲ設立シ之カ設立登記ヲ爲サンコトヲ企テ昭和六年九月十八日頃前  
掲名古屋市中區大池町一丁目九番地齊藤きやう方ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ擅ニ齊藤とと子及齊藤貞子ノ氏名ヲ記  
載シ各名下其ノ他ニ同人等ノ印章ヲ押捺シ以テ同人等名義ノきやう方及とと子及貞子ノ三名ヲ社員トシ出資額ヲ二十  
萬圓トスル旨ノ齊藤殖産合名會社定款一通とと子 貞子名義ノ合資會社設立登記申請ニ關スル委任狀一通(以上孰  
レモ證第二百五十一號中ノモノ) 及とと子名義ノ印鑑並大正九年三月二十三日生ニシテ當時十二歳ノ未成年者ナ  
リシ貞子ノ生年月日ヲ明治四十二年三月二十三日トシタル貞子名義ノ印鑑各一通ヲ順次偽造シ昭和六年九月二十  
一日名古屋區裁判所登記官吏ニ對シ前示偽造ニ係ル各文書ヲ恰モ真正ナルモノノ如ク裝ヒ一括シテ提出行使シ右  
とと子及貞子ヲ社員トシタル虚偽ノ前記合名會社設立登記申請ヲ爲シ因テ同官吏ヲシテ商業登記簿ニ右申請通り  
不實ノ登記ヲ爲サシメタル上即時之ヲ同區裁判所ニ備付ケシメ行使シ

(二) 昭和六年十月中旬頃右齊藤とと子ヨリ名古屋地方裁判所ニ對シテ右齊藤殖産合名會社ノ設立無効ノ訴訟ヲ  
提起セラレントスル形勢アリタルヨリ其ノ設立ニ關スル不正ノ發覺ヲ防止センカ爲被告人熊澤利三郎 磯部松次  
郎 水野代吉等ハ被告人小出幸一ニ對シ名古屋區裁判所備付ノ合名會社印鑑簿ヨリ眞ニ提出シタル貞子ノ虚偽ノ  
生年月日ヲ記載セル偽造印鑑ヲ剝取り新ニ貞子ノ生年月日ヲ記載シテ偽造シタル印鑑ト竊ニ取替ヘ吳レ度キ



旨依頼シテ同人ノ承諾ヲ得茲ニ被告人熊澤利三郎 磯部松次郎 水野代吉 小出幸一ハ共謀シ之ニ基キ先ツ被告人代吉カ其ノ頃右齊藤きやう方等ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ齊藤貞子ノ署名印章ヲ冒用シ同人ノ前記真正ノ生年月日ヲ記載セル同人名義ノ印鑑一通ノ偽造ヲ完成シ次テ被告人幸一カ同年十一月頃同區裁判所登記所受付口ニ於テ被告人松次郎ヨリ新ニ偽造セル右貞子ノ印鑑ヲ受取ルト共ニ同區裁判所備付ノ合名會社印鑑簿ニ貼付セラレ係官吏ノ割印アル前記虚偽ノ生年月日ヲ記載シタル貞子ノ印鑑ヲ擅ニ剝取り以テ公務所ノ用ニ供スル右印鑑簿ヲ毀棄シタル上即時情ヲ知ラサル係登記主任書記山田光世ヲシテ右偽造ニ係ル貞子名義ノ新印鑑ヲ真正ナルモノトシテ該印鑑簿ニ添附セシメテ之ヲ同區裁判所ニ備付ケシメテ行使シ

(三) 被告人熊澤利三郎 磯部松次郎 水野代吉等ハ共謀ノ上被告人小出幸一ニ對シ前掲(二)記載ノ如ク貞子ノ偽造印鑑ノ取替方ヲ依頼シ被告人幸一ニ於テ右取替ヲ實行スルヤ其ノ頃同裁判所構内ニ於テ之カ謝禮トシテ被告人幸一ニ現金五十圓ヲ交付シ以テ被告人幸一ノ前示職務ニ關シ贈賄シ

(四) 被告人熊澤利三郎 磯部松次郎ハ共謀ノ上

(イ) 昭和六年七月頃被告人小出幸一ニ對シ右齊藤きやう子カ其ノ所有不動産ニ付キ登記申請ヲ爲スカ如キコトアラハ豫メ直ニ通知セラレ度キ旨依頼シ被告人幸一ニ於テ之カ其ノ不動産ニ付抵當權設定登記ノ申請ヲ爲シタル旨通知スルヤ其ノ頃名古屋市中區南吳服町二丁目料亭「君多喜」ニ於テ之カ謝禮ノ趣旨ノ下ニ被告人幸一ニ對シ現金五十圓ヲ交付シ

(ロ) 右齊藤きやう子カ齊藤きやう子ヨリ贈與ニ因リ同市中區西川端町所在ノ不動産二千六百四十坪餘ヲ取得シ假登記ヲ完了シ居リタルカ昭和七年十一月頃其ノ本登記ヲ爲スニ際シ被告人小出幸一ニ對シ該不動産登録稅ノ減額方ヲ依頼シ該登記手續ヲ了スルヤ其ノ頃前記齊藤きやう方ニ於テ被告人幸一ニ對シ同人カ右登録稅減額方ニ付盡

カシタル謝禮トシテ現金百圓ヲ交付シ

以テ被告人幸一ノ前示職務ニ關シ贈賄シ

(五) (六) (七) 事實省略

第二 被告人小出幸一ハ

(一) 前掲第一ノ(三)及同(四)ノ(イ)(ロ)記載ノ如ク被告人熊澤利三郎 磯部松次郎 水野代吉ヨリ請託ヲ受ケ同人等ヨリ同記載ノ如キ趣旨ニ出テタルコトヲ知り乍ラ合計金二百圓ノ交付ヲ受ケ

(中略)

以テ公務員タル自己ノ前示職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ

タルモノナリ

而シテ被告人磯部松次郎ノ私文書偽造及其ノ行使並贈賄ノ所爲ハ孰レモ犯意繼續ニ出テタルモノトス

法律ニ照スニ被告人磯部松次郎ノ判示所爲中私文書偽造ノ點ハ刑法第五百十九條第一項第六十條ニ偽造私文書行使ノ點ハ同法第六十條第一項第五十九條第一項第六十條ニ登記簿原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル點ハ同法第五十七條第一項第六十條ニ不實事項記載ノ登記簿原本行使ノ點ハ同法第五十八條第一項第五十七條第一項第六十條ニ公務所ノ用ニ供スル印鑑簿ヲ毀棄シタル點ハ同法第二百五十八條第六十條ニ贈賄ノ點ハ同法第九十八條第一項ニ孰レモ該當スルトコロ判示第一ノ(三)(四)(七)ノ各贈賄ノ所爲ト定款登記申請ノ委任狀印鑑ヲ一括行使シタル所爲ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ犯情最モ重キ偽造定款行使罪ニ付定メタル刑ニ從ヒ以上私文書偽造及其ノ行使並贈賄ハ夫々連續犯ニ係ルヲ以テ各同法第五十五條ヲ適用シ尙私文書偽造其ノ行使登記簿原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル點及其ノ行使ハ順次手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條



第一項後段第十條ニ則リ最モ重キ偽造私文書行使罪ノ刑ニ從ヒ各贈賄罪ニ付テハ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ以上偽造私文書行使公文書毀棄贈賄ノ各罪ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルニヨリ同法第四十七條第十條ニ則リ最モ重キ公文書偽造罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シ其ノ刑期範圍内ニ於テ同被告人ニ對シ主文ノ刑ヲ量定處斷スヘク尙同法第二十一條ニ則リ主文記載ノ原審ニ於ケル未決勾留日數ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人鬼丸義齊上告趣意書第一點原判決理由中第一ノ三被告人小出幸一ニ對シ被告磯部松次郎外二名ヨリ金五十圓ヲ交付シタル行爲ヲ以テ被告人幸一ニ對スル職務ニ關シ贈賄シタルトノ認定ハ不當ニ法律ヲ適用シタルモノトシテ破毀スヘキモノトス被告磯部松次郎外二名カ共謀シ當時名古屋區裁判所雇ノ職ニアリタル被告小出幸一ニ對シ曩ニ同裁判所ニ提出シタル齊藤殖産合名會社設立申請書中貞子ノ生年月日明治四十年三月二十三日ト記シタル同人名義ノ印鑑ヲ破棄セシメ更ニ偽造シタル同人名義生年月日大正九年三月二十三日ノモノト取替ヘ吳レ度キ旨ヲ依頼シ之ヲ實行シタル事實ニ付テハ更ニ疑ヲ容ルル餘地ナキモ被告人小出幸一ハ當時名古屋區裁判所雇ノ職ニアリ同裁判所書記ヲ輔佐シ登記ニ關スル一切ノ事務ヲ擔當シ居リタルモ前述ノ如ク印鑑簿ヲ取替フルカ如キ行爲ハ元ヨリ被告ノ職務行

爲ト云フヲ得ス被告人小出カ同裁判所ニ奉職シ其ノ廳内ニアルコトヲ奇貨トシ被告人等四名共謀ノ上同裁判所備付ケノ齊藤貞子名義ノ印鑑ヲ破棄シ之ニ替フルニ新ニ偽造印鑑ヲ備付ケタルモノニシテ此ノ如キ行爲カ終始被告人小出ノ職務ニ關スル處ニアラス小出幸一個人トシテ斯カル不法行爲ヲナシタルモノニ過キス從ツテ之ニ對シ其ノ報酬トシテ被告人磯部松次郎外二名ヨリ金五十圓ヲ交付シタルトスルモ之ヲ以テ被告人小出幸一ニ對スル贈賄ナリトスルコトハ全ク不當ニ法律ヲ適用シタルモノナリト信スト云フニ在レトモ

區裁判所雇ヲシテ裁判所書記ノ事務ヲ補助セシメ得ヘキコトハ明治二十三年十二月司法省訓令總第一二六號區裁判所同檢事局及地方裁判所同檢事局書記規則ノ明定スル所ニシテ所論小出幸一カ名古屋區裁判所雇ノ職ニ在リテ同裁判所書記ヲ補助シ登記ニ關スル一切ノ事務ヲ擔當シ居リタルコトハ原判決舉示ノ證據ニ徵シテ明カナレハ同人ハ法令ニ依リ公務ニ從事スル職員ナリト謂フヘク從ツテ原判決カ被告人ニ於テ小出幸一ニ對シ職務上ノ請託ヲ爲シ其ノ謝禮トシテ金員ヲ交付シタル行爲ヲ贈賄ナリト認定シ刑法第九十八條第一項ヲ以テ問擬シタルハ正當ニシテ所論ノ如ク不當ニ法律ヲ適用シタルモノト謂フヘカラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事黒川涉關與



○府會議員選舉罰則違反被告事件 (昭和十一年(れ)第一六一六號 同年十一月十八日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 安田利一 辯護人 四方田保

【第一審】 大阪區裁判所 【第二審】 大阪地方裁判所

○判示事項

席料茶代等ト變應接待ノ費用

○判決要旨

選舉人又ハ選舉運動者ヲ旅館若ハ料亭ニ招致シ變應接待ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ旅館料亭ノ營業者、使用人等ニ對シ席料、茶代、心附等トシテ交付シタル金錢ノ如キハ衆議院議員選舉法第一百十二條第一項ニ所謂變應接待ニ付要シタル費用中ニ包含ス

【參照】 衆議院議員選舉法第一百十二條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ變應接待其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ

(中略)

四 第一號若ハ前號ノ供與、變應接待ヲ受ケ若ハ要求シ、第一號若ハ前號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第二號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ  
府縣制第四十條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人安田利一ヲ罰金六十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間同被告人ヲ勞役場ニ留置ス被告人ヨリ金六圓四十七錢ヲ追徴スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人安田利一ハ昭和十年九月二十五日施行ノ大阪府會議員選舉ニ付大阪府北河内郡ニ於ケル選舉人タリシ者相被告人安田五一郎同安田瀨次郎ハ孰レモ同年六月二十日頃右選舉ニ大阪府北河内郡ヨリ立候補ノ決意ヲ爲セルモ未タ立候補ノ届出ヲ爲スニ至ラサリシ福田一光ノ實弟法覺稔ト平素親交アリシ者ナルトコロ

第二被告人利一ハ右福田一光カ法覺稔及中西善治郎ト共謀ノ上自ラ當選ヲ得ル目的ヲ以テ自己ノ爲同被告人ニ選舉

席料茶代等ト變應接待ノ費用



運動ヲ依頼スル趣旨ノ下ニ饗應接待ヲ爲スモノナルコトノ情ヲ諒知シ乍ラ福田一光 法覺稔及中西善治郎等ヨリ昭和十年七月十五日大阪市北區樋上町五十九番地富貴屋旅館事尾崎方ニ於テ一人前金二圓八十四錢相當ノ又同年八月三日大阪市東區高麗橋五丁目二十番地田中屋旅館ニ於テ一人前金三圓六十三錢相當ノ各酒食ノ饗應接待ヲ受ケ(其ノ他ノ事實省略)

タルモノニシテ右所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス  
法律ニ照スニ被告人利一ノ判示所爲ハ府縣制第三十九條第四十條ニ依リ準用セララルル衆議院議員選舉法(昭和九年法律第四十九號ヲ以テ改正)ニ違反スルヲ以テ以下單ニ同選舉法ノ適用ニ付按スルニ同被告人ノ判示饗應接待ヲ受ケタル所爲ハ夫々同選舉法第十二條第一項第四號刑法第五十五條ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ同被告人ヲ罰金六十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間同被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク尙同被告人カ收受シタル判示第二ノ饗應接待ニ因ル利益合計金六圓四十七錢ハ沒收スルコト能ハサルヲ以テ右選舉法第十四條ニ則リ同被告人ヨリ主文掲記ノ如ク其ノ價額ヲ追徵スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人四方田保上告趣旨書第四點原判決ハ被告人利一ヨリ金六圓四十七錢ヲ追徵スル旨言渡シタリ然レトモ選舉法第十四條ニ則リ追徵ヲ爲スニハ被告人ノ現ニ受ケタル利益ナラサルヘカラス然ルニ被

告人利一ノ受ケタル飲食費ニハ富貴屋旅館及田中屋旅館ノ席料各一圓ヲ包スル含モノニシテ席料ハ被告人利一ノ現ニ受ケタル利益ニアラサルヲ以テ被告人利一ヨリ追徵ヲ爲スニハ判示饗應飲食費ヨリ此ノ席料ヲ控除セサルヘカラサルモノナリトス然ルニ此ノ席料ヲ控除セスシテ其ノ全額ヲ追徵スル旨言渡シタル原判決ハ違法ニシテ破毀スヘキモノト信スト云フニ在リ

然レトモ原判決舉示ノ證據ニ依レハ被告人カ判示福田一光外二名ヨリ判示ノ如キ事情ヲ諒知シナカラ判示富貴屋旅館ニ於テ一人前金二圓八十四錢相當ノ又判示田中屋旅館ニ於テ一人前金三圓六十三錢相當ノ各酒食ノ饗應接待ヲ受ケタル事實ヲ認定スルニ足ルヲ以テ原判決カ被告人ノ收受シタル右饗應接待ニ因ル利益ヲ沒收スルコト能ハサルモノト認メ其ノ價格合計金六圓四十七錢ヲ被告人ヨリ追徵シタルハ因ヨリ當然ノ措置ナリトス而シテ旅館若ハ料亭ニ人ヲ招致シ之ニ酒食ヲ供シテ款待シタルカ如キ

【要旨】

場合ニ於テ被饗應者ノ受ケタル利益ノ價格ハ右饗應接待ニ付要シタル總テノ費用ニ相當スルモノト云フヘク獨リ其ノ口腹ノ慾ヲ充シタル飲食物ノ價格ノミニ限ラルヘキモノニ非ス而モ旅館料亭ニ於テ飲食遊興ヲ爲スニ際シ其ノ營業者使用人等ニ對シ茶代席料心附等トシテ若干ノ金員ヲ與フルコトアルハ一般ノ慣例トシテ認メラルルトコロナルカ故ニ斯ル金員モ亦饗應接待ノ爲ニ要シタル費用ナリト認ムルヲ妥當トスヘシ左レハ縱令判示金六圓四十七錢中所論ノ如キ席料ヲ包含スルモノトスルモ原判決ハ被告人ニ於テ供與ヲ受ケタル飲食物ノ代價ノミナラス所論席料モ亦被告人ニ對スル饗應接待ニ付要シ

席料茶等ト饗應接待ノ費用



タル費用ナリトシ之等ノ費用合計金六圓四十七錢ニ相當スル額ヲ以テ被告人カ收受シタル利益ノ價格ト認メタルモノト云フヘク從テ被告人ヨリ其ノ價格ヲ追徴シタルハ正當ニシテ所論ノ如キ違法存セス論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事一木頼太郎關與

○恐喝被告事件(昭和十一年(九)第一八二四號  
同年十一月十八日第五刑事部判決) 棄却)

【上告人】 被告人 金子賢太郎 辯護人 細田綱吉

【第一審】 浦和區裁判所 【第二審】 浦和地方裁判所

○判示事項

小作爭議ニ因ル抗爭中ノ恐喝罪

○判決要旨

小作爭議中不法ノ手段ヲ用ヒ地主ニ對シ危害ヲ加フヘキコトヲ以テ之ヲ威怖セシメ損害賠償名義ノ下ニ財物ノ交付ヲ受クルハ權利行使ノ範圍ヲ超越シ恐喝罪ヲ構成ス

【参照】 刑法第二百四十九條 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲

役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人賢太郎ヲ懲役五月ニ處ス但第一審ニ於ケル未決勾留日數中百日ヲ右本刑ニ算入ス(訴訟費用負擔ノ點省略)ル旨ノ判決ヲ爲シタリ  
被告人喜市ハ元日本大衆黨粕壁支部長ナリシカ現ニ日本農民組合埼玉縣聯合會會長ニシテ且毎夕新聞ノ通信及販賣ヲ業トナシ被告人賢太郎ハ現在大日本大衆黨粕壁支部長ニシテ埼玉日報及武藏新報等ノ販賣ヲ業トナシ居リタルモノナルトコロ

第一 被告人喜市ハ

(一) 昭和五年十一月十五日頃森下喜左衛門カ埼玉縣北葛飾郡吉田村大字惣新田野口雄平ヨリ同人カ小作料ヲ滯納シタル爲其ノ地主タル青木儀一郎ヨリ土地返還請求ヲ受ケタルモ小作ヲ繼續シ得ル様交渉方ヲ依頼セラレ其ノ翌

小作爭議ニ因ル抗爭中ノ恐喝罪



日頃右儀一郎長男進ト之カ折衝中人カ人夫ヲ指揮シ該小作地ノ桑樹等ヲ拔取リ該土地ヲ強制的ニ取上ケントスル態度ヲ示シタルヨリ爰ニ被告人賢太郎ト共謀ノ上小作爭議ヲ惹キ起シ大衆黨ヲ背景トシテ右儀一郎等ト抗争シ以テ有利ニ解決センコトヲ企テ其ノ頃同人方居宅附近電柱ニ「青木儀一郎ノ惡地主」ト大書シタルビラヲ貼布シ人夫達ト勞働歌ヲ高唱シテ同人方附近ヲ徘徊シ或ハ人夫等ヲ貨物自動車ニ積ミ待機中ナリト放言シテ同人等ノ身體名譽財產等ニ危害ヲ加フヘキ氣勢ヲ示シテ同人等ニ危懼ノ念ヲ抱カシメ因テ同月十九日右損害賠償名義ノ下ニ同人カ右雄平ニ對スル金四百九十一圓八十二錢ノ債權ヲ拋棄セシメタル上其ノ證書及現金百五十圓ヲ交付セシメ

(二) 昭和六年八月頃同縣北葛飾郡櫻井村信用購買利用組合ニ制限外ノ不良貸付アルコト及同組合長齋藤猛雄同組合理事青木六五郎ニ素行上非難スヘキ點アルヲ聞知スルヤ之ヲ奇貨トシテ被告人賢太郎ト共謀ノ上同月二十九日同村岩田吉三方ニテ村政批判演說會ヲ開催スヘキ旨ノビラヲ其ノ附近ニ貼布シ右猛雄及六五郎ニ對シ暗ニ右信用組合ノ不正貸出竝同人等ノ私行上ノ弱點ヲ暴露スルコトアルヘキヲ諷示シ同人等ヲシテ危懼ノ念ヲ抱カシメ因テ同月二十九日同村増山秋太郎方ニ於テ右兩名ヨリ右演說會ノ中止料名義ノ下ニ金五十圓ヲ交付セシメ

(中略)

(五) 同年六月頃被告人賢太郎ヨリ同縣北葛飾郡富多村小學校校長町田憲カ同校女訓導中島久仁代ト情交關係アル旨ヲ聞知スルヤ兩名共謀ノ上被告人喜市ニ於テ其ノ頃右小學校ニ右憲ヲ訪レ「君カ今朝粕壁町ノ女教員ト醜關係ヲ結ヒタルコトニ付博徒等カ騒キ居ル故何トカセネハナラヌタロウ」ト申向ケ前同様出金方ヲ暗示シ若シ金員ヲ提供セサルニ於テハ自己ノ新聞ニ關係セル地位ヲ利用シ同人ノ名譽ヲ害スヘキ記事ヲ新聞紙上ニ掲載シ同人ヲシテ失脚ノ餘儀ナキニ立至ラシムルヤモ知レサルカ如キ氣勢ヲ示シテ同人ヲ困惑セシメ因テ同月七日金百圓ヲ交付

セシメ

以テ孰レモ恐喝ノ目的ヲ遂ケ

第二 被告人賢太郎ハ被告人喜市ト共謀ノ上前項(一)(二)及(五)記載ノ如ク脅迫シ因テ被害者ヨリ夫々判示ノ如キ金錢又ハ債務證書ノ交付ヲ受ケ(茲ニ前項關係部分ノ記載ヲ引用ス)

タルモノニシテ被告人賢太郎ノ恐喝ノ各所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人賢太郎ノ判示第一ノ(一)(二)及(五)ノ恐喝ノ各所爲ハ各刑法第二百四十九條第一項第六十條ニ該當スルトコロ(二)ノ所爲ハ同法第五十四條第一項前段ニ係ルヲ以テ同法第十條ニ從ヒ犯情重キ齋藤猛雄ニ對スル恐喝罪ノ刑ニ從フヘク以上ハ連續犯ニ係ルヲ以テ同法第五十五條ニ從ヒ其ノ所定期限範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役五月ニ處スヘク尙原審ニ於ケル未決勾留日數中百日ハ同法第二十一條ニ從ヒ之ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人細田綱吉上告趣意書第一點原判決ハ第一事實トシテ「被告人福島 金子 青木等ハ之ヲ奇貨トシテ多衆ノ威力ヲ示シ大衆黨ヲ背景トシテ儀一郎及長男進等ニ對シ桑樹等拔取リノ損害數百圓ノ賠償方ヲ要請シ又ハ儀一郎方附近ノ電柱ニ「青木儀一郎ノ鬼地主」ト大書セル半紙多數ヲ貼布シ或ハ勞働歌ヲ高唱徘徊シ人夫ヲ貨物自動車ニ登載ノ準備中ナリト申向ケテ儀一郎等ヲ脅迫シ同月十九日同人方ニ

小作爭議ニ因ル抗争中ノ恐喝罪



於テ野口ニ對スル金四百九十二圓八十二錢ノ債權ヲ拋棄シテ其ノ證書ヲ返還セシメ且現金百五十圓ヲ交付セシメ以テ之ヲ喝取シト認定シ之カ證據トシテ相被告人福島喜市ニ對スル司法警察官ノ調書中……其ノ翌朝再通知ニ接シ森下金子賢太郎青木愛助ト共ニ現場ニ至リタルニ地主ハ十數名ノ若者ト共ニ前日同様ノ事ヲ爲シ居タルカ其ノ夕方大勢ニテ地主方ニ參リ主人不在故其ノ翌日迎ヲ受ケ午後六、七時頃進方ニテ從來ノ貸金ヲ免除スル外現金ヲ貰ヒ受クル條件ノ和解書ニ調印セリ」被告人金子ニ對スル檢事ノ調書中「……其ノ爭議ノ應援ハ初メ森下カ頼マレ福島ハ同人ヨリ自分ハ又福島ヨリ順次頼マレ自分ヨリ青木飯村ニ依頼シ指揮其ノ他一切ハ福島ニ於テ爲シ同人ノ命令通り行動セリ能滿寺ニ於テ福島青木森下及自分等カ青木儀一郎其ノ他ノ惡口ヲ半紙ニ書キ地主ノ住宅附近ノ電柱ニ貼布セリ地主カ四百九十圓餘ノ貸金ヲ拋棄シ證書ヲ返還シ尙現金百五十圓出シタルハ大衆黨カ小作人ノ味方トナリ勞働歌ヲ唄ヒ歩キ地主ノ惡口ヲ記載セル貼紙ヲ爲シタル爲世間體ヲ考ヘテ右様ノ事ヲ爲シタル旨ノ供述記載」等ヲ說示セリ然レトモ上告人等カ當日大勢ニテ右小作爭議ノ應援ヲ爲スニ至リタルハ地主青木儀一郎カ無暴ニモ野口雄平ノ小作地ニ對シテ初メ七、八名ノ暴力團ヲ使用シ無斷ニテ桑樹果樹蔬菜類等ヲ掘返シタル上其ノ占有ヲ侵奪シタルカ故ニ右野口ヨリ依頼サレタル森下喜左衛門ハ事情斯クノ如キ以上到底一人ニテハ此ノ不法ヲ防クニ由ナキヲ知リテ其ノ防止方ヲ相被告人福島喜市ニ依頼シ右森下福島ノ兩名ハ小作地現場ニ於テ青木儀一郎ニ對シ右暴力侵奪行爲ノ中止ヲ懇願シタル

モ其ノ翌日更ニ地主青木ハ復々十數名ノ暴力團ヲ使用シテ耕地ノ桑樹果樹蔬菜等ノ採取リヲ爲スニ至リタルヲ以テ右野口雄平ハ其ノ暴舉ト被害ニ堪エ難ク此ノ暴舉ト被害ヲ防カンカ爲ニ已ムヲ得ス被告人福島ヲ通シテ上告人ニ依頼シタル上多數ヲ集メテ耕地現場ヲ取締リ以テ地主青木ニ重ネテ斯クノ如キ暴舉ヲ爲サシメサル目的ニ出テタルニ過キササルモノニシテ上告人等ノ意思ト目的ハ青木儀一郎ヲ畏怖セシメンカ爲多數ヲ集メタルモノニ非サルナリ之ニ就テハ證人森下喜左衛門ノ訊問調書中「其ノ後幾日經ツタノカ記憶アリマセヌカ或ル朝野口カ私方ヘ參リ地主側ヲ桑樹ヲ掘リ始メタカラ來テ助ケテ吳レト申シマシタ其處テ私ハ自分一人位カ行ツタトテ什ウニモナラヌカト申シ町内關係ヲ知合ナル福島喜市(被告)方ヘ行キ同人ニ一緒ニ行ツテ貰ツテ解決方盡力ヲシテ貰フ様依頼シマシタ其ノ際ハ野口モ一緒ニ行ツタト思ヒマスソシテ福島モ野口カ氣ノ毒タト云ヒ同情シテ私達ト一緒ニ現場ヘ行ツテ吳レマシタ現場テハ地主側カラ七、八人ノ者カ來テ居ツテ桑ノ根本ヲ掘リ返シテ居リマシタカ福島カコンナコトヲセストモ話カ著キソウナモノタト云ヒ私達モ中止ヲ懇請シタノテ兎モ角其ノ日ハ中止サレテ地主側ハ引揚ケタノテアリマス其ノ後テ私ト野口カ地主側ノ立入ヲ防ク爲ニ小作地ノ周圍ニ繩ヲ張ツテ歸リマシタ處カ其ノ翌朝又野口カ來テ地主側テ又桑樹等ノ掘抜キヲ始メタト云ヒマスカラ福島ニモ知ラセニ行キマシタ處福島ハ金子(被告人)ニモ應援ヲ頼マウト申シ同人カラ金子賢太郎ニ對シ其ノ旨ノ依頼カアツタ様テシタ而シテ私ハ福島ト共ニ現場ヘ駆ケ付ケマシタカ其ノ際現場ニハ前日ヨ



リ多クノ人達カ居リ前日同様耕地ノ樹根ノ抜き取り最中テシタ地主側ノ人數トシテハ大體十人位カト思ヒマスカ兎ニ角私達小作人側ノ者ハ中止方ノ交渉ヲシテ地主側ニ中止シテ貰ヒマシタ金子カ現場ヘ來タノハ私達ヨリ遅レテ地主側カ中止シテ引揚ケタ頃テアツタト思ヒマス地主側カ引揚ケテカラ私ヤ福島ヤ金子等テ地主ニ交渉スヘク地主方ヘ行キマシタカ戸カ堅ク締ツテ居リマスノテ入レスニ歸リマシタ」(記録一四八七丁ヨリ一四八九丁裏迄)トノ供述又ハ被告人福島喜市第一審第三回公判調書中「其ノ際ハ儀一郎ハ留守タツタノテ其ノ悴ニ會ツテ森下カラ聞イタ趣旨ノ話ヲ致シ繼續シテ貸シテ呉レト頼ミマシタ處青木ノ悴(儀一郎ノ悴)ハ自分ニハ承諾出來ヌシ父ハ頑固タカ兎ニ角話シテ置クカラ取上ケノ方ハ一週間許リ待ツテ呉レト頼ンテ歸リマシタ處カ翌朝早ク野口ト森下カ私方ヘ來テ地主側カ桑樹ヲ抜き始メタカラ直クニ來テ止メサセテ呉レト云ヒマスノテ私モ驚イテ野口等ト共ニ乗合自動車ヲ現場ヘ馳セ付ケマシタ現場テハ地主カ人夫ヲ指揮シテ桑樹ヲ抜イテ居ル最中ナノテ話ノ決ル迄是非一週間許リ待ツテ呉レト嘆願シマシタ處地主ノ方テモ待ツコトヲ承諾シマシタカラ小作地ノ周圍ニ繩張ヲシテ無斷ニ立入ヲ禁スル立札ヲシテ歸リマシタ處カ其ノ翌朝又モ野口ニ森下カ來テ地主側カラ二十人モ來テ桑ヲ抜き始メタカラ早ク來テ呉レト云フモノテスカラ亦急イテ現場ヘ參リ話カ違フカラ中止シテ呉レト種々話シマシタ地主ノ方テハ更ニ肯キ入レマセスカラ駐在所巡査ニ調停方ヲ頼ムヘク巡査ニ來テ貰ツテ中止方ヲ地主方ヘ話シテ貰ヒマシタ然シ地主ノ方テハソレテモ肯キ入レス耕作

地内ノ桑樹ヤ野菜類ヲ全部抜き取ツテ仕舞ツタノテアリマス(記録一三六三丁ヨリ一三六五丁迄)トノ供述及右被告人ノ第二審公判調書ニ於ケル同旨ノ供述又ハ上告人第一審第三回公判調書中「其ノ當時私ハ地主ノ青木小作ノ野口ノ兩方トモ知ラナカッタノテスカ地主側テ右小作地ノ桑樹等ヲ採取ツタ朝私ノ留守中ヘ福島カラノ傳言タカ野口ノ家ヘ行ケハ判ルカラ直ク來テ呉レト使ヒノ者カ言ヒ殘シテ歸ツタトノコトテシタ其ノ使ヒノ者ハ自動車(粕壁關宿關係間ノ乗合自動車)ノ運轉手テアツタソウテスカ其ノ事ヲ私ハ外出先カラ歸ツテ妻カラ聞キ早速吉田村ノ野口ノ家ヲ訪ネテ行キマシタソシテ野口ノ家テ地主カ畑ヲ散々ニ荒シテ居ルカラ畑ヘ駈ケ付ケテ呉レト云ハレテ其ノ現場ヘ參リマシタ處既ニ現場ハ桑樹等ハ抜き取ラレテアリ地主側人夫二、三十人カ引揚ケテ行ツタ後テ現場ニハ繩カ張ラレテ無斷立入ヲ禁スト云フ立札カ立ツテアリマシタ尙其ノ場ニハ福島ヤ野口ノ親戚ノ森熊次郎等カ居リマシタ」トノ供述及ヒ上告人ノ第二審公判調書ニ於ケル同旨ノ供述又ハ上告人ニ對スル昭和十年六月十七日司法警察官聽取書第一〇項中「……私ハ詳シイ話ハ殆ント知ラナイカ地主青木ト云ヒマシテ無斷テ小作人ノ野口ノ畑ヲ手入シテ丸テ強盜ノ様ナ事ヲシタト謂フ話ヲ福島喜市カシテクレマシタ……」トノ供述アリ之等ヲ比較考察スレハ上告人等ノ意思ハ地主青木儀一郎ノ耕地ニ對スル不法侵奪ヲ防止スル目的以外ニ出テサルモノニシテ毫モ地主儀一郎ヲ脅迫スルノ意思ナキコト明瞭ナルヲ知ルニ充分ナリ依テ原判決カ上告人ニ對シ「多衆ノ威力ヲ示シ大衆黨ヲ背景トシテ……儀一郎等ヲ脅迫シ……」



ト認定シタルハ著シク事實ノ認定ヲ誤リ證據ヲ不當ニ斷罪ノ資料ニ供シタル違法アルモノト信スト云ヒ」第二點原判決ハ第一事實トシテ「被告人福島金子 青木等ハ之ヲ奇貨トシテ多衆ノ威力ヲ示シ大衆黨ヲ背景トシテ儀一郎及長男進等ニ對シ桑樹等採取リノ損害數百圓ノ賠償方ヲ要請シ又ハ儀一郎方附近ノ電柱ニ「青木儀一郎ノ鬼地主」ト大書セル半紙多數ヲ貼布シ或ハ勞働歌ヲ高唱徘徊シ人夫ヲ貨物自動車ニ登載ノ準備中ナリト申向ケテ儀一郎等ヲ脅迫シ同月十九日同人方ニ於テ野口ニ對スル金四百九十一圓八十二錢ノ債權ヲ拋棄シテ其ノ證書ヲ返還セシメ且現金百五十圓ヲ交付セシメ以テ之ヲ喝取シ」ト認定シタリ然レトモ上告人等カ地主青木儀一郎ヨリ現金百五十圓ヲ交付セシメタルハ右青木カ無斷ニテ小作人野口雄平ノ一段七畝餘ノ耕地ヨリ桑樹果樹蔬菜類ヲ拔キ取りテ之ヲ奪取シタル上尙右耕地ヲ暴力ニヨリ其ノ占有ヲ侵奪シ且右耕地ヲ荒廢ニ歸セシメタルヲ以テ右野口ノ依頼ニ基キ侵奪サレタル耕地ヲ取戻シ桑樹果樹蔬菜類等ノ價格ヲ辨償セシメ且耕地ヲ荒廢ニ歸セシメタル損害金トシテ右金額ヲ領收シタルモノニシテ青木儀一郎カ野口雄平ニ對スル金四百九十一圓八十二錢ノ債權ヲ拋棄シタルモ亦右損害金ノ充當ノ意ヲ充分ニ含メテ右青木ニ於テ自發的ニ之ヲ拋棄シタルモノナリ據テ右野口ハ右青木ニ對シテ奪ハレタル耕地ノ占有ヲ回收シ喪ハレタル桑樹果樹蔬菜類ト及耕地ヲ荒廢ニ歸セシメタル損害ヲ賠償セシムル權利ヲ有スルヲ以テ其ノ實行行爲トシテ耕地占有ノ侵奪ヲ免ルル爲地主青木ノ使用スル暴力團ニ對抗スルニ足ル人員ヲ以テ耕地ノ現場ニ臨ミテ其ノ侵奪ヲ防キ且喪ハ

レタル桑樹果樹蔬菜類等及耕地荒廢ノ損害金トシテ金四百九十一圓八十二錢ノ債權免除ヲ得且金百五十圓ヲ受領シタルモノナリ右事實ニ付キテハ司法警察官聽取書(昭和十年六月十四日聽取書第一項)中「……一段七畝餘ノ桑畑ノ桑ヲ殆ント全部抜イテ仕舞ヒマシタ若イノハ五年生位テ古イノハ親ノ植ヘタモノテアリマス又畑ニハ野菜ヤ果樹等モアリマシタノテ……損害ハ金二百圓ノ見積リニナリマシタ……」トノ供述又ハ第一審證人森下喜左衛門ノ陳述中「問右賠償ノ交渉ヲシタカ答致シマシタ算定ノ基礎トシテハ桑一株幾許梨一株幾許ト云フ風ニ詳細ニ書キ出シマシタ處大分多額ナ數字トナツタノテス而シテ夫レヲ基礎トシテ森鈴木ノ兩仲介人ヲ通シテ地主側へ交渉シマシタ結果地主側テモ此ノ被害ヲ認め其ノ被害額ヲ以テ野口ノ延滞分ト差引キ尙百五十圓出スト云フコトニナリ地所ノ方モ野口カ誠實ニ耕作スルナラ元通り貸セルト云フ事ニナリ圓滿ニ解決カ出來タノテアリマス」(記録一四九一丁裏ヨリ一四九二丁迄)トノ供述又「問解決當時ハ地主ノ方テモ桑樹等ノ拔キ取りハ惡カツタト云フ態度ヲ持ツテ居タ譯タネ答左様テス浦和ノ辯護士カラ御前ノ方モ惡イト云ハレタソウテス其レカラ態度カ緩和シタノテアリマス」トノ供述又ハ被告人福島喜市第一審第三回公判調書中「問……青木ハ土地取上ニ著手シ野口ノ小作地ヨリ桑樹野菜物等ヲ拔取り野口ニ損害ヲ蒙ラシタニ依テ被告等モ其ノ交渉ニ關與シタト云フカ如何答御訊ネノ通り交渉シタ事カアリマス時期ハ其ノ頃テ未タ桑樹等ノ拔取りノ起ラヌ前ニ森下喜左衛門ヲ通シテ野口カ地主カラ小作地カ取上ケラレソウタカラ繼續シテ耕作出求ル様



ニ口ヲ利イテ貫ヒ度イト云フ依頼カアリマシタノテ私モ之ヲ引受ケテ交渉スルコトニナツタノテス  
 (記録一三六三丁) トノ供述及第二審公判調書ニ於ケル同旨ノ供述又ハ上告人第一審第三回公判調書  
 中「……ソシテ野口ノ家テ地主カ畑ヲ散々ニ荒シテ居ルカラ畑へ駈ケ付ケテ吳レト云ハレテ其ノ現場  
 へ參リマシタ處既ニ現場ハ桑樹等ハ抜き取ラレテアリ地主側人夫二、三十八カ引揚ケテ行ツタ後テ:  
 ……」(記録一四〇六丁) 及ヒ右被告人ノ第二審公判調書中同旨ノ供述等ヨリ觀ルモ上告人等ヲ依頼シ  
 タル小作人野口雄平ハ地主青木儀一郎ニ對シ耕地ノ占有侵奪ヲ防キ且發生シタル損害額ノ賠償債權ア  
 ルハ畑トシテ明ナル處ナルヲ以テ上告人等ハ右野口ノ依頼ニ基キ之等ノ權利ノ實行行爲ニ出テタルモ  
 ノナルニヨリ假ニ該權利實行ノ手段方法ニ妥當ナラサルモノアリトスルモ夫レハ脅迫ノ罪ヲ構成スル  
 コトアリトスルモ斷シテ恐喝ノ罪ヲ構成セサルモノナリ然ルニ原審ハ「……桑樹等抜き取りノ損害數百  
 圓ノ賠償方ヲ要請シ……」タル事實ヲ認定シナカラ小作人野口雄平ヨリ地主青木儀一郎ニ對スル耕地  
 ノ占有侵奪ヲ防クニ足ルヘキ占有權ノ存在ヲ認メス且斷罪ノ證據トシテ被告人福島喜市ニ對スル司法  
 警察官聽取書中ヨリ「……小作人野口ヨリ今地主カ畑ニ入り居ルニヨリ直チニ來テクレトノ通知ニ接  
 シ現場ニ臨ミタルニ地主ハ四、五名ノ者ト共ニ盛ニ桑樹ヲ掘り取り畑ヲ平ニシ居タルヨリ立入禁止ノ  
 立札ヲ設ケタルニ其ノ翌朝再通知ニ接シ……」ナル部分ヲ說示シ又野口雄平ニ對スル檢事ノ聽取書中  
 ヨリ「……然ルニ十一月十五日頃青木ノ爲一段七畝餘ノ桑畑ヲ殆ント全部野菜果樹ヲ抜き取ラレタリ

……」ナル部分ヲ說示シ乍ラ小作人野口カ地主青木ノ暴舉ニヨリ耕地ニ付蒙リタル損害額ヲ確定スルコ  
 トナクシテ唯漫然「金四百九十一圓八十二錢ノ債權ヲ拋棄シテ其ノ證書ヲ返還セシメ且現金百五十圓  
 ヲ交付セシメ以テ之ヲ喝取シ」ト認定シタルハ審理不盡理由不備ノ違法アリ到底破毀ヲ免レサルモノ  
 ト信スト云フニ在レトモ

## 【要旨】

被告人ノ原判示第一ノ(一)ノ所爲ハ地主青木儀一郎ノ不法ナル侵害ヲ防止スル爲已ムコトヲ得スシ  
 テ爲サレタルモノナリトノ所論ハ原判示ニ副ハサル主張ナリトス而シテ小作爭議中ニ爲サレタル小作  
 人ノ主張ニシテ其ノ受ケタル損害ヲ小作調定ノ結果地主ヨリ受領スルカ如キハ違法視セラレサルコト  
 言フ俟タスト雖地主カ小作地ノ耕作物ヲ拔取り該土地ヲ取上ケントスル態度ヲ示シタルヨリ小作爭議  
 ヲ惹キ起シ大衆黨ヲ背景トシテ地主居宅附近ノ電柱ニ惡地主ト大書シタル「ビラ」ヲ貼布シ多數ノ人  
 夫ト勞働歌ヲ高唱シ其ノ附近ヲ徘徊シ或ハ人夫ヲ貨物自動車ニ乗セ待機中ナリト放言シ地主ノ身體名  
 譽財產等ニ危害ヲ加フヘキ氣勢ヲ示シテ地主ニ危懼ノ念ヲ抱カシメ損害賠償名義ノ下ニ財物ノ交付ヲ  
 受クルニ於テハ權利行使ノ範圍ヲ超越シ恐喝罪ヲ構成スルモノトス蓋法律ハ特別ノ場合ノ外自力救濟  
 ヲ許ササルヲ以テ假令不法ノ侵害ヲ排除スルヲ目的トシタルニセヨ國家ノ強制力ヲ藉ルコトナク權利  
 行使ヲ名トシ自力救濟ニ訴フカ如キハ法律秩序ノ觀念ニ反スレハナリ原判決ノ認定シタル判示第一ノ  
 (一)ノ事實ハ論旨掲載ノ如クニシテ其ノ舉示セル各證據ヲ綜合スレハ優ニ之ヲ證明スルニ足り其ノ



趣旨トスル所ハ權利行使ノ範圍ヲ超越シタルコト判示自體ニ依リ疑ナク恐喝罪ニ該當スルト同時ニ同罪ノ判示トシテ理由備ハラサル所ナシ又原審ノ被告事件ニ對スル審理ハ十分ニシテ盡ササル所アルヲ見ス更ニ記録ニ徵スルモ原判決ニハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ヘキ顯著ナル事由アルヲ認メス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事黒川涉關與

### ○偽證教唆業務上横領縣會議員選舉罰則違反被告事件

(昭和十一年(れ)第一九二五號 棄却)  
同年十一月十八日第五刑事部判決

【上告人】 被告人 古川惣治 辯護人

深井龍太郎  
大山菊治  
本田熊一

【第一審】 出町區裁判所 富山區裁判所  
【第二審】 富山地方裁判所

### ○判示事項

共犯者ト刑法第六十九條ノ證人

### ○判決要旨

裁判長力證人トシテ出頭シタル者ニ對シ刑事訴訟法第二百一條ニ該當セサルコトヲ認メ證人トシテ宣誓ヲ爲サシメタル以上縱シヤ同人力被告人ト共犯關係アレハトテ刑法第六十九條ニ所謂法律ニ依リ宣誓シタル證人タルヲ妨ケス

【參照】 刑事訴訟法第二百一條 證人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問スヘシ

- 一 十六歳未満ノ者
  - 二 宣誓ノ本旨ヲ解スルコト能ハサル者
  - 三 現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アル者又ハ其ノ嫌疑アル者
  - 四 第四百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ニシテ證言ヲ拒マサルモノ
  - 五 第四百八十八條ノ場合ニ於テ證言ヲ拒マサル者
  - 六 被告人ノ雇人又ハ同居人
- 前項第三號ノ規定ノ適用ニ付テハ犯人藏匿ノ罪、證憑湮滅ノ罪、偽證ノ罪、虛偽ノ鑑定通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ノ犯人ハ其ノ本犯ノ共犯ト看做ス

共犯者ト刑法第六十九條ノ證人



第一項ニ掲クル者宣誓ヲ爲シタルトキト雖其ノ供述ハ證言タルノ效力ヲ妨ケラ  
ルコトナシ

刑法第六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以  
上十年以下ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役六月ニ處ス第二審ニ於ケル訴訟費用  
中證人横井豐作 藤田長作 三輪與吉 辻仁市ニ支給シタル分ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタ  
リ

被告人ハ

第一 昭和五年十一月以來居村有限責任水島村信用購買販賣組合ニ書記トシテ勤務シ同組合長浦田菊次郎ニ代リ同組  
合ノ金錢收受貸付取立保管記帳等一切ノ事務ヲ擔任シ殊ニ同組合カ其ノ取引銀行ヨリ預金ノ拂戻ヲ受クルニ付テハ  
被告人自ラ右組合長ニ代リ同組合長名義ノ小切手ヲ發行シ自由ニ預金ノ拂戻受領ヲ爲シ得ルコトトナリ居タルヲ奇  
貨トシ該業務ニ從事中犯意繼續シテ

(一) 昭和九年三月三日居村池田與一郎ニ對シ自己名義ヲ以テ金四百圓ヲ貸與スルニ際シ同日右組合長名義同組合  
ノ預金先ナル高岡銀行津澤支店渡額面四百圓ノ小切手ヲ發行シ同組合事務所ニ於テ右與一郎ノ代理人吉田梅太郎  
ニ之ヲ交付シ以テ自己名義ニテ同額ノ金員ノ貸付ヲ爲シ即日該小切手ニヨリ同銀行支店ヨリ右組合ノ預金額中同  
額ノ拂込ヲ受ケシメテ擅ニ該金員ヲ横領シ

(二) 其ノ後昭和十年十月二十一日迄ノ間十數回ニ互リ業務上自己保管ニ係ル右組合所有ノ現金六百六十四圓二十  
二錢ヲ擅ニ居村及西礪波郡津澤町等ニ於テ遊興費其ノ他自己ノ用途ニ費消横領シ

第二 昭和十年九月二十五日行ハレタル富山縣會議員選舉ニ際シ選舉人ナリシモ居郡タル西礪波郡ヨリ立候補セル吉  
田六佐ノ法定運動員トシテ選任セラレタル者ニ非サルニ不拘同議員候補者ヲシテ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ

(一) 同月七、八日頃前記水島村信用購買販賣組合事務所ニ於テ選舉人脇坂正ニ對シ同候補者ノ爲ニ投票方ヲ依頼  
シ

(二) 同月十五日頃同所ニ於テ選舉人大谷長藏ニ對シ同様依頼シ

(三) 同月十六日頃同月二十二日頃ノ二回ニ互リ西礪波郡津澤町料理店川端樓ニ於テ非選舉人藤田長作ニ對シ同候  
補者ノ爲ニ投票取纏方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ合計金四圓八十錢餘ニ相當スル酒食ノ饗應ヲ爲シ

(四) 同月十八日及同月二十三日頃ノ二回ニ互リ前記組合事務所ニ於テ非選舉人中山源二ニ對シ同様依頼シ且二回  
目ニ依頼ノ際ハ右投票取纏ノ報酬トシテ後日酒食ノ饗應ヲ爲スヘキ旨約束シ

(五) 同月二十日頃前同所ニ於テ選舉人秋元與平ニ對シ同候補者ニ投票方ヲ依頼シ

(六) 同月二十二日頃前記川端樓ニ於テ選舉人横井豐作ニ對シ同様依頼シ其ノ報酬トシテ約金三圓餘ニ相當スル酒  
食ノ饗應ヲ爲シ

(七) 同日同所ニ於テ選舉人澤田外次郎同辻仁市ニ對シ同候補者ノ爲ニ投票並投票取纏方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ  
一人前約金一圓五十錢相當ノ酒食ノ饗應ヲ爲シ

而シテ右ノ内饗應及其ノ約束ヲ爲シタル點ハ犯意繼續ニ係ル

第三 其ノ後前記第一第二ノ事實ニ付縣會議員選舉罰則違反並業務上横領ノ罪アリトシテ出町區裁判所ニ於テ有罪判



決ヲ受ケタルヨリ當廳ニ對シ控訴ノ申立ヲ爲シ更ニ審判ヲ受クルコトナリタル處右第二ノ(三)ノ如ク同年九月二十二日頃前記川端樓ニ於テ非選舉人藤田長作ニ對シ吉田候補者ノ爲メニ投票取纏方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ酒食ノ饗應ヲ爲シタル事實アルニ不拘昭和十一年二月三日ノ當審第一回公判ニ於テ極力該事實ノ存在ヲ否定シタル結果藤田長作ヲ證人トシテ昭和十一年二月二十七日當審第二回公判ニ於テ喚問取調ヲ爲ス旨決定セラルルヤ被告人ハ同證人ヲシテ故意ニ不實ノ證言ヲ爲サシメ以テ自己ニ有利ナル判決ヲ受ケンコトヲ企テ第二回公判期日タル同月二十六日前記信用組合事務所ニ於テ右長作ニ對シ「明日愈々富山地方裁判所へ證人トシテ出廷シ貰フコトナリタル處自分ハ今度ハ正直一天張ニテ押シ通サント思ヒ居ルカ實際自分ハ川端樓ニテ君達ニ頼ミタル覺ナキ故君達ニ是々ノ證言ヲ爲シ吳レト指圖ハ爲シ得サルモ法廷ニテ君達ト對決シテモ正直ニ言ヒ張ル積リナリ故ニ君達ハ自分ノ意ニ合セサル事ヲ證言セハ偽證罪トナルヤモ知レサルニヨリ萬一左様ノコトニ立至ルトモ之カ爲後日自分ヲ恨ミ吳レルナ」ト申向ケ以テ暗ニ同人カ證人トシテ取調ヲ受クル際ニハ右事實ト相反スル證言ヲ爲サンコトヲ依囑シタル結果同人ヲシテ事實ニ反スル證言ヲ爲サンコトヲ決意スルニ至ラシメ遂ニ翌二十七日ノ該被告人ニ對スル縣會議員選舉罰則違反並業務上横領被告事件ノ控訴審タル當廳第二回公判ニ於テ證人トシテ宣誓ノ上「昭和十年九月二十二日川端樓ニ於テ被告人ヨリ吉田候補ノ爲投票取纏方ノ依頼ヲ受ケ其ノ報酬トシテ被告人ヨリ酒食ノ饗應ヲ受ケタルカ如キ事實之無キ旨」虚偽ノ供述ヲ爲サシメ以テ偽證ヲ教唆レタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ所爲中判示第一ノ業務上横領ノ點ハ刑法第二百五十三條第五十五條判示第二ノ所爲中無資格選舉運動ノ點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第二百二十九條第九十六條第一項投票ヲ得シムル目的ヲ以テ選舉人ニ對シ個々面接ヲ爲シタル點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第二百二十九條第九十八條第二項當選ヲ得シムル目的ヲ以テ投票並投票取纏方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ饗應ヲ爲シ及其ノ約束ヲ爲シタル點ハ府縣制第四

十條衆議院議員選舉法第十二條第一項第一號刑法第五十五條ニ各該當シ無資格選舉運動個々面接饗應及其ノ約束ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニヨリ重キ饗應及其ノ約束ノ罪ノ刑ニ從ヒ且所定刑中懲役刑ヲ選擇スヘク判示第三ノ偽證教唆ノ點ハ同法第六十九條第六十一條ニ該當シ以上第一乃至第三八同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ則リ最モ重キ偽證教唆ノ罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ諸般ノ事情ヲ考量シ被告人ヲ懲役六月ニ處シ當審ニ於ケル訴訟費用中主文掲記ノ分ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニヨリ被告人ニ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人深井龍太郎 大山菊治 本田熊一上告趣意書第一點原判決ハ判示第三事實ニ付法律ノ解釋適用ヲ誤リタル違法アリ原判決ハ判示理由第三ニ於テ被告人カ本件第二審公判證人藤田長作ニ對シ虚偽ノ事實ヲ證言セシムヘキ旨依囑シタル事實アリトシテ其ノ偽證ノ教唆犯ナリト認定シタリ然レトモ右證人トシテ訊問セラレタル藤田長作ハ判示第二ノ(三)及一件記録中ノ略式命令(記録六五七丁以下)ニ依リ明カナル如ク本件被告人ヨリ饗應ヲ受ケタルモノナリト云フニ在リテ判示第二ノ(三)事實ニ付共犯ノ關係アルモノナルヲ以テ同人ヲ證人トシテ訊問スルニ當リテハ刑事訴訟法第二百一一條第一項第三號ニ依リ宣誓ヲ爲サシメスシテ訊問スヘキモノ也故ニ之ニ違反シテ宣誓ヲ爲サシムルモ其ノ宣誓ハ



實質上無効ニシテ法律上宣誓タルノ效力ナキモノトス尤モ同條第三項ニ依レハ此ノ場合宣誓ヲ爲シタル供述ハ證言タルノ效力ヲ妨ケラルルコトナキ旨ノ規定アルモ該規定ハ舊刑事訴訟法當時此ノ旨ノ規定ナキ爲(舊刑事訴訟法第二百二十二條乃至第二百二十四條第九十條參照)其ノ證言カ無効トナリ之ヲ證據トシテ援用シタル判決カ續々トシテ破毀セラレタル結果其ノ防止ノ爲便宜上設ケラレタルモノニシテ本來現行刑事訴訟法ニ於テハ宣誓ノ有無ニ拘ハラズ證言タルモノナレハ宣誓スヘカラサル證人カ宣誓スルモ其ノ證言ハ證言タルノ效力ヲ妨ケラレサルコトヲ規定シタルニ止マリ其ノ宣誓ヲ有效且適法ノモノト爲シタルモノニアラス從テ右藤田長作カ本件ニ審公判ニ於テ證人トシテ爲シタル宣誓ハ法律上宣誓タルノ效力ナキモノニシテ假リニ虛偽ノ陳述ヲ爲シタリトスルモ偽證罪ト爲スヘカラサルモノ也加之刑法第六十九條ニ依レハ「法律ニ依リ宣誓シタル證人」トアルヲ以テ刑事訴訟法上宣誓ヲ爲サシメスシテ訊問スヘキ證人ニ對シ宣誓ヲ爲サシメタルトキハ法律ニ依リ宣誓シタル證人ニアラスシテ却テ法律ニ違背シテ宣誓セシメタル證人ナルカ故ニ之カ虛偽ノ陳述ヲ爲スモ刑法上偽證罪トナルヘキモノニアラス然ラハ假リニ被告人カ右藤田長作ニ對シ虛偽ノ事實ヲ證言セシムヘク依頼シタル事實アリトスルモ本犯タル偽證罪ニシテ犯罪トナラサル以上其ノ教唆罪ノ成立セサルハ當然ノ事理ニ屬ス然ルニ原判決ハ被告人ニ對シ前記ノ如ク偽證教唆ノ犯行ヲ認定シタルモノナレハ右法律ノ解釋適用ヲ誤リタル違法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノ也ト謂フニ在レトモ

## 【要旨】

記録ニ徴スレハ原審裁判長ハ本案被告事件ニ付所論證人藤田長作ニ對シ刑事訴訟法第二百一條ノ規定ニ該當スルヤ否ヲ取調ヘタル上之レニ該當セサルコトヲ認め證人トシテ宣誓ヲ爲サシメタルモノナルヲ以テ右ハ刑法第六十九條ニ所謂法律ニ依リ宣誓シタル證人ニ該當シ縱シヤ同證人カ被告人ト所論ノ如ク共犯關係ヲ有スレハトテ右宣誓ヲ目シテ法律ニ依ラサルモノト做スヘキニ非ス從テ同證人カ裁判長ノ訊問ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル以上偽證罪ヲ構成スルコト勿論ナリ然レハ原審カ被告人ノ判示事實ニ對シ偽證教唆罪ノ成立ヲ認メタルハ固ヨリ相當ニシテ原判決ニハ所論ノ如キ違法アルコトナシ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事黒川涉關與

## ○業務上横領被告事件

(昭和十一年(れ)第二〇一三號  
同年十一月二十日第四刑事部判決 棄却)

未決勾留日數ノ算入ト刑ノ執行



【上告人】 被告人 中村定吉 辯護人 岡崎熊三郎

【第一審】 岐阜區裁判所 【第二審】 岐阜地方裁判所

○ 判示事項

未決勾留日數ノ算入ト刑ノ執行

○ 判決要旨

本刑ニ相當スル未決勾留日數ヲ本刑ニ算入スル確定判決アリタルトキハ右本刑ノ執行ヲ終リタルモノト解スヘキモノトス

【參照】 刑法第二十一條 未決勾留ノ日數ハ其ノ全部又ハ一部ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得

同法第五十六條第一項 懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ五年内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキハ之ヲ再犯トス

○ 事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役十月ニ處ス但第一審ニ於ケル未決勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ大正十三年頃ヨリ昭和八年頃迄一宮市天王町ニ於テ金錢貸付債權取立等ノ業務ニ從事中犯意ヲ繼續シテ

第一 昭和六年十月頃同市上本町通一丁目五藤濱太郎ヨリ小坂井稔事小坂井叙ニ對スル物件(五號金庫二個、佛壇一

本、自動自轉車一臺)引渡請求ニ關スル訴訟行爲ヲ依頼サレ該物件ニ對スル假處分申請ニ要スル保證金トシテ同人

ヨリ託サレタル現金四百圓ノ内金二百圓ヲ昭和六年十二月二十八日名古屋供託局一宮出張所ニ供託シ假處分ヲ爲シ

タルモ其ノ後昭和七年一月十一日右叙二トノ間ニ裁判上ノ和解成立シタルヲ以テ昭和九年五月十一日頃該供託金ノ

下付ヲ受ケナカラ委任者濱太郎ニ交付セスシテ業務上占有中同年十月十八日頃迄ノ間ニ一宮市内ニ於テ擅ニ着服横

領シ

第二 昭和六年十月頃同市明治通二丁目小島市九郎ヨリ同市杉戸町林曹五郎ニ對スル約束手形金一千圓(證第五八號)

ノ取立方ノ委任ヲ受ケ其ノ際取立ノ便宜上該債權ノ信託讓渡ヲ受ケ自己ノ名義ヲ以テ取立テタル金員ハ之ヲ右市九

郎ニ引渡スヘキ義務アルニ拘ラス昭和七年一月頃ヨリ昭和八年十二月頃迄ノ間數回ニ互リ右曹五郎ヨリ取立テタル

金員中約二百圓八十錢ヲ其ノ頃一宮市内ニ於テ擅ニ着服横領シ

タルモノナリ

尙被告人ハ昭和五年二月六日名古屋控訴院ニ於テ瀆職罪ニ依リ懲役四月ニ處セラレ未決勾留日數中右刑期ニ相當スル

日數ヲ本刑ニ算入セラレ其ノ當時執行ヲ終了シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百五十三條第五十五條ニ該當スルヲ以テ業務上横領ノ一罪トシテ處斷スヘ

ク尙被告人ハ判示前科アルヲ以テ同法第五十六條第五十七條ヲ適用シ右罪ニ付キ定メタル刑ニ累犯ノ加重ヲ爲シタル

刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役十月ニ處スヘク尙同法第二十一條ニ則リ原審ニ於ケル未決勾留日數中三十日ヲ右本刑

ニ算入スヘク訴訟費用ニ付キ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ヲ適用シ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○ 主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

未決勾留日數ノ算入ト刑ノ執行



○理由

一五〇〇 (一五)

辯護人岡崎熊三郎上告趣意書第一點原判決ハ其ノ理由ニ於テ「被告人ハ昭和五年二月六日名古屋控訴院ニ於テ瀆職罪ニ依リ懲役四月ニ處セラレ未決勾留日數中刑期ニ相當スル日數ヲ本刑ニ算入セラレ其ノ當時執行ヲ終了シタルモノナリ」ト判示シ法律適用ニ於テ「尙被告人ハ判示前科アルヲ以テ刑法第五十六條第五十七條ヲ適用シ右罪ニ付キ定メタル刑ニ累犯加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役十月ニ處スヘク」示々ト説示セラレタリ抑モ累犯加重ヲ爲スニ付テハ前犯ノ罪ニ付懲役刑ヲ言渡サレタルコトヲ以テ足レリトセス現實ニ其ノ刑ヲ執行セラレタルカ又ハ其ノ執行ノ免除アリタルニ拘ハラス尙更ニ五年内ニ有期懲役ニ處スヘキ罪ヲ犯シタルモノナルコトヲ要ス而シテ懲役刑ノ執行ハ監獄ニ拘留シ定役ニ服セシメテ之ヲ爲スコトハ刑法第十二條ノ規定スルトコロナリ被告人ハ前ニ瀆職罪ニ因リ懲役四月ノ言渡ヲ受ケタリト雖判示ノ如ク其ノ刑ノ全部ハ未決勾留日數ヲ以テ通算セラレ實際ニ於テ毫モ執行ヲ受ケタルコトナシ即被告人ハ刑ノ執行終了後五年内ニ罪ヲ犯シタルモノニ非ス果シテ然ラハ前ニ言渡サレタル懲役刑カ現實ニ執行セラレス其ノ全部ヲ未決勾留日數ト通算セラレタルコトヲ認メナカラ累犯加重ヲ爲シタル原判決ハ累犯加重ニ關スル法ノ解釋ヲ誤リタル不法アリ此ノ不法ハ判決ニ影響ヲ及ホスヘキコト勿論ナリトスト云フニ在レトモ

【要旨】

未決勾留日數ノ算入ハ刑ノ執行方法ノ一種トシテ之ヲ爲スモノナレハ本刑ニ相當スル期間ノ未決勾留

日數ヲ算入スル旨ノ判決確定シタルトキハ右本刑ノ執行ヲ終リタルモノト解スヘキモノトス故ニ原判決カ被告人カ昭和五年二月六日名古屋控訴院ニ於テ瀆職罪ニ依リ懲役四月ニ處セラレ未決勾留日數中右本刑ニ相當スル日數ヲ本刑ニ算入スル旨ノ確定判決ヲ受ケタル事實ニ基キ本件犯行ニ基キ累犯ノ加重ヲ爲シタルハ洵ニ正當ニシテ所論ノ如キ違法アルコトナシ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事佐々波與佐次郎關與

○偽證教唆古物商取締法違反被告事件 (昭和十一年(レ)第一二〇八號 棄却)

【上告人】 被告人 横滿重太 辯護人 植木昇

【第一審】 津山區裁判所 【第二審】 岡山地方裁判所

正式裁判請求ノ取下ト偽證罪ノ成否 被告人ノ自己ノ刑事被告事件ニ關スル  
偽證教唆ト其ノ罪責

一五〇一

(一五)



○判示事項

正式裁判請求ノ取下ト偽證罪ノ成否——被告人ノ自己ノ刑事被告事件ニ關スル偽證教唆ト其ノ罪責

○判決要旨

一 被告人カ略式命令ニ對スル正式裁判ノ請求ヲ取下クルモ其ノ取下ハ當該公判手續ニ於テ犯サレタル偽證罪ニ何等ノ影響ヲ及ホスモノニ非ス【要旨第一】

二 被告人カ自己ノ刑事被告事件ニ付他人ヲ教唆シテ偽證セシメタルトキハ偽證教唆罪ノ責ヲ負フヘク被告人自身カ虚偽ノ陳述ヲ爲スモ罪ト爲ラサルノ故ヲ以テ其ノ罪責ヲ免ルルコトヲ得ス【要旨第二】

【參照】 刑事訴訟法第九十六條 證人ニハ宣誓ヲ爲サシムヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス  
刑法第六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス  
同法第六十一條第一項 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ第一ノ罪ニ付懲役三月ニ第二ノ罪ニ付罰金二圓ニ各處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ二日間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ自動車營業ノ傍ラ古物商ヲ營ミ居ルモノナルトコロ

第一 昭和七年無免許ニテ自動車ヲ運轉シタル廉ヲ以テ自動車取締令違反罪ニ依リ二回處刑ヲ受ケタルニ拘ラス又モヤ同十年三月九日岡山縣久米郡加美村大字原田ヨリ同郡三保村大字下打穴中迄無免許ニテ自動車ヲ運轉シ檢擧取調ヘラレタルカ當時被告人ハ自動車運轉者ヲ志願シ居リタルトコロヨリ若シ右事實ニ付更ニ處罰セラルルニ於テハ自動車運轉免許ヲ受ケ得サルニ至ルヘキコトヲ憂慮シ居リタルトコロ遂ニ津山區裁判所ニ自動車取締令違反被告事件トシテ起訴セラレ同年八月三十一日同區裁判所ニ於テ右無免許運轉ノ事實ニ付略式命令ヲ以テ罰金六十圓ニ處セラレタルヨリ被告人ハ右略式命令ニ對シ正式裁判ノ請求ヲ爲シ同區裁判所ノ公判ニ繫屬中同年十二月五日右事件ノ第一回公判ニ於テ被告人側ヨリノ申請ニ依リ同年十二月九日ノ公判ニ於テ原審相被告人花房靖カ證人トシテ召喚訊問セララルコトトナルヤ被告人ハ有罪ノ判決ヲ免レンカ爲共ノ頃同縣久米郡加美村大字原田ナル右花房靖方ニ到リ同人ニ對シ同人カ同月九日津山區裁判所ノ公判廷ニ於テ證人トシテ訊問セララルコトニ爲リタルヨリ右公判ニ於テ「同年三月九日自分(花房)ハ久米郡三保村大字下打穴中ノ眞菰池附近ノ國道ニ於テ被告人ニ出會ヒタルカ其ノ際被告人ハ自動車ヲ運轉シ居ラサリシ」旨虚偽ノ陳述ヲ爲シ吳レ度キ旨依頼シテ偽證ヲ教唆シ因テ右花房靖ヲシテ同年十二月九日同區裁判所ノ公判ニ於テ宣誓ノ上其ノ事實ナキニ拘ラス「同年三月九日久米郡三保村大字下打穴下

正式裁判請求ノ取下ト偽證罪ノ成否 被告人ノ自己ノ刑事被告事件ニ關スル 偽證教唆ト其ノ罪責



ヨリ自轉車ニ乘リ歸宅ノ途中同日午前十一時頃同村下打穴中眞菰池北方國道ニ於テ龜甲方面ヨリ來リタル橫滿重太所有ノ自轉車ニ出會シタルカ其ノ際重太ハ右側助手席ニ腰掛ケ居リテ自分ハ言葉ヲ交シタルモ自轉車ヲ運轉シ居ラサリシ旨虛偽ノ事實ヲ陳述セシメ以テ偽證スルニ至ラシメ

第二 同十年八月下旬頃被告人肩書居宅ニ於テ延原嘉雄ヨリ同人所有ノ中古自轉車一臺ヲ代金五圓ニテ買受ケタルニ拘ラス其ノ旨成規ノ帳簿ニ記載セサリシモノナリ

而シテ被告人ハ前示自轉車取締令違反被告事件ニ付津山區裁判所ニ於テ略式命令ヲ以テ罰金六十圓ニ處セラレタルニ對シ正式裁判ヲ請求シタルトコロ昭和十一年二月十三日之カ取下ヲ爲シ該裁判ハ確定シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示第一ノ所爲ハ刑法第六十一條第一項第六十九條ニ判示第二ノ所爲ハ古物商取締法第十一條第一項第二十條ニ各該當スルトコロ判示第一ノ所爲ハ前示確定裁判アリタル自轉車取締令違反ノ犯罪ト刑法第四十五條後段ノ併合罪ノ關係アルヲ以テ同法第五十條ニ依リ之ニ付其ノ所定期限範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役三月ニ處スルヲ相當トシ判示第二ノ所爲ニ付刑法施行法第十九條第二條第二十條ヲ適用シ其ノ所定罰金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金二圓ニ處シ刑法第十八條ニ則リ主文ノ如ク右罰金不完納ノ場合ニ於ケル勞役場留置ノ期間ヲ定ムヘキモノトス

●主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

●理 由

辯護人植木昇上告趣意書第一點原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由

アルモノトス原判決ハ判示理由第一ニ於テ「被告人ハ昭和七年中無免許ニテ自轉車ヲ運轉シタル廉ヲ以テ自轉車取締令違反罪ニ依リ二回處刑ヲ受ケタルニ拘ラス又モヤ同十年三月九日岡山縣久米郡加美村大字原田ヨリ同郡三保村大字下打穴中迄無免許ニテ自轉車ヲ運轉シ檢舉取調ヘラレタルカ當時被告人ハ自轉車運轉者ヲ志願シ居リタル處ヨリ若シ右事實ニ付更ニ處罰セララルニ於テハ自轉車運轉免許ヲ受ケ得サルニ至ルヘキコトヲ憂慮シ居タルトコロ遂ニ津山區裁判所ニ自轉車取締令違反被告事件トシテ起訴セラレ同年八月三十一日同區裁判所ニ於テ右無免許ノ運轉ノ事實ニ付略式命令ヲ以テ罰金六十圓ニ處セラレタルヨリ被告人ハ右略式命令ニ對シ正式裁判ノ請求ヲ爲シ同區裁判所ノ公判ニ繫屬中同年十二月五日右事件ノ第一回ノ公判ニ於テ被告人側ヨリノ申請ニヨリ同年十二月九日ノ公判ニ於テ原審(第一審)相被告人花房靖カ證人トシテ召喚訊問セララルコトニナルヤ被告人ハ有罪ノ判決ヲ免レンカ爲其ノ頃同縣久米郡加美村大字原田ナル右花房靖方ニ到リ同人ニ對シ同人カ同月九日津山區裁判所ノ公判ニ於テ證人トシテ訊問セララルコトニ爲リタルヨリ右公判ニ於テ「同年三月九日自分(花房)ハ久米郡三保村大字下打穴中ノ眞菰池附近ノ國道ニ於テ被告人ニ出會ヒタルカ其ノ際被告人ハ自轉車ヲ運轉シ居ラサリシ旨虛偽ノ陳述ヲ爲シ吳レ度キ旨依頼シ以テ偽證ヲ教唆シ因テ右花房靖ヲシテ同年十二月九日同區裁判所ノ公判ニ於テ宣誓ノ上其ノ事實ナキニ拘ラス」同年三月九日久米郡三保村大字下打穴ヨリ自轉車ニ乘リ歸宅ノ途中同日午前十一時頃同村大字下打穴中眞菰池北方國道ニ於

正式裁判請求ノ取下ト偽證罪ノ成否 被告人ノ自己ノ刑事被告事件ニ關スル  
偽證教唆ト其ノ罪責



テ龜甲方面ヨリ來リタル横溝重太所有ノ自動車ニ出會シタルカ其ノ際重太ハ右側助手席ニ腰掛ケ居リテ自分ハ言葉ヲ交シタルモ自動車ヲ運轉シ居ラサリシ旨虚偽ノ事實ヲ陳述セシメ以テ偽證スルニ至ラシメタリト判示シ被告人ヲ處斷シタリ然レトモ被告人カ昭和十年三月九日無免許ヲ以テ自動車ヲ運轉シタル廉ヲ以テ自動車取締令違反被告事件トシテ起訴セラレ同年八月三十一日津山區裁判所ニ於テ略式命令ヲ以テ罰金六十圓ニ處セラレタルヲ不服トシテ正式裁判ノ請求ヲ爲シタルモ該正式裁判ノ第一審公判ノ未タ終結セサル昭和十一年二月十三日正式裁判ノ請求ヲ取下ヲ爲シ前述略式命令ハ確定シタルモノナルコト記録上明カニシテ原審ノ又認定スル事實ナリ然ラハ略式命令ニ對スル正式裁判ノ請求取下ニヨリ略式命令ノ確定ト共ニ正式裁判ノ審理手續ハ全然消滅ニ歸シ且審理手續違法ニシテ無効ナル場合ニ國家審判權カ尙存在シ更ニ有效ナル審理手續ヲ開始シ得ルニ反シ國家ノ右被告事件ニ對スル審判權モ亦消滅スルニ至ル結果再ヒ之カ請求又ハ審判ヲ爲シ得サルヘク正式裁判ノ公判手續モ亦最初ヨリ存在セサリシコトトナルヘキニヨリ假令取下前ノ公判審理中證人カ背誓ノ證言ヲナシタリトスルモ其ノ取下ニヨリ國家ノ審判ヲ誤ラシムルカ如キ抽象的危險存スルモノト謂フヲ得サルヘク行爲ノ違法性ハ排除スルニ至ルヘキモノナルカ故ニ斯ル場合尙宣誓義務ニ違反シタルモノトシテ偽證行爲ノ獨立的存在ヲ認メ偽證罪ノ成立ヲ認ムルカ如キハ偽證罪ノ處罰カ國家司法作用ノ保護ヲ目的トスルニアルヲ沒却スルコト甚タシキモノト謂ハサルヘカラス然ラハ被告人ノ所爲モ亦違法性ヲ缺キ偽證教

唆トシテノ存在ヲ失フニ至ルヘシ然ルニ原審ハ斯ル重大ナル事實ヲ誤認シ被告人ヲ偽證教唆罪トシテ處斷シタルハ違法ニシテ破毀サルヘキモノナリト云フニ在リ  
 仍テ按スルニ原判決カ證據ヲ舉示シテ認定セル事實ニ依レハ被告人ハ昭和十年三月九日無免許ニテ自動車ヲ運轉シタル廉ヲ以テ起訴セラレ同年八月三十一日津山區裁判所ニ於テ右違反事實ニ付略式命令ニ依リ罰金六十圓ニ處セラレタルヲ不服トシテ正式裁判ノ請求ヲ爲シタル者ナル處同事件カ右區裁判所ノ公判ニ繫屬中花房靖カ右事件ノ第二回公判ニ證人トシテ召喚訊問セラルルコトト爲ルヤ同人ニ對シ「同年三月九日自分(花房)ハ久米郡三保村大字下打穴中ノ眞菰池附近ノ國道ニ於テ被告人ニ出會ヒタルカ其ノ際被告人ハ自動車ヲ運轉シ居ラサリシ旨虚偽ノ陳述ヲ爲シ吳レ度キ旨教唆シテ同人ヲシテ同年十二月九日同區裁判所ノ第二回公判ニ於テ宣誓ノ上右趣旨ノ偽證ヲ爲サシメタリト云フニ在リ而シテ被告人カ未タ右區裁判所ノ判決ナキ以前タル昭和十一年二月十三日正式裁判ノ請求ヲ取下ケタルコトハ亦原判決ノ認ムル所ナリトス然レトモ苟クモ法律ニ依リ宣誓シタル證人カ虚偽ノ陳述ヲ爲ストキハ其ノ陳述カ裁判ノ結果ニ影響ヲ及ホスノ虞アルト否トニ拘ラス偽證罪ヲ構成スルモノナルコトニ付テハ夙ニ本院判例ノ存スル所ナルノミナラス既ニ一旦偽證罪カ成立シタル以上爾後被告人ノ死亡親告罪ニ於ケル告訴ノ取消等ニ因リテ其ノ履踐シ來レル手續無用ニ歸シ公訴棄却ノ裁判ヲ爲ササルヘカラサルニ至リタル場合ト雖其ノ成立シタル偽證罪カ消滅スルコトナキコトハ賭易キノ理ト謂ハサル

正式裁判請求ノ取下ト偽證罪ノ成否 被告人ノ自己ノ刑事被告事件ニ關スル  
 偽證教唆ト其ノ罪責



【要旨第一】

一五〇八 (一五)

ヘカラス然ラハ本件ニ在リテ被告人カ正式裁判ノ請求ヲ取下ケタル結果其ノ取下マテニ爲サレタル公判手續ハ無用ニ歸スルニ至リタリトハ云ヘ當該公判手續ニ於テ犯サレタル偽證罪カ消滅スルコトナキコト勿論ナレハ原判決カ前記判示偽證ノ事實ヲ認定シ之ヲ刑法第百六十九條ニ問擬シタルハ相當ニシテ毫モ所論ノ如キ違法アルモノト謂フヘカラス論旨ハ理由ナシ

第二點原判決ハ法令ノ解釋適用ヲ誤リ罪トナラサル事實ニ對シ有罪ノ言渡ヲ爲シタル違法アルモノトス原判決ハ被告人ハ昭和十年三月九日無免許ニテ自動車ヲ運轉シ津山區裁判所ニ自動車取締令違反被告事件トシテ起訴セラレ同年八月三十一日同區裁判所ニ於テ右無免許運轉ノ事實ニ付略式命令ヲ以テ罰金六十圓ニ處セラレタルヨリ正式裁判ノ請求ヲ爲シ同年十二月九日ノ公判ニ於テ證人(第一審相被告人)花房靖ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シ吳レ度キ旨依頼シ以テ偽證ヲ教唆シタル旨判示シタリ然レトモ刑事被告人ハ自ラ其ノ被告事件ニ付虛偽ノ陳述ヲ爲スモ罪トナラサルモノニシテコハ刑事司法ノ公共的利益ノ被告人自ラノ處罰ヲ免レントスルノ人情ニ對スル讓歩ヲ認メタル結果身分ニヨリ犯罪ヲ構成セサルコトニ原因シ單ニ人的處罰阻却原因ヲ認メタル結果ニアラス而シテ行爲者ノ身分ニヨリ犯罪ヲ構成セサル場合ニアリテハ行爲者カ實行行爲者ニ對シ加功スルモ其ノ加功行爲ハ加功者ニ身分アル限リ依然處罰サルヘキモノニアラスシテ唯被加功者カ實行行爲ヲ自ラ爲シタルトキハ單獨處罰ヲ受クルニ過キササルコト明白ナルカ故ニ被告人カ自己ノ被告事件ニ關シ他人ヲシテ虛偽ノ陳述ヲ爲サシムルモ

亦自ラ虛偽ノ陳述ヲ爲スト同シク何等罪責ヲ負フヘキ理由ナシ刑法第百六十九條ハ他人ノ刑事被告事件ニ關スルコトヲ必要トシ自己ノ刑事被告事件ニ付テハ偽證教唆罪成立シ得サルモノトス故ニ被告人横滿重太カ第一審相被告人花房靖ヲ教唆シテ虛偽ノ陳述ヲ爲サシメタリトスルモ右花房靖ノ偽證ニ對シ偽證教唆罪ノ成立ヲ認メ得サルニ拘ラス原審カ被告人ノ所爲ニ對シ刑法第百六十九條同第六十一條第一項ヲ適用シ偽證教唆罪ノ成立ヲ認定シタルハ全ク法令ヲ不當ニ解釋シ其ノ適用ヲ誤リ罪トナラサル事實ニ對シ有罪ノ言渡ヲ爲シタル違法アルモノト謂フヘク破毀スヘキモノナリト云フニ在リ

按スルニ被告人カ自己ノ刑事被告事件ニ付虛偽ノ陳述ヲ爲スモ何等ノ犯罪ヲ構成スルモノニ非サルコト洵ニ所論ノ如シト雖是レ決シテ右虛偽ノ陳述ヲ爲ス行爲ヲ目シテ被告人ノ權利ニ屬スルモノト解スルカ爲ニ非サルハ勿論條理違反性ヲ有セサルモノト解スルカ爲ニモ非スシテ唯被告人タルノ身分ニ顧ミテ眞實ノ陳述ヲ爲スヘキコトヲ期待スルコトノ不可能事ニ屬スルカ故ニ責任阻却事由アル一場合トシテ法律上之ヲ不問ニ付スルノミサレハ此ノ如キ責任阻却ノ事由ハ被告人單獨ニテ虛偽ノ陳述ヲ爲ス場合ニノミ認メラルヘキモノニシテ他人ヲ教唆シテ虛偽ノ陳述ヲ爲サシムル偽證教唆ノ如キ場合ニマテ擴張セラルヘキモノニ非ス蓋シ被告人ノ教唆ニ因リテ偽證シタル他人專ラ刑セラレ之ヲ教唆シタル被告人獨リ免ルルカ如キハ國民道義ノ觀念上許サルヘキコトニ非サレハナリ從來本院判例カ刑事被告人ニ於テ自己ノ刑事被告事件ニ付他人ヲ教唆シテ偽證セシムルハ辯護權ノ範圍ヲ逸脱シタルモノトシ

【要旨第二】

正式裁判請求ノ取下ト偽證罪ノ成否 被告人ノ自己ノ刑事被告事件ニ關スル  
偽證教唆ト其ノ罪責

一五〇九

(一五)



テ其ノ刑責ヲ認メサルヘカラスト爲ス所以ハ全ク此ノ謂ニ外ナラス然ルニ被告人自ラ自己ノ刑事被告事件ニ付虚偽ノ陳述ヲ爲スモ罪ト爲ラサル以上他人ヲ教唆シテ偽證セシメタレハトテ刑責ヲ負フ理由ナシト主張スル所論ノ如キニ至リテハ畢竟國民道義觀念ニ徹セサル噤語ノミ論旨ハ理由ナシ右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事武松久吉關與

○誣告被告事件

(昭和十一年(九)第二〇七八號  
同年十二月二十四日第四刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 浦田 端 辯護人 阿比留兼吉

【第一審】 殿原區裁判所 【第二審】 長崎地方裁判所

○判示事項

他管ノ司法警察官ニ對スル申告ト誣告罪ノ成立

○判決要旨

長崎縣殿原警察署長ヲシテ刑事處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ福岡縣警察部長ニ對シ不實ノ申告ヲ爲スモ誣告罪ノ成立ヲ妨ケサルモノトス

他管ノ司法警察官ニ對スル申告ト誣告罪ノ成立



【参照】 刑法第七十二條 人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虚偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ第六十九條ノ例ニ同シ  
同法第六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

○ 事 實

第二審ハ左記ノ如キ事實ヲ認定シ誣告罪トシテ被告人ヲ懲役八月ニ處斷シタリ  
被告人ハ長崎縣嚴原警察署長山口牛六ヲシテ刑事處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ昭和十一年十一月六日同署長ニ犯罪アル旨虚構ノ事實ヲ記載シタル書面ヲ福岡縣警察部長ニ郵送シ不實ノ申告ヲ爲シタルモノナリ

○ 主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○ 理 由

辯護人阿比留兼吉上告趣意書第一點原判決ハ刑法第七十二條ノ解釋適用ヲ誤リタル違法ナリ原判決ハ其ノ理由ニ於テ「被告人ハ豫テ署長山口牛六ニ對シ反感ヲ懷キ居リタルモノナル處同署長ヲシテ刑事處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ昭和十年十一月六日當時被告人居宅ニ於テ野紙ニ「カナシイカナアワレカナ昭和ノ御代ニコンナ所アリヤココハ警察ノ力地ニオチ官紀ハミタレカナイ人民ハ毎日留置場ヲ

泣イテ居リマス何故ニ署長ハ友納寛秀ト言フ者ノ命令ヲキクノテスカ酒ヲモラツテノンダコト品物ヲ澤山モラツタコトモミンナ知ツテ居ルカ申上レハ留置セラレマス何十人カ罪ナクシテ選舉ノトキニドサクサマキレニ留置セラレマシタ旨恰モ當時同署長ニ於テ瀆職ノ事實アリタル如キ不實ノ記載ヲ爲シ該書面ヲ封筒ニ入レタル上封筒面ニ福岡縣警察部長殿裏面ニ對島嚴原町一貧民ト記載シ之ヲ同夜一ツ橋郵便函ニ投函シ同月八日福岡市福岡縣廳内ノ同縣警察部長ニ到達セシメ以テ誣告シタルモノナリ」トノ事實ヲ認定シ刑法第七十二條ヲ適用處斷シタリ然レトモ誣告罪ハ人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虚偽ノ申告ヲナシタル事ヲ要シ其ノ被申告者ハ被誣告者ニ對シテ刑事手續ノ處分ヲ爲シ得ル者又ハ懲戒訴追ヲ爲シ得ル者ニ之ヲ爲スコトヲ要シ又假令權限ナキ官署ニ爲シタル誣告モ權限アル官署ニ送付セラレタルトキハ茲ニ本罪ヲ構成スヘキモノナルコト勿論ナリ然ルニ原判決ノ認定シタル事實及證據即領置ニ係ル證第一號ノ投書ニ依レハ福岡縣警察部長宛名トナシ同部長ニ到達セシメ同部長ハ福岡縣警察部高瀬警部補ニ命シ直接嚴原警察署長山口牛六ニ手交セシメ其ノ後裁判所ニ證據トシテ領置セラレタルモノ（嚴原區裁判所檢事局檢事ノ山口牛六ニ對スル聽取書記録一八五丁）ナルコト明ナリ本件被誣告者嚴原警察署長山口牛六ハ長崎縣知事及同縣警察部長ノ指揮監督下ニアリテ同人ニ對スル懲戒訴追等ノ權限ハ右長崎縣知事及同縣警察部長等ニ有ルモ福岡縣知事及同縣警察部長ハ右嚴原警察署長ニ對シ何等指揮監督及懲戒訴追等ノ權限ナシ故ニ右證第一號ノ如キ投書

他管ノ司法警察官ニ對スル申告ト誣告罪ノ成立



ヲ右被告人ニ於テ爲シタルモノトスルモ何等ノ權限ナキ上級官廳ニ對シ爲シタル投書ナレハ誣告罪ノ成立スヘキ餘地ナシ又右ノ投書ヲ受ケタル福岡縣警察部ニ於テハ嚴原警察署ノ監督官廳タル長崎縣廳ニ送付シタルモノニモ非スシテ只福岡縣警部補高瀬某カ任意的ニ被誣告者タル山口牛六ニ交付シタルニ過キサルコト前記記録上明ナリ又記録八丁九丁ニ記載ノ福岡縣知事ヨリ内務大臣及長崎縣知事ニ對シテ送付シタル特高庶祕第二六〇號ハ「直訴ノ意圖アル投書ニ關スル件」トアリテ所謂警察取締上ノ通知文ニシテ證第一號ノ送付ニ非サルコトモ又明ナリ御院明治四十五年(レ)第四六四號誣告事件ノ判決ニ於テ懲戒處分ヲ受ケシムル爲ノ誣告罪ハ必スシモ訴追權アル本屬長官ニ對シテ之カ申告ヲ爲スヲ要セス監督權アル上官ニ對シテ之ヲ爲スヲ以テ足レリトス(明治四十五年大審院刑事判決録四五八頁)(法學博士泉二新熊著日本刑法論下編一二一五頁以下參照)トアリ又司法處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ爲シタル誣告ハ犯罪ノ搜查權アル檢事又ハ司法警察官ニ爲ササルヘカラサルコトハ刑法學者間ニ異論ナキトコロニシテ本件ニ於テハ檢事又ハ司法警察官ニ對シ爲サレタルニモ非ス又斯ル權限アル者ニ送付セラレタル事實モ無シ唯證據トシテ檢事局及裁判所ニ提出セラレタルノミナリ故ニ右證第一號ノ投書カ前記嚴原警察署長山口牛六ニ對シ刑事又ハ懲戒處分ヲ受ケシムル目的ニ出テタリトスルモ右山口牛六ニ對シテハ福岡縣警察部長ハ刑事若ハ懲戒處分ノ權限ナキモノナレハ同人ニ對スル前記投書ハ刑法第七十二條ノ誣告罪ニ該當スルモノニ非ス然ルニ原判決カ同法條ヲ適用處斷シタルハ法律

## 【要旨】

ノ解釋適用ヲ誤リタル違法アルカ故ニ原判決ハ破毀セララルヘキモノト信スト云フニ在レトモ凡ソ他人ヲシテ刑事處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ搜查權ヲ有スル官吏ニ不實ノ申告ヲ爲シ刑事處分ニ關スル職權ノ發動ヲ促シタルトキハ誣告罪ハ直ニ成立スヘク右ノ申告ヲ受ケタル官吏カ搜查ニ著手シタルヤ否ヤハ犯罪ノ成立ニ影響ヲ來スヘキモノニ非ス加之刑事訴訟法ハ其ノ第二百七十二條ニ於テ告訴發ハ檢事又ハ司法警察官ニ之ヲ爲スヘキ旨ヲ規定スルノミニシテ犯罪ノ申告ヲ爲スニ付何等土地ノ關係ノ制限ヲ附セサルノミナラス第二百七十四條ニ於テ司法警察官カ告訴發ヲ受ケタルトキハ速ニ之ニ關スル書類及證據物ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送付スヘキ旨ヲ規定シ第二百九十三條第一項ニ於テ檢事事件其ノ所屬裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノト思料スルトキハ書類及證據物ト共ニ其ノ事件ヲ管轄裁判所ノ檢事又ハ相當官署ニ送致スヘシト規定シ又大正十二年司法省刑事局訓令司法警察職務規範第二十九條ハ司法警察官カ管轄區域外ニ於テ搜查等ノ職務ヲ行フ場合ニ於テハ成ルヘク其ノ地ノ警察官ニ通知シ齟齬ナキコトヲ期スヘキ旨ヲ規定シ尙同法第三十二條第一項ハ司法警察官ニ告訴發アリタルトキ其ノ管轄ヲ定ムヘキ原因管轄區域内ニ存セサル場合ト雖之ヲ受理スヘキ旨規定スルニ由テコレヲ觀レハ告訴發ハ必スシモ犯罪地犯人ノ住所等管轄ノ標準トナルヘキ事由ノ存在スル地ノ檢事又ハ司法警察官ニ對シテ爲スコトヲ要スルモノニアラスシテ何レノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ對シテモ之ヲ爲シ得ヘク此等ノ官吏ハ事件カ自己ノ管轄區域外ニ在ルノ故ヲ以テ告訴發ヲ拒否スルコトヲ得サ



ルモノト解スヘキカ故ニ本件ニ於テ被告人カ長崎縣嚴原警察署長山口牛六ヲシテ刑事處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虚偽ノ犯罪事實ヲ記載シタル書面ヲ福岡縣警察部長ニ郵送シテ不實ノ申告ヲ爲シタルコト原判決認定ノ如クナル以上縱令事件カ福岡縣警察ノ管轄區域ニ屬スルモノニアラサレハトテ誣告罪ノ成立スヘキハ當然ナリト云フヘク又福岡縣警察部長カ其ノ後該事件ノ捜査ニ著手シタルト否トハ犯罪ノ成立ニ何等ノ關係ヲ有セサルモノトス果シテ然ラハ原審カ被告人ノ所爲ヲ刑法第七十二條第六十九條ニ問擬シタルハ相當ニシテ所論ノ如キ違法アルモノト謂フヲ得サルヲ以テ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事佐々波與佐次郎關與

○貯蓄銀行法違反被告事件(昭和十一年(レ)第一七四八號 棄却)

(昭和十一年(レ)第一七四八號 同年十一月二十五日第五刑事部判決)

【上告人】 被告人 大須賀 榮三郎 辯護人 (大井政雄 外五名)

【第一審】 新潟區裁判所 【第二審】 新潟地方裁判所

○判示事項

貯蓄銀行法第十八條ノ解釋

○判決要旨

主務大臣ノ免許ヲ受ケスシテ事實上貯蓄銀行法第一條所定ノ業務ヲ營ミタル者ニ付テハ同法第十八條ノ適用アルモノトス

【參照】 貯蓄銀行法第一條 左ニ掲クル業務ヲ營ム者ハ之ヲ貯蓄銀行トス

- 一 複利ノ方法ニ依リ預金ヲ受入ルルコト
- 二 一回十圓未満ノ金額ヲ預金トシテ受入ルルコト
- 三 豫メ拂戻ノ期限ヲ定メ定期ニ又ハ一定ノ期間内ニ於テ數回ニ預金ヲ受入ルルコト
- 四 期限ヲ定メテ一定金額ノ給付ヲ爲スコトヲ約シ定期ニ又ハ一定ノ期間内ニ於テ數回ニ金錢ヲ受入ルルコト

貯蓄銀行ニ非サルモノハ前項ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス但シ貯蓄銀行ニ非サル銀行カ預金取引ヲ有スル者ヨリ其ノ者トノ取引ノ結果生シタル十圓未満ノ金額ヲ其ノ預金ニ受入レ又ハ小切手ニ依リ支拂ヲ爲スヘキ預金取引ヲ有スル者ヨリ十圓未満

貯蓄銀行法第十八條ノ解釋



ノ金額ヲ其ノ預金ニ受入ルル場合ハ此ノ限ニ在ラス  
同法第十八條 主務大臣ノ免許ヲ受ケスシテ貯蓄銀行業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下  
ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人榮三郎 巧策ヲ各罰金三百圓ニ被告人由二  
郎 上枝 惠郎 四郎 治ヲ各罰金二百圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換  
算シタル期間當該被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 被告人榮吉ハ昭和八年三月頃ヨリ同年十月頃迄ノ間新潟市白山浦一丁目旅館大野屋方ニ新潟商工資金匿名組合  
事務所ナルモノヲ設ケ新潟縣南蒲原郡加茂町 西蒲原郡燕町 中蒲原郡新津町 小須戸町 五泉町等ニ其ノ代理店ヲ設  
置シタル上當該地方ニ於テ主務大臣ノ免許ナキニ拘ラス一口ニ付キ毎月金三圓九十一錢宛滿二年間掛込ヲ完了セル  
トキハ金百圓ヲ給付シ一定期間其ノ掛込ヲ爲シタル者ニ對シテハ其ノ希望ニ依リ右契約金ノ前拂ヲ爲スヘク此ノ場  
合ニ於テハ爾後毎月金五圓二十一錢宛掛込ヲ爲サシムヘキ約款ヲ以テ約三百名ノ加入者ヲ募集シ其ノ掛金合計一千  
八百五十圓餘ヲ徵收シ以テ一定金額ノ定期給付ヲ約シテ定期ニ金錢ヲ受入ルル方法ニ依ル貯蓄銀行業ヲ營ミ  
第二 被告人榮三郎及同由二郎ハ共謀ノ上昭和八年十月頃被告人榮吉ヨリ前記匿名組合名義ノ營業ノ讓渡ヲ受ケケカ  
經營ノ爲同年十二月中新潟市下旭町被告人榮三郎方ニ新潟商工資金合資會社ナルモノヲ設立シ爾來昭和九年三月頃  
迄ノ間主務大臣ノ免許ナキニ拘ラス前記小須戸町 新津町 五泉町等ノ加入者約百名ヨリ當該代理店ヲ通シ前同様ノ  
約款ニ依リ其ノ掛金合計一千二百七十圓餘ヲ徵收シ前同様ノ方法ニ依ル貯蓄銀行業ヲ營ミ

第三 被告人巧策及同上枝ハ木村延千代ト共謀ノ上昭和八年十一月頃被告人榮吉ノ設置セル加茂町 燕町方面ニ於ケル  
前記組合代理店ヲ基礎トシテ同組合名義ノ營業ヲ引繼經營セムコトヲ企テ昭和九年一月中新潟市西堀前通七番町ニ  
新潟興業資金合資會社ナルモノヲ設立シ同年四月頃迄ノ間主務大臣ノ免許ナキニ拘ラス同町及三條市方面ノ加入者  
百數十名ヨリ夫々當該代理店ヲ通シ前同様ノ約款ニ依リ其ノ掛金合計約四千圓ヲ徵收シ以テ前同様ノ方法ニヨル貯  
蓄銀行業ヲ營ミ

第四 被告人惠郎ハ前記新潟興業資金合資會社ノ加茂町代理店ヲ被告人莊平ハ同會社燕町代理店ヲ被告人雄次郎ハ同  
會社三條市代理店ヲ爲シ來リタルモノナルトコロ昭和九年五月中同社カ主務大臣ヨリ其ノ營業ヲ禁止セララルヤ同  
被告人等共謀ノ上同社ノ營業引繼キ其ノ脱法的經營方法トシテ同年六月中新夕ニ北越惠比壽會及北越興業資金合資  
會社ナルモノヲ設立シ爾來同年十二月頃迄ノ間主務大臣ノ免許ナキニ拘ラス掛金ハ同會名義ヲ以テ之ヲ徵收シ前拂  
ハ新會社名義ヲ以テ之ヲ爲シ本來一個ノ營業主體ナルニ形式上恰モ二者別個ノモノナルカ如ク裝ヒ而モ舊會社當時  
ト同様ノ約款ニ依リ被告人惠郎ハ加茂町方面ニ於ケル加入者約數十名ヨリ其ノ掛金合計一千四百九十圓餘ヲ被告人  
莊平ハ燕町方面ニ於ケル加入者百數十名ヨリ其ノ掛金合計八百二十餘圓ヲ被告人雄次郎ハ三條市方面ニ於ケル各加  
入者ヨリ其ノ掛金合計七百二十餘圓ヲ夫々徵收シ以テ前同様ノ方法ニ依ル貯蓄銀行業ヲ營ミ

第五 被告人四郎ハ中蒲原郡十全村大字山谷ノ自宅ヲ事務所トシ昭和九年三月頃ヨリ同年五月頃迄ハ前記新潟興業資  
金合資會社代理店ノ名義ヲ以テ其ノ後同年七月末頃迄ハ前記北越惠比壽會及北越興業資金合資會社代理店名義ニ依  
リ又其ノ後昭和十年五月頃迄ハ自己個人名義ヲ以テ何レモ主務大臣ノ免許ナキニ拘ラス夫々前同様ノ約款ニ依リ同  
郡村松町方面ニ於ケル加入者數十名ヨリ其ノ掛金合計八百二十圓餘ヲ徵收シ以テ前同様ノ方法ニ依ル貯蓄銀行業ヲ  
營ミ



法律ニ照スニ被告人等ノ所爲ハ各貯蓄銀行法第十八條第一條ニ該當シ尙被告人四郎治ヲ除ク其ノ餘ノ被告人等ニ付テハ刑法第六十條ヲ適用シ其ノ所定罰金額ノ範圍内ニ於テ被告人 榮三郎 巧策ヲ各罰金三百圓ニ被告人由二郎 上枝 惠郎 四郎治ヲ各罰金二百圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ依リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間當該被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人大須賀榮三郎 久保田巧策 新保上枝 佐藤由二郎辯護人犬井政隆上告趣意書第一點被告人大須賀榮三郎同佐藤由二郎ハ犯意繼續シテ新潟商工資金合資會社ヲ組織シ昭和八年十二月頃ヨリ昭和九年三年頃迄ノ間主務大臣ノ免許ナキニ不拘毎月一回乃至六回毎回金六十六錢乃至三圓九十一錢ヲ拂込メハ滿二箇年ノ後金百圓ヲ交付スヘク一定期間ノ後右金圓ヲ貸付クヘキ約定ノ下ニ直接若クハ中蒲原郡新津町代理店石田富次郎其ノ他ノ手ヲ通シ同町吉田清三郎其ノ他ノ百餘名ヨリ合計金千二百餘圓ヲ受入レ以テ定期積金ノ方法ニ依リ貯蓄銀行ノ業務ヲ營ミタリト判定シ又被告人久保田巧策同新保上枝ハ共謀ノ上犯意繼續シテ新潟興業資金合資會社ヲ組織シ昭和八年十二月頃ヨリ昭和九年五月頃ニ至ル迄ノ間主務大臣ノ免許ナキニ不拘毎月一回乃至六回毎回金六十六錢乃至三圓九十一錢ヲ拂込メハ滿二箇

年ノ後金百圓ヲ交付スヘク一定期間ノ後右金圓ヲ貸付クヘキ約定ノ下ニ南蒲原郡加茂町代理店古川惠郎其ノ他ノ手ヲ通シ同町知野徳市外二百餘名ヨリ金四千餘圓ヲ受入レ以テ定期積金ノ方法ニ依ル貯蓄銀行ノ業務ヲ營ミタリト判定セラレ貯蓄銀行法第一條第一項ニ違反スルモノトシ同法第十八條ニヨリ處斷セラレタルモ元來同法ノ罰則ハ行政上ノ取締ヲ主眼トスルモノニシテ該違反行爲ニ付キ刑法第三十八條第一項本文ノ適用ヲ除外シ犯意ノ有無ヲ問ハス之ヲ處罰スヘキ明文ナク又其ノ趣旨ノ認ムヘキ規定ナキヲ以テ右違反行爲ハ犯意ノ有無ニ依リ犯罪ノ成否ヲ決スヘキモノナリト信ス(御院大正五年(れ)第八九五號大正九年(れ)第六六五號御參照)然ラハ被告人等ハ前記合資會社ヲ設立スルニ當リ被告人久保田巧策ハ其ノ主唱者ナルヲ以テ昭和八年十一月中先ツ新潟縣廳保安課ニ就キ會社ノ定款ヲ示シ其ノ目的カ(即前示原判決ノ定期積金ニ依ル貯蓄銀行ノ業務) 銀行業或ヒハ無盡業ニ當リ監督官廳ノ免許ヲ要スルヤヲ伺出タル處同課ハ明答ヲ與ヘス同廳商工課ニ就キ問合セヨトノコトニテ商工課ニ伺出タルニ別ニ免許ヲ要スル旨ノ指示ナカリシカ更ニ不安ナリシヲ以テ昭和九年三月中上京シ大藏省ニ就キ定款ヲ示シ事業ノ内容ヲ詳説シテ免許ヲ要スルヤ或ヒハ免許ナキモ差支ヘナキヤヲ同省特別銀行課ニ就キ問合セタル處曰ク「日本全國ニ之ト同様ノ事業ヲ營ム者或ヒハ合名合資會社等六十餘アルカ何レモ其ノ經營困難且營業不振ノ狀況ニ在ルヲ以テ深ク注意シテ事業ヲ遂行セヨ經營困難ハ蓋經營主ノ不正カ加入者ノ拂込怠慢ニ基因スルヲ以テ此ノ點ニ留意セヨ」トノ戒告ヲ受ケタルモ免許



ヲ要スル旨ノ指示ナカリシニヨリ(被告人久保田巧策ノ原審公判廷ノ供述御參照)被告人等ハ安ンシテ前判定ノ如ク加入者ニ一定ノ金額ヲ給付スルコトヲ約シ定期ニ數回ニ金錢ヲ受入レ或ヒハ貸付タルモノニシテ何等無免許ノ下ニ貯蓄銀行ノ業務ヲ營ムノ犯意ナカリシモノトス然レハ原判決ハ理由不備若クハ擬律錯誤ノ違法アルモノト信スト云ヒ」第二點貯蓄銀行法ハ銀行ノ法ト共ニ銀行對社會的ノ信用ヲ確保スルカ爲ニ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之カ業務ヲ營ムコトヲ得サルモノトシ依テ以テ其ノ監督取締ヲ嚴ニシテ銀行内部ノ不正ヲ防遏シテ事業ヲ強固ナラシムル行政上ノ取締法規ナリトス而シテ貯蓄銀行法ニ之カ罰則ヲ設ケテ「主務大臣ノ免許ヲ受ケスシテ貯蓄銀行ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス」ト定メラレタルハ主務大臣ノ免許ヲ得スニ同法第一條ノ業務ヲ營ム者即之カ營業主換言セハ個人ニ於テハ經營主合資會社ニ於テハ無限責任社員株式會社ニ於テハ取締役ヲ指稱スル法ノ精神ナリト信ス故ニ本件カ前記第一點ニ論述シタル刑法第三十八條ノ適用ナシト假定スルモ合資會社ノ有限責任社員ナル被告人佐藤由二郎ヲ處罰シ或ハ何等社員ニ非ス單ニ前示新潟興業資金合資會社ノ雇人トシテ一定ノ給料ヲ受ケ其ノ勞務トシテ定期積金ノ受入事務ニ從事シタル被告人新保上枝ヲ處罰シタル原判決ハ不法タルヲ免レスト云フニ在レトモ

原判決ニ舉示セル證據ニ依レハ優ニ判示第二及第三事實ノ如ク被告人榮三郎巧策上枝及由二郎ニ犯意アリシコトヲ證明スルニ足り理由不備ノ違法ナシ又判示事實ニ對シ原判決カ貯蓄銀行法第一條第十

## 【要旨】

八條ヲ適用シタルハ正當ニシテ擬律錯誤ノ違法アルモノニ非ス所論ノ大半ハ原判示ニ副ハサル事由ヲ援用シテ原判決ヲ批難スルニ過キス而シテ貯蓄銀行法ハ貯蓄銀行ヲ對象トシテ規定シタルモノナルコト勿論ナリト雖主務大臣ノ免許ヲ受ケスシテ事實上同法第一條掲記ノ如キ業務ヲ營ミタル者ニ付テハ個人タルト否トヲ問ハス其ノ適用アルコト同法ノ解釋上疑ナキ所ナリ蓋同法ハ貯蓄銀行ノ取締監督ノ爲設ケタルモノナルト同時ニ不正業務ヲ營ム者ヲ防遏セシカ爲設ケタルモノナレハナリ原判決ノ認定シタル事實ハ論旨所掲ノ如クニシテ被告人榮三郎巧策上枝及由二郎等ハ事實上判示業務ヲ營ミタルコト明ナルヲ以テ敍上ノ適用ヲ免レサルモノトス論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
 檢事池田克關與



○衆議院議員選舉法違反被告事件 (昭和十一年(九)第二一九〇號 同年十一月二十六日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 中村龜吉 辯護人 (門馬善之助 溝口一)

【第一審】 千葉區裁判所 【第二審】 千葉地方裁判所

○判示事項

衆議院議員選舉法ノ不知ト刑ノ減輕——同法不知ノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項

○判決要旨

一 衆議院議員選舉法違反行爲ヲ爲スニ付其ノ規定ヲ知ラサリシトスルモ必スシモ刑ノ減輕ヲ爲ササルヘカラサルモノニ非ス【要旨第一】

二 同法違反罪ニ於ケル法律ノ不知ニ基ク減輕ノ主張ハ刑事訴訟法第三百六十條第二項ノ主張ニ該當セス【要旨第二】

【參照】 刑法第三十八條 罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セス但法律ニ特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス  
罪本重カル可クシテ犯ストキ知ラサル者ハ其重キニ從テ處斷スルコトヲ得ス

法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

刑事訴訟法第三百六十條 有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ説明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ  
法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由又ハ刑ノ加重減輕ノ原由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金二百圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金五圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス被告人ヨリ金二十圓ヲ追徴スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十一年二月二十日施行ノ衆議院議員選舉ニ際シ選舉人ナリシトコロ同月十五日頃千葉縣安房郡鴨川町前原ナル相模屋旅館事相原寅吉方ニ於テ同縣第三區ヨリ立候補シタル池田清秋ノ選舉委員原正男同伊藤善次郎ノ兩名ヨリ右立候補者ノ爲投票竝投票取纏運動ヲ依頼セラレテ之ヲ承諾シ其ノ報酬及費用トシテ金二十圓ノ供與ヲ受ケタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ衆議院議員選舉法第一百二十二條第一項第四號ニ該當スルヲ以テ同條所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金二百圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニヨリ金五圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク被告人ノ收受シタル利益金二十圓ハ之ヲ沒收スルコト能ハ

衆議院議員選舉法ノ不知ト刑ノ減輕 同法不知ノ主張ト刑事訴訟法第三百六十條第二項



サルヲ以テ衆議院議員選舉法第一百四條後段ニ則リ其ノ金額ヲ追徴スヘキモノトス

一五二六 (三)

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人門馬善之助 溝口一上告趣意書第三點ハ原審公判調書ニヨレハ第一點記載ノ通り被告人ハ推薦狀ニヨル運動ヲ引受ケタル點被告ハ「私ハ推薦狀等如何様ナ手續ヲ經テ出スノカ知ラヌカ違反ニナツテハ困ルカラト云ツタ處伊藤等ハ第三者テアルカラ差支ヘナイトノコトテ私ハ夫レデチャイ出シマセウト云ト推薦狀ニヨル運動ヲ引受ケタノテアリマス」ノ供述記載等ヨリスレハ被告人ハ選舉法ノ手續等知ラサリシコトヲ察スルニ難カラス刑法第三十八條第三項ニ所謂法律ナルモノヲ刑法ト解スルカ一般處罰法令ト解スルカニヨリテ所論ヲ異ニスルト雖選舉法違反ハガロフアノ犯罪分類ニ從ヘハ人爲犯罪ニ屬シ自然犯罪ノ如ク不變性カナク人間本來ノ欲求正義社會感ニ其ノ根底ヲ有セサルモノナル點等ニ思ヒヲ致シタルトキハ第三十八條第三項ノ但書ノ精神ヨリスルモ減輕スヘキモノナリト信ス殊ニ施行日淺キ現行法タル上解釋上ニモ頗ル疑問ノ存シ現ニ改正ハ時期ノ問題トナリツツアル事情ニ鑑ミテモ其ノ感ヲ深クスルモノアリ若シ之カ減輕ヲ拒否スヘキ事由アリトセハ刑事訴訟法第三百六十條ニヨル判斷ヲ示スヘキモノト信ス原判決ハ之カ被告ノ主張タル費用ノ點ヲ認定シナカラ之カ減輕ヲ爲サス

且之ニ對スル判斷ヲ缺クハ前示立法趣旨ヲ沒却シテ減輕ヲ爲ササル違法アルカ判斷ヲ示ササルカ又ハ判斷ヲ爲ササルノ違法アルモノト信ス依ツテ原判決ヲ破毀シ更ニ輕微ナル罰金又ハ科料ノ御判決相願度候也ト云フニ在レトモ

【要旨第一】

被告人カ判示選舉法違反行爲ヲ爲スニ付其ノ規定ヲ知ラサリシトスルモ犯罪ノ成否ニ影響ナク又斯カル場合ニ於テ刑法第三十八條第三項但書ニ則リ其ノ刑ヲ減輕スルト否トハ原審ノ職權ニ屬スル事項ニシテ之カ減輕ヲ爲ササレハトテ違法ナリト謂フヘカラス而シテ斯クノ如ク職權裁量ニ屬スル減輕主張ハ刑事訴訟法第三百六十條第二項ノ主張ニ該當セサルカ故ニ之カ判斷ヲ示スノ要ナク記錄ヲ精査スルモ原審ノ被告人ニ對スル量刑甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由ナキカ故ニ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

【要旨第二】

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事平井彦三郎關與



○治安維持法違反被告事件(昭和十一年(九)第二一一二號 棄却)

【上告人】 被告人 井汲卓一 辯護人 津田 騰三  
【第一審】 東京刑事地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

意思ノ繼續ナキ治安維持法第一條ノ數行爲ト非包括性

○判決要旨

治安維持法第一條ニ規定スル數個ノ行爲ニシテ繼續意思ニ出テサルモノハ包括一罪ヲ爲スモノニ非ス

【参照】 治安維持法第一條 國體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ情ヲ知リテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス  
私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者、結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ  
被告人ハ大正十四年三月東京帝國大學文學部ヲ卒業シタル後富山高尋學校ノ講師トナリ翌十五年二月同校教授ニ任命セラレタルモ社會科學ニ關心ヲ抱クニ至リ之カ研究ニ没頭セント欲シ昭和二年四月頃其ノ職ヲ辭シテ上京シ舊勞働農民黨舊新黨準備會ニ於テ調査活動ニ從事スル中昭和三年九月頃ヨリ産業勞働調査所ニ出入スルニ至リ越エテ昭和四年一月頃ヨリ該調査所員トナリ其ノ經濟部ニ所屬シ同年四月頃ヨリ同經濟部責任者次テ同調査所責任者タル地位ニ就キテ活動スルコトトナリタルトコロ 日本共產黨カ國際共產黨ノ日本支部ニシテ革命的手段ニ依リ我國體ヲ變革シ私有財産制度ヲ否認シプロレタリアートノ獨裁ヲ樹立シ之ヲ通シテ共產主義社會ヲ實現センコトヲ目的トスル秘密結社ナルコトヲ知リナカラ同黨ヲ支持シ其ノ擴大強化ヲ圖ル目的ヲ以テ昭和四年八月末頃小川信一事大河内信威ノ求ニ依リ同年九月中二回ニ合計金六圓ヲ同人ヲ介シテ同黨ノ活動資金トシテ提供シタル外同年十月ヨリ昭和五年二月ニ至ル迄ノ間前後數回ニ互リ合計金百五、六十圓ヲ同黨ニ其ノ活動資金トシテ提供シタル昭和四年十、十一月ノ交同黨員大村英之助ヨリ同黨活動ノ爲ニ使用スル宿所ノ提供方ヲ求メラレテ之ヲ承諾シ昭和五年一月中當時東京府豊多摩郡中野町上野原八百九番地野上巖及東京市牛込區北町電車停留場附近大岡純太郎ノ各住宅ヲ右英之助ヲ介シテ同黨ニ其ノ活動ノ便宜ノ爲提供シ以テ日本共產黨ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタリトノ廉ニ依リ昭和八年十一月三十日東京控訴院ニ於テ治安維持法違反トシテ懲役三年但シ第一審ニ於ケル未決勾留日數中二百日算入ノ判決ヲ受ケ該判決ハ昭和九年三月七日上告取下ニ依リ確定シタルモノナルカ是ヨリ先昭和六年四月三十日保釋出所後同年六月頃ヨリ再ヒ日本共產黨

意思ノ繼續ナキ治安維持法第一條ノ數行爲ト非包括性



黨ノ爲ニ活動ヲ爲サンコトヲ決意シ爾來産業労働調査所ニ復歸シテ其ノ調査活動ニ從事シ昭和八年五月九日迄ノ内ニ  
 經濟部員殖民地部長 經濟部長 庶務部長等ノ地位ニ就キ常任委員會議長 所員會議議長 部長會議議長等ノ要務ヲモ帶  
 ヒ同調査所ノ活動ノ指導統制ノ任ニ當リ居リタルカ其ノ間昭和六年十二月東京市本郷區湯島順天堂病院附近所在某家  
 ニ於ケル日本共產黨員野呂榮太郎ノ居室ニ於テ同人ヨリ同黨ニ加入スヘキ旨ノ勧誘ヲ受クルヤ直ニ之ヲ承諾シテ同黨  
 員トナリ昭和七年夏頃ニ至リ前記調査所内ニ於ケル日本共產主義青年同盟フラクシオンヲ解體シ同フラクシオンメン  
 バーヲ當時ノ同調査所内ニ於ケル黨フラクシオンニ結成シ自ラ同フラクシオンノ議長トナリ屢々同市本郷區本郷三丁  
 目帝大佛教青年會館等ニ於テフラクシオン會議ヲ開キ前記調査所ノ日常活動ニ黨ノ主義政策ヲ反映セシムルコトヲ努  
 メ昭和八年一月頃ヨリハ黨中央資料調査部長同年三月頃ヨリハ黨中央情報部長トナリテ前記フラクシオンノ活動ヲ指  
 導統制スル等諸般ノ活動ニ從事シ以テ同黨ニ加入シ且其ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中國體ヲ變革スルコトヲ目的トスル結社ニ加入シ且其ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲  
 シタル點ハ治安維持法第一條第一項後段ニ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トスル結社ニ加入シ且其ノ目的遂行ノ  
 爲ニスル行爲ヲ爲シタル點ハ同法第一條第二項後段ニ各該當シ以上ハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルル場合ナル  
 ヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重キ前者ノ罪ノ刑ニ從ヒ處斷スヘキトコロ右ハ前記確定判決ヲ經タル  
 治安維持法違反ノ罪ト共ニ刑法第四十五條後段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第五十條ニ依リ未タ裁判ヲ經サル前記昭和六  
 年六月以降ノ犯罪ニ付治安維持法第一條第一項後段所定ノ有期懲役刑ヲ選擇シ且犯罪ノ情狀憫諒スヘキモノアルヲ以テ  
 刑法第六十六條第六十八條第三號ニ依リ酌量減輕ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年ニ處スヘキモノトス

### ○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

### ○理 由

辯護人津田騰三上告趣意書前審判決ハ刑ノ量定甚シク不當ナルヲ以テ破毀ヲ免レサルモノト信ス其ノ  
 理由左ノ如シ第一點前審判決ニ於テ其ノ理由ノ末尾ニ於テ上告人ニ對シ「且犯罪ノ情狀憫諒スヘキモ  
 ノアルヲ以テ」ト判示シ上告人ニ對シテハ特ニ其ノ犯罪行爲ノ輕微轉向改悛ノ情ノ顯著ナルヲ察知セ  
 ルモノナリ然ルニ之ニ對シ刑ノ執行猶豫ノ言渡無ク之ニ實刑實役ヲ科スルハ不當ナルモノトス思フニ  
 前審判決ニ於テハ上告人ニ對シ既ニ前科アルヲ以テ執行猶豫ノ言渡ヲ爲ササルモノノ如ク思考セラル  
 レトモ上告人ノ場合ニアリテハ條文上又法理上執行猶豫ノ言渡ヲ阻却スヘキ場合ニ非ス刑法第二十五  
 條第二號ハ前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其ノ執行ヲ終リ……タル日ヨリ七年以内ニ禁  
 錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者ハ執行猶豫ノ恩典ニ浴スル資格アリトセラル上告人カ前犯罪ノ  
 爲檢舉セラレタルハ昭和五年四月二日保釋出所シタルハ昭和六年四月三十日上告人カ後犯罪(本件被  
 疑事件)ノ爲再度檢舉セラレタルハ右保釋中ノ昭和八年五月九日ニ該當ス而シテ本件(右後犯罪)第一  
 回豫審調ハ前犯罪ノ裁判確定以前ノ事ニ屬シ前犯罪ニ對スル刑ノ執行ハ昭和九年二月九日ヨリ昭和十  
 年十二月十一日ノ間ニ屬シ即本件(後ノ犯罪)ノ爲ノ拘禁中ニ屬ス然ラハ刑法第二十五條第二號所定ノ  
 「其ノ執行ヲ終リタル日ヨリ七年以内」ニハ何等ノ犯罪行爲有ルヲ見サルモノトナル也即執行ヲ終リタ  
 ル昭和十年十二月十一日ハ後犯罪ニ對スル拘禁中ニシテ後犯罪ノ行爲セラレタルハ之ノ「執行終了」以



前ニシテ以後ニ非サルモノナリ次ニ刑法第二十六條第二號ハ猶豫ノ言渡前ニ犯シタル犯罪ニ付禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキニ於テハ既ニ言渡サレタル執行猶豫ヲ取消ス旨ノ規定ナルモ右規定ハ既ニ或ル罪ニ就キ執行猶豫ノ言渡シヲ受ケタル後ニ於テ更ニ他ノ犯罪ニ就キ刑ノ言渡アル場合ノ規定ニシテ本件上告人ノ如ク未タ執行猶豫ノ言渡無キ場合ニ(即本上告ニ依リテ之ヲ切望スルカ如キ場合ニ)對スル規定ニ非ス故ニ之ノ規定モ亦本件上告人ニ對スル刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ阻却スルモノニ非ス然リトスレハ本件上告人ニ對シテハ若シ執行猶豫ノ言渡ヲ爲サントスル場合ニ於テハ法規ハ之ヲ禁止シ居ラサルモノナリ然ルヲ前判決ニ於テハ既ニ上告人ニ對シテ情狀ノ憫察スヘキ點ヲ認メナカラ執行猶豫ノ言渡ナキハ轉向セル上告人ニ對シテハ刑ノ量定不當著シキモノアリト言ハサルヲ得スト云ヒ同第二點本件裁判ハ昭和八年十月二十六日ヲ以テ第一回豫審調アリタル此ノ時ニ於テハ前犯罪ニ對スル判決未タ確定セス前犯罪後犯罪共ニ未確定ノ儘併行セルノ狀況ニアリタルモノナリ而シテ上告人ニ對スル前犯罪ハ調書記載ノ如ク治安維持法第一條第一項後段並同條第二項ニ該當セルモノニシテ所謂シンバ關係ニ立ツ事件ナリ而シテ上告人後犯罪(即本件)ニ於テモ右同條ニ該當セルモノナリ故ニ右二個ノ犯罪ハ同種同質ノ犯罪ニシテ且又其ノ間ニ何等意思ノ中斷ナシ上告人ノ思想ハ本件犯罪後ニ於テ翻然轉向ヲ表明スルニ至ル迄意思ノ連續アリタルモノナリ而シテ右兩犯罪ノ被害法益ト見做サルモノハ何レモ國家社會治安ニ外ナラス然ラハ兩犯罪ハ之ヲ連續犯ト爲ササルヲ得サルモノナリ凡ソ或ル數個

ノ犯罪カ連續犯ナル以上ハ之カ所斷ヲ爲スニ於テハ當然一個ノ犯罪ト爲ササルヲ得サルモノナリ上告人ノ犯罪ニシテ一罪トシテノ所斷ヲ受クルニ於テハ今日既ニ轉向謹慎セル以上ハ刑ノ執行猶豫ノ御宣告ヲ相當トスルモノナリト云ヒ同第三點豫審判事ハ其ノ取調中檢事ノ公訴事實トシテ明示シタル行爲ト連續犯ノ關係ニアル行爲ヲ發見シタルトキハ此等ノ行爲ニ就テモ公判ニ付スルノ決定ヲ爲ス職責アルモノト言ハサルヘカラス(昭和七年(九)第九〇〇號縣會議員選舉罰則違反被告事件)上告人カ本件犯罪ニ對シ第一回豫審ノ際ニ於テハ本件ト連續犯ノ關係ニ立ツ前犯罪ハ未確定ノ事實ハ上告人ノ供述ニヨリテモ明白トナリ居ルモノナリ然ルヲ之ヲシテ二罪ニ分離シ一罪ノ取扱ヲ受ケサリシヲ以テ執行猶豫ノ恩典ニ洩レタルモノト思料ス思フニ上告人ニ於テハ前犯罪ニ於テハ既ニ控訴審ニ繫屬シ後犯罪ニアリテハ豫審中ニシテ其ノ訴訟進行中ノ審級ヲ異ニシ居タルモノナリ然レトモ斯クノ如キ場合ニ於テハ控訴審ニ於テ進行ノ中止ヲ爲スカ又ハ第一審ニ於テ進行ノ促進ヲ爲ス事ニヨリテ事件ノ併合ヲ爲スヲ得ヘキモノナリ唯上告人ハ前犯罪ノ上告ヲ取下ケ以テ誠意服罪ヲ爲シタルモノナリ思フニ服罪ハ之レ犯罪當然ノ歸結ニシテ之ヲ爲スハ寧ロ自己犯罪ノ贖罪の意味ヲ包含スル道德行爲ト見ルヲ得ルナリ而モ之ノ贖罪行爲ヲ爲シタルカ爲ニ連續一個ノ犯罪カ前科後科ノ二罪トナリ若シ贖罪の服罪ナカリシナラハ當然執行猶豫ノ恩典ニ浴シ得ルニ拘ハラス反ツテ有期ノ實刑ヲ蒙ラサルヲ得サルノ理無キハ當然ナリ而モ法規ノ活用ニ依レハ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スモ妨ケサルニ拘ラス之ノ言渡無之ニ於テハ



其ノ量定不當ナリト言ハサルヘカラスト云ヒ一同第四點上告人ノ家庭ハ調書上申書記載ノ如ク妻子ト妹トノ家庭ニシテ上告人ノ僅カニ得ル文筆ノ資ニヨリテ支持生活セラレ居ル有様ナリ之ノ間ノ消息ヲ上告人ハ憂慮シ又上告人轉向ノ一因ハ之ノ家庭ノ保護維持ニアリタルモノナリ然ルヲ今上告人ニシテ一年ノ刑ニ處セララルニ於テハ妻子妹等ハ將ニ路頭ニ迷ハントスルノ状態ナリ上告人ノ轉向竝憫察スヘキ情狀ハ前判決ノ認定ノ通りナリトスレハ之ニ對シテハ執行猶豫ノ御言渡ヲ當然トシ之ノ言渡ナキ前判決ニ正ハ著シク刑ノ量定ヲ誤リタルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノナリト云フニ在レトモ

【要旨】

治安維持法第一條ニ規定スル結社ニ加入シ且其ノ目的遂行ノ爲ニ爲シタル數個ノ行爲ハ連續犯ヲ構成セスシテ包括一罪ヲ構成スルモノナルコトハ當院判例ノ示ス所ナルモ右ハ意思繼續ノ上之ヲ爲シタル場合ニ限ルモノニシテ意思繼續セスシテ之ヲ爲シタルトキハ包括一罪トシテ之ヲ處斷スヘキモノニ非ス原判示ニ依レハ被告人ハ判示確定判決ニ依リテ認メラレタル判示結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル後更ニ判示結社ニ加入シ且其ノ目的遂行ノ爲ニスル判示各行爲ヲ爲シタルモノニシテ原判示ハ右加入前ノ行爲ト其ノ後ノ行爲ハ意思繼續ノ上之ヲ爲シタルモノニ非サルモノナリトノ趣旨ニ解スヘク而シテ右事實ハ原判決擧示ノ證據ニ依リテ優ニ之ヲ證明シ得ヘク記録ヲ查スルモ右事實認定ニ重大ナル誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナキカ故ニ原判決カ判示事實ニ付更ニ判示法條ヲ適用シ之ヲ處斷シタルハ洵ニ正當ナリトス尙記録ヲ精査シ犯情其ノ他諸般ノ情狀ヲ考量スルニ原判決

ノ被告人ニ對スル刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルコトナシ又原判決カ執行猶豫ノ言渡ヲ爲ササリシハ所論ノ如キ法律見解ニ基クモノニ非サルコトハ判文上明白ナルカ故ニ此ノ點ニ關スル所論ハ當ラス論旨理由ナシ  
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事佐々波與佐次郎關與

○竊盜幫助被告事件 (昭和十一年(九)第一七一四號 棄却)

(同年十二月二日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 田 畑 弘 辯護人 (上松 眞夫 熊谷 恒夫)

【第一審】 函館區裁判所 【第二審】 函館地方裁判所

○判示事項

放牧セル畜類ト竊盜罪ノ成否

放牧セル畜類ト竊盜罪ノ成否



○ 判決要旨

全島一圓ニ互ツテ放牧セル畜類ト雖所有權ノ客體タリ得ヘキモノナルヲ以テ農林省所管ノ下ニ得撫島一圓ヲ飼養地域トシテ放牧セル狐ニ付テハ竊盜罪ノ成立ヲ妨ケサルモノトス

【参照】 刑法第二百三十五條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

○ 事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人田畑弘ヲ懲役二月ニ處ス（沒收並訴訟費用負擔ノ點省略）ル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 被告人尾森儀一ハ原審相被告人九里重秋及同三浦吉造ト共ニ昭和十年十二月初旬農林省カ千島國ウヅ島ニ於テ狐ヲ飼育シ居ル事實ヲ知悉シ何レモ火藥類製造業者ニ非ス又行政官廳ヨリ其ノ許可若クハ委託ヲ受ケタルモノニ非サルニ拘ラス鷄冠石鹽素酸加里及陶器破片ヲ混合シテ「ロハツバ」ト稱スル爆藥ヲ製造シ之ヲ使用シテ右國有ノ養狐ヲ竊取セムコトヲ謀議シ其ノ目的遂行ノ爲各任務トシテ吉造ハ「ロハツバ」ノ製造竝ウルツブ島ニ上陸シテ養狐ヲ捕獲スルコトヲ被告人儀一ハ函館市ニ在リテ資金ヲ調達スルコトヲ重秋ハ船艙及乗組員ノ準備ヲ爲シウルツブ島ニ渡航スルコトヲ夫々擔當シテ共謀ノ上右吉造ハ昭和十年十二月上旬ヨリ約一週間ニ互リ函館市鱈灣町五十二番地金谷時次郎方ニ於テ鹽素酸加里六分鷄冠石四分ニ陶器破片ヲ配合シテ拇指大ノ「ロハツバ」約一千個ヲ製造シ

テ之ヲ右重秋ニ同人ハ之ヲ被告人尾森儀一ニ交付シ被告人儀一ハ之ヲ保管シ且右謀議ニ基キ同年同月上旬ヨリ昭和十一年一月初旬ニ至ル迄ノ間數回ニ合計金一千九百圓及白米木炭石炭澤庵等（價格合計約金百六十一圓相當）及右「ロハツバ」全部ヲ右重秋ニ交付シ重秋吉造ハ右分擔ヲ遂行スル爲被告人儀一ヨリ交付ヲ受ケタル右金員ヲ以テ後記第十三海國丸ノ備船其ノ他前示目的ヲ遂行スルニ要スル一切ノ準備ヲ整ヘ被告人等ノ右竊盜ノ犯行ニ加擔シタル原審相被告人村上友次郎同田村兵次郎同山田利吉同水澤三作等四名其ノ他情ヲ知ラサル川口正司外二名ヲ引率シ右「ロハツバ」及後記被告人小林喬ノ交付シタル肉類其ノ他ヲ携ヘ重秋カ備船シタル第十三海國丸（總噸數二十八噸七分）ニ乗船シ昭和十一年一月十五日函館港ヲ出帆シ同月十九日前記ウルツブ島櫛崎ニ到着シ右吉造兵次郎利吉三作ノ四名カ同島ニ上陸シテ同日ヨリ同月二十四日迄ノ間ニ前記櫛崎東部海濱附近ニ於テ右「ロハツバ」ヲ使用シテ前記養狐中ヨリ十字狐及赤狐各三頭價格合計約金五百五十五圓相當ヲ捕獲竊取シ

（第二事實省略）

第三 被告人田畑弘ハ被告人儀一ノ依頼ヲ受ケ昭和十一年一月九日頃函館市音羽町丸善菅谷合名會社音羽町賣店ニ於テ被告人儀一原審相被告人九里重秋等カ右ウルツブ島ニ於テ國有ノ狐ヲ竊取スル爲ノ費用ニ供スルモノナルノ情ヲ知り乍ラ被告人儀一ニ對シ其ノ資金トシテ金六百圓ヲ提供シテ被告人儀一及右重秋等ノ前示竊盜ノ犯行ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ

タルモノナリ

法律ニ照スニ被告人儀一ノ竊盜ノ點ハ刑法第二百三十五條第六十條ニ銃砲火藥類取締法違反ノ點ハ銃砲火藥類取締法第十六條第一條刑法第六十條ニ各該當スルトコロ以上ハ刑法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ後者ノ罪ニ付テハ有期懲役刑ヲ選擇シタル上同法第四十七條第十條ヲ適用シ重キ竊盜罪ノ刑ニ併合罪ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ

放牧セル畜類ト竊盜罪ノ成否



被告人儀一ヲ懲役十月ニ處シ被告人弘ノ竊盜幫助ノ點ハ刑法第二百三十五條第六十二條第一項ニ該當スルトコロ右竊盜幫助ハ從犯ナルヲ以テ同法第六十三條第六十八條ヲ適用シテ法定ノ減輕ヲ爲シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人弘ヲ懲役二月ニ處スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人上松貞夫 熊谷恒夫上告趣意書第一點原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アリト思料スヘキ顯著ナル事由アリ即原判決ニ於テハ被告人田畑弘ハ被告人儀一ノ依頼ヲ受ケ昭和十一年一月九日頃同市音羽町丸善菅谷合名會社音羽賣店ニ於テ被告人儀一原審相被告人九里重秋等カ千島國ウヅブ島ニ於テ狐ヲ竊取スル爲ノ費用ニ供スルモノナルノ情ヲ知り乍ラ被告人儀一ニ對シ其ノ資金トシテ金六百圓ヲ提供シテ被告人儀一及右重秋等ノ前示竊盜ノ犯行ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シタル旨判示セリ然レ共右獵獲ニ係ル狐カ原審認定ノ如ク果シテ國有ノモノナリヤ否ヤハ輒ク斷定シ得ルモノニ非ス狐ノ如ク野生動物ニ付其ノ所有權ヲ認定スルニハ其ノ動物ノ飼養者ニ於テ其ノ所有ヲ明認セシムル適當ノ明示方法ヲ講スルカ乃至ハ一定ノ限定セラレタル場所ニ於テ放養スルハ格別然ラスシテ單ニ或ル廣大ナル島全體ニ放牧スルカ如キハ未タ以テ所有者ノ權利ヲ保護スヘキ域ニ達セス野生ノ動物ハ人ニ馴養セラレ

タル場合ニ於テコソ之ニ對シ所有者ノ一定ノ保護ヲ爲スニ至ルハ御院判例ノ示ス所ナリコノ反對解釋ヨリスルモ本件ノ狐ハ未タ野生動物ノ域ヲ脱セサルモノト言フコトヲ得原審判決ニ於テ證據トシテ採用セル農林省水産局長ヨリ檢事ニ對スル得撫島ニ於ケル狐密獵ニ關スル件ト題スル書面ニ依レハ得撫島内一圓ニ放牧シ特ニ區劃又ハ牆垣等ノ設備ナシト記載アリ其ノ他國トシテ採リタル手段トシテハ大正十五年農林省告示第七十八號ヲ以テウルツブ島ヲ含ム或ル區域ニ禁獵區ヲ設ケタルノミニテ他ニ何等ノ明示方法ヲ採リタルコトナシ禁獵區ナルモノハ該區域内ニ於テ狩獵ヲ禁止スルノミニテ之ヲ以テ同區域ニ棲息スル野生動物カ直チニ國ノ所有トナルモノニ非サルハ勿論同區域内ニ入ルコトヲ禁シタルモノニモ非ス假リニ農林省ニ於テ種狐ヲ移植シタル事實ヲ認ムルトスルモ此ノ事實ノミヲ以テ長徑二十里周圍八十餘里ノ廣大ナル面積ヲ有スル同島ニ現存スル狐全部ヲ國有ナリト斷定シ以テ竊盜罪ニ問擬シタル原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アリト思料スヘキ顯著ナル事由アリト信スト云フニ在レトモ農林省水産局長ヨリ檢事ニ對スル得撫島ニ於ケル狐密獵ニ關スル件ト題スル書面其ノ他原判決舉示ノ證據ニ依レハ得撫島ニ於テハ嘗テ野生ノ狐棲息シタルコトアリシモ冬期餌食缺乏ノ爲逐年其ノ數ヲ減少シ來リタルニ加ヘ年々渡航越年スル密獵者ノ濫獲ニ因リ遂ニ其ノ種族ノ根絶ヲ見ルニ至リタルヨリ農林省ニ於テ大正五年其ノ所管ノ下ニ同島内一圓ヲ飼養地域トシテ養狐事業ヲ創始シ銀狐十字狐赤狐等ノ種狐ヲ移植放牧シ從來糧食ヲ之ニ給與シテ其ノ蕃殖保護ニ努メ更ニ逐次優良種狐ヲ購入追加シテ

【要旨】

放牧セル畜類ト竊盜罪ノ成否



狐種ノ淘汰改良ヲ圖リ來リタルモノナルノミナラス右養狐事業創始ト同時ニ全島ニ禁獵區ヲ設置シ島内各所ニ監視者ヲ配備シテ養狐ノ盜奪ヲ豫防警戒スル等ノカ管理方法ヲ講シ居レル事實ヲ認メ得ヘク右飼養地域ニハ特ニ牆垣ノ設備ヲ施ササルコト所論ノ如シト雖該地域ハ海洋中ノ一孤島ニシテ自ラ天然ノ障壁ヲ形成シ他ヨリ野狐類ノ混入スル虞ナキコトハ顯著ノ事實ナルヲ以テ同島ニ棲息スル狐ハ天然ニ發生生育セル野生無主ノ禽獸ト其ノ選ヲ異ニシ全テ之レ國家ノ所有ニシテ農林省所轄同養狐場管理者ノ占有ニ屬スルコト明ナリト謂ハサルヘカラス而シテ第一、二審ニ於テ相被告人タリシ尾森儀一久里重秋等ニ對スル各檢事ノ聽取書ニ依レハ同人等カ右得撫島ノ狐ヲ捕獲スルニ當ツテハ單ニ禁獵區ニ於テ野生ノ禽獸ヲ捕獲スルノ意思ヲ以テシタルニアラスシテ農林省經營ノ養狐場ヨリ其ノ養狐ヲ竊収スルノ觀念ヲ以テ本件犯行ヲ敢テシタルモノナルコトヲ認メ得ヘキヲ以テ一般社會通念ニ於テモ同島内ノ狐カ國家ノ所有ニ屬スルコトニ付認識アルコトヲ證スルニ足リ且此ノ點ニ付被告人等ノ犯意ニ缺クルトコロナキモノト謂ハサルヘカラス然ラハ右被告人尾森儀一等カ領得ノ意思ヲ以テ不法ニ右占有ヲ犯シ該狐ヲ捕獲シタル所爲カ竊盜罪ヲ構成スヘキコト疑ヲ容レサルヲ以テ其ノ情ヲ知ツテ之ヲ幫助シタル上告人ノ所爲カ竊盜幫助罪ニ該當スルコト明ニシテ原判決ニハ所論ノ如キ違法ナク論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事一木輔太郎關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件 (昭和十一年(レ)第二六二七號 同年十二月二日第五刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 前田 左市 辯護人 (河合 與 米村 嘉一郎)  
 【第一審】 大阪區裁判所 【第二審】 大阪地方裁判所

○判示事項

選舉事務長内定ト衆議院議員選舉法第百十五條第三號ノ選舉運動者——町長就任希望ト同條ニ所謂特殊ノ利害關係——前科調書ト刑事訴訟法第三百四十二條

○判決要旨

一選舉事務長ニ就任スルコトヲ承諾内定シタル以上未夕選舉運動

選舉事務長内定ト衆議院議員選舉法第百十五條第三號ノ選舉運動者 町長就任希望ト同條ニ所謂特殊ノ利害關係 前科調書ト刑事訴訟法第三百四十二條



ニ著手スルニ至ラストスルモ衆議院議員選舉法第一百五條第三號ニ所謂選舉運動者ニ該當スルモノトス【要旨第一】

二町長ニ就任シ度キ希望ヲ有シ居ル選舉事務長ニ對シ町會議員ニシテ而モ其ノ支持者タル立場ニ在ル者力選舉事務長タルコトヲ止メサルニ於テハ町長問題ニ付支援セサル旨申向ケルハ衆議院議員選舉法第一百五條第三號ニ該當スルモノトス【要旨第二】

三衆議院議員選舉法第一百五條所定ノ被事告件ニ在リテハ前科調書ハ縱令裁判所カ公判期日前檢事局ニ照會シテ得タルモノナリトスルモ之ニ付證據調ヲ爲スコトヲ要セス【要旨第三】

【參照】衆議院議員選舉法第一百五條 選舉ニ關シ左ノ各號ニ掲ケル行爲ヲ爲シタル者ハ四年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 選舉人、議員候補者、議員候補者タラムトスル者、選舉運動者又ハ當選人ニ對シ暴行若ハ威力ヲ加ヘ又ハ之ヲ拐引シタルトキ
- 二 交通若ハ集會ノ便ヲ妨ケ又ハ演說ヲ妨害シ其ノ他偽計詐術等不正ノ方法ヲ以テ選舉ノ自由ヲ妨害シタルトキ
- 三 選舉人、議員候補者、議員候補者タラムトスル者、選舉運動者若ハ當選人又ハ其ノ

關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他特殊ノ利害關係ヲ利用シテ、選舉人、議員候補者、議員候補者タラムトスル者、選舉運動者又ハ當選人ヲ威逼シタルトキ

刑事訴訟法第三百二十八條 裁判所ハ公判期日前公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

同法第三百四十二條 公判期日前訴訟關係人ヨリ提出シタル證據物及證據書類ハ公判廷ニ於テ之ヲ取調フヘシ第三百二十六條乃至第三百二十八條ノ規定ニ依リ作成シ又ハ集取シタルモノニ付キ亦同シ但シ訴訟關係人ニ異議ナキモノニ付テハ之ヲ取調ヘサルコトヲ得

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金二百圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ罰金額二圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十一年二月二十日施行セラレタル衆議院議員總選舉ニ際シ大阪府第六區(堺市岸和田市泉北郡泉南郡)ヨリ立候補シタル松田竹千代ノ選舉委員ナリシ處大阪府泉北郡選出府會議員村田久之助カ上記選舉區ヨリ立候補ヲ決意シ居タル古藤增治郎ノ選舉事務長ニ就任スルコトヲ承諾内定シタル旨ヲ聞知スルヤ若シ其ノ事實實現スルニ於テハ大阪府泉北郡ニ於ケル右松田竹千代ノ得票數ニ多大ノ影響アルヘキヲ慮リ偶々當時同府同郡高石町町長ノ後任問題ニ關シ右村田久之助カ後任町長ノ一人ニ推サレ且同人ニ於テ同町長ニ就任シ度キ希望ヲ有シ居リ自己カ同町會議員トシテ其ノ支持者タル立場ニ在リタルヲ奇貨トシ同年一月二十三日頃同府同郡高石町ノ右村田久之助居宅ニ於テ同

選舉事務長内定ト衆議院議員選舉法第一百五條第三號ノ選舉運動者 町長就任 希望ト同條ニ所謂特殊ノ利害關係 前科調書ト刑事訴訟法第三百四十二條



人ニ對シ前記古藤増治郎ノ選舉事務長タルコトヲ止メサルニ於テハ町長問題ニ付支援セサル旨申向ケテ前記選舉ニ關シ特殊ノ利害關係ヲ利用シテ右村田久之助ヲ威逼シタルモノナリ  
法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ衆議院議員選舉法第一百五條第三號ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ被告人ヲ罰金二百圓ニ處スヘク尙刑法第八條第十八條ニ則リ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ罰金額二圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人河合與上告趣意書ハ一、原判決ハ被告人ハ昭和十一年二月二十日施行セラレタル衆議院議員總選舉ニ際シ大阪府第六區(堺市岸和田市泉北郡泉南郡)ヨリ立候補シタル松田竹千代ノ選舉委員ナリシ處大阪府泉北郡選出府會議員村田久之助カ上記選舉區ヨリ立候補ヲ決意シ居タル古藤増治郎ノ選舉事務長ニ就任スルコトヲ承諾内定シタル旨ヲ聞知スルヤ若シ其ノ事實實現スルニ於テハ大阪府泉北郡ニ於ケル右松田竹千代ノ得票ニ多大ノ影響アルヘキヲ慮リ偶々當時同府同郡高石町町長ノ後任問題ニ關シ右村田久之助カ後任町長ノ一人ニ推サレ且同人ニ於テ同町長ニ就任シ度キ希望ヲ有シ居リ自己カ同町町會議員トシテ其ノ支持者タル立場ニ在リタルヲ奇貨トシ同年一月二十三日頃同府同郡高石町ノ右村田久之助居宅ニ於テ同人ニ對シ前記古藤増治郎ノ選舉事務長タルコトヲ止メサルニ於テハ町長問題ニ付支援セサル旨申向ケテ前記選舉ニ關シ特殊ノ利害關係ヲ利用シテ右村田久之助ヲ威逼シタルモノナリトノ事實ヲ認定シ右被告人ノ所爲ハ衆議院議員選舉法第一百五條第三號ニ該當スルモノトセラレタリ然レトモ右衆議院議員選

舉法第一百五條第三號ハ被威逼者ヲ選舉人議員候補者議員候補者タルトスル者選舉運動者又ハ當選人ニ限定セリ而シテ右法文カ特ニ議員候補者タルトスル者ヲ舉示セル處ヨリ見レハ右所謂選舉運動者中ニハ未タ選舉運動者トシテ届出ヲ爲ササル者ヲ包含セスト解スヘキモノナリト信ス然ラハ原判決カ被告人ノ村田久之助ニ對スル威逼ノ行爲カ村田久之助ノ選舉事務長選任届出前ナルコトヲ認定シ乍ラ被告人ノ所爲ヲ右法條ニ間擬セラレタルハ明カニ法律ノ適用ヲ誤リタル違法ノ裁判ナリト思料ス二、被告人ハ村田久之助ニ對シ直接ニモ古藤増治郎ノ選舉事務長タルコトヲ止メサルニ於テハ町長問題ニ付支援セサル旨申向ケタルコトナシ村田久之助ニ對スル檢事聽取書ニハ被告人カ高石町ノ村田久之助方ニ至リ直接村田ニ面接シ同人ニ對シ君カ是非事務長ニナルト云フナラ町長問題テ自分ハ君ヲ支持スルコトハ出來ナイト申向ケタル旨ノ村田久之助ノ陳述記載アレト被告人ハ一審二審並被告人ニ對スル司法警察官ノ聽取書ニ於テ何レモ本件ノ問題ニ付キテハ村田ノ妻ニ面接シ村田久之助ニ面接シタルコトナキ旨供述セリ只村田久之助カ檢事ノ取調ヲ受ケ前記ノ如ク自ら被告人ニ面接シタル旨ヲ陳述シタル後ニ於テ作成セラレタル被告人ニ對スル檢事聽取書ニ於テノミ村田ノ妻ニ面接シタルモ尙其ノ翌日村田ニモ面接シタル旨陳述セリ而シテ村田久之助ニ對スル檢事聽取書記載ノ同人ノ陳述ニハ措信シ得サルモノアリ即村田久之助ハ(イ)同聽取書三項四項ニ於テ本件ノ經過ニ付古藤方ニ於テ同人ヨリ事務長就任方ノ交渉ヲ受ケタルハ一月末頃ニシテ被告人ニ面接シタルハ夫レカラ二、三日後ナル旨陳述セルモ古藤増治郎ニ對スル檢事聽取書ニヨレハ同人ハ一月二十二日頃村田久之助ヲ自己ノ選舉事務長ニ内定シタル翌日即二十二日カ三日ノ夜藤原常吉及吉田松太郎ヨリ村田ノ選舉事務長就任辭退ヲ申出テタル旨陳述シ被告人カ一審公判ニ於テ藤原常吉ト共ニ村田久之助方ニ至リタル際ニハ同人ハ不在ニシテ同人ノ妻ヨリ村田ハ古藤ノ選舉事務長ニナル話ニテ古藤方ニ行キタル由ヲ聞知シタルニヨリ右妻ニ對シ事務長就任ハ拒絕シタル方ヨロシカルヘント申シタルカ其ノ翌日晚藤原常吉カ被告人方ニ來訪シ村田ハ古藤ノ選舉事務長ニ就任スルコトヲ拒絕シタル旨傳ヘタリトノ

選舉事務長内定ト衆議院議員選舉法第一百五條第三號ノ選舉運動者町長就任  
希望ト同條ニ所謂特殊ノ利害關係 前科調書ト刑事訴訟法第三百四十二條



供述ト符合シ此ノ點先ツ右村田久之助ノ陳述ハ誤リナルコト明白ナリ(ロ)同聽取書六項ニ於テ前述ヘタ如ク私カ古藤ノ選舉事務長ニナルナラハ前田ハ町長問題テ私ヲ支持シナイト言明シタノテスウナルト私ハ町長ニナレナイ此ノ問題迄犧牲ニシテ事務長ニナル必要ハナイト思ツタノテ矢張高石町ノ町會議員ノ一人テ私ノ支持者アル藤原常吉ヲ呼ヒ前田カ私ニ言ツタ通り話シ何シテモテアラウカト參考的ニ意見ヲ求メタラ云々ト陳述シ乍ラ同聽取書十項ニ於テ私ハ參考的ニ藤原ヤ吉田及中山末吉ニ此ノ問題テ相談致シマシタカ前田カ町長問題テ私ヲ支持シナイト言明シタ點ハ此ノ三人ニハ話シテ居リマセヌト前陳述ヲ訂正セリ此ノ訂正ニヨリテ藤原常吉ニ對スル司法警察官聽取書中ノ同人ノ陳述記載ノ前田左市ハ中略萬一村田カ古藤ノ事務長ニナルナレハ町長問題ハ獨自ノ行動ヲ採ルト暗ニ抽冬派ニ加擔スル様ナ口吻ヲ漏シ村田ニ對シ交渉ヲ致シマシタノテ云々ノ陳述ト符合スルニ至リタルナリ(ハ)同聽取書三項ニ於テハ一月末頃泉北郡濱寺町ノ家テ古藤ニ會フタ時同人カ私ニ自分ノ選舉事務長ニナツテ助ケテ呉レト申サレマシタ勿論之ニ對シ私ハ拒絕スル事ハ絕對ニ出來ナイ間柄テアリマス故一應形式的ニ考ヘテ返事スルト申シタモノノ腹ノ底テハ勿論承諾スル心算テ居リマシタ古藤トシテモ私ノ此ノ返事ハ單ナル儀禮的ナモノトシテ宜敷ク頼ムト言フタノテ私ハ大體ヤリマセウカマア兎ニ角考ヘサセテ貰ヒマセウト其ノ場ハ別レマシタト陳述シ乍ラ同人ニ對スル檢事第二回聽取書一項ニ於テ前回ノ取調ノ際承諾(選舉事務長就任ノ)ノ點ハ判然ト答ヘナカツタト申シマシタカ之ハ問違テ良ク考ヘテ見レハ其ノ場テ承諾シタノテアリマス訂正シ以テ古藤増治郎ニ對スル檢事聽取書中ノ同人ノ同主旨ノ陳述記載ト符合セシメタリ以上ノ如ク村田久之助ニ對スル檢事聽取書記載ノ同人ノ陳述ハ甚タ措信シ難ク被告人ハ全ク直接本件問題ニ付村田本人ニ面接シタルコトナキナリ而シテ被告人カ村田久之助ノ妻ニ申向ケタルハ只選舉事務長ヲ引受ケタナレバ仕方カナイ未タ引受ケテ居ナケレハ村田ヲ後任町長トシテ詮衡中テアリ若シ町長ニ當選スレハ選舉事務長ヲ辭退セネハナラスサウスレハ古藤モ迷惑スルカラ成ル可クナラ斷ツタ方カ良カラウトノ主旨ニシテ決シテ威逼的言辭ヲ弄

シタルニアラサルナリ然ルニ原判決ハ前記ノ如ク事實ヲ認定セラレタルハ重大ナル事實ノ誤認ナリト信スト云フニ在レトモ

原判示事實ハ論旨摘録ノ如クニシテ選舉事務長ニ就任スルコトヲ承諾内定シタル以上其ノ届出ノ有無ニ拘ラス所論法條ニ所謂選舉運動者ニ該當スルモノト謂フヘク又記録ニ徵スルモ原審ノ事實認定ニ重大ナル誤認アルコト疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト認ムルヲ得ス論旨理由ナシ

辯護人米村嘉一郎上告趣意書第一點ハ原判決ハ本件斷罪ニ對シ衆議院議員選舉法第一百五條第三號ヲ適用セラレタリ仍テ本件ハ本人及關係アル社寺學校會社組合市町村ニ對スル用水小作債權寄附其ノ他特殊ノ利害關係ヲ利用シタルヲ要件トス然ルニ本件ハ町長選舉ヲ利用シタリト云フニ在リテ右法條ノ特殊ノ利害關係ニ該當セサルモノナリト思料ス何トナレハ利害關係トハ利益又ハ害惡ノ關係ナラサルヘカラス其ノ利益ハ必スシモ金錢的利益ノミヲ指稱スルモノニアラサルモ必スヤ利益存セサルヘカラス然ルニ町長ニ當選スルト云フ事ハ之ヲ一個人ノ利益ナリト言フ能ハサルモノナリ町村制第六十一條ニハ町村長及助役ハ名譽職トストアリ又同法第八條ニハ町村公民ハ町村ノ名譽職ニ選舉セラルル權利ヲ有シ又之ヲ擔任スル義務ヲ負フトアリテ町長ニ選舉セラルル事ハ權利タルト同時ニ義務タルモノニシテ丁度兵役ノ權利及義務ト同一ノモノト云ハサルヘカラス何ソ之ヲ目シテ一私人ノ利益ナリト云フ事ヲ得ヘケンヤ即同條ノ利害ノ關係ナリト云フ能ハサル所以ナリトス例ヘハ選舉ハ一私人ノ利益ニアラス故ニ茲ニ反對政黨ノ者ニ對シ其ノ政黨ハ惡政黨ナリ反省セスハ吾人ハ投票セスト言ヒタルモノア

選舉事務長内定ト衆議院議員選舉法第一百五條第三號ノ選舉運動者 町長就任  
希望ト同條ニ所謂特殊ノ利害關係 前科調書ト刑事訴訟法第三百四十二條



ランカ即投票セストノ特殊ノ利害ヲ以テ威逼シタルモノト云ヒ得ヘケンヤ換言セハ甲政黨ノ演説者乙政黨ヲ演壇上ニテ惡罵シ斯ル政黨ニ投票スル勿レト言ヒタルハ別ニ本條ニ該當セサル事明白ナリ本件ニ於テ假ニ原判決判示ノ如キ事實被告人ニアリタリト假定スルモ即今回ノ衆議院議員選舉ニ際シ自分ト同一ナル政治上ノ立場ニ在ラサル場合ハ町長選舉ニ際シ自分ハ別個ノ政治上ノ立場ナル爲投票シ得サル旨告知シタリトスルモ前例ノ場合ト同一ニシテ選舉法第百十五條第三號ヲ適用スヘキニアラスト思料ス尙本條ハ用水小作債權寄附其ノ他之ニ類似スルモノナルカ故ニ町長タル公民權上ノ地位ノ如キモノヲ包含セサルモノトモ解シ得ラルヘシ但シ町長タル地位カ有給町長タル場合ニハ本條ヲ適用シ得ルカトモ思料セラル若シ斯ノ如ク解シ得ラルル場合ハ原審ニ於テ有給ナルヤ無給ナルヤヲ審理シ之ヲ判示セサルヘカラス之ヲ爲ササリシ原判決ハ如斯解スル場合ニ於テモ審理不盡理由不備ノ不法アルモノト云ハサルヘカラスト云ヒ」同第二點ハ選舉法第百十五條第三號ノ選舉運動者ナルモノハ必スシモ届出ヲ終了シタル選舉運動者タルヲ必要トセス事實上ノ選舉運動者タルヲ以テ足レリトスト解セラルヘシ然レトモソハ事實上ノ運動者タルヲ以テ足レリト云フノミニシテ選舉運動者タラムトスル者ヲ包含セサルコトハ議員候補者タラントスル者ト云フ特別ナル記載アルニヨリテ明瞭ナリト云ハサルヘカラス然ルニ本件ニ於テ村田久之助ハ法律上ハ固ヨリ事實上ノ選舉運動者タリシ事實ナシ只選舉運動者トナラムカト一應決意シタルノ事實アルノミニ一應考ヘタルノミノ事實ヲ以テシテ本條ノ選舉運動者ナ

リト云フ能ハサルモノナリ仍テ本件ハ選舉法第百十五條第三號ヲ適用スヘキ事案ニアラスト云フニ在レトモ

原判示事實ニ依レハ被告人ハ昭和十一年二月二十日施行セラレタル衆議院議員總選舉ニ際シ大阪府第六區ヨリ立候補シタル松田竹千代ノ選舉委員ナリシ處大阪府泉北郡選出府會議員村田久之助カ前記選舉區ヨリ立候補ヲ決意シ居リタル古藤増治郎ノ選舉事務長ニ就任スルコトヲ承諾内定シタル旨ヲ聞知スルヤ若シ其ノ事實實現スルニ於テハ同選舉區中泉北郡ニ於ケル松田竹千代ノ得票ニ多大ノ影響アルヘキヲ慮リ偶々當時同郡高石町町長ノ後任問題ニ關シ右村田久之助カ後任町長ノ一人ニ推サレ且同人ニ於テ同町長ニ就任シ度キ希望ヲ有シ居リ自己カ同町町會議員トシテ其ノ支持者タル立場ニ在リタルヲ奇貨トシ同年一月二十三日頃右村田久之助宅ニ赴キ同人ニ對シ古藤増治郎ノ選舉事務長タルコトヲ止メサルニ於テハ町長問題ニ付支援セサル旨申向ケ以テ前記選舉ニ關シ特殊ノ利害關係ヲ利用シテ村田久之助ヲ威逼シタリト謂フニ在リサレハ敍上ノ如ク選舉事務長ニ就任スルコトヲ承諾内定シタル以上未タ選舉運動ニ著手スルニ至ラストスルモ所論法條ニ所謂選舉運動者ニ該當スルモノト謂フヘク又敍上ノ如ク町長ニ就任シ度キ希望ヲ有シ居ル選舉事務長即選舉運動者ニ對シ町會議員ニシテ而モ其ノ支持者タル立場ニ在ル者カ選舉事務長タルコトヲ止メサルニ於テハ町長問題ニ付支援セサル旨申向ケルハ所論法條ニ所謂選舉運動者ノ特殊ノ利害關係ヲ利用シテ其ノ選舉運動者ヲ威逼シタルトキニ該當

## 【要旨第一】

## 【要旨第二】

選舉事務長内定ト衆議院議員選舉法第百十五條第三號ノ選舉運動者 町長就任  
希望ト同條ニ所謂特殊ノ利害關係 前科調書ト刑事訴訟法第三百四十二條



スルモノト解スヘク其ノ町長ノ有給ナルト名譽職ナルトニヨリ影響ヲ受クヘキモノニ非サレハ原判決ニハ所論ノ如キ審理不盡理由不備擬律錯誤等ノ違法アルモノト謂フヘカラス論旨何レモ理由ナシ同第三點ハ原審タル大阪地方裁判所第四刑事部ニ於テ第一回公判開廷前タル昭和十一年七月三日付ヲ以テ刑事訴訟法第三百二十八條ニ依リ公務所タル大阪地方裁判所檢事局ニ對シ被告人ノ前科等ニ對シ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルノ照會ヲ爲シ其ノ報告ハ七月六日付ヲ以テ原裁判所ニ到著シタルモノナリ(百四十丁記録添附)即第一回公判期日前ノモノタルヤ明カナリ仍テ刑事訴訟法第三百四十二條ニ依リ公判廷ニ於テ之カ取調ヲ爲ササルヘカラス然ルニ原審公判調書ヲ見ルニ之カ取調ヲ爲シタル事實ナシ記録百五十三丁裏ニ裁判長ハ本件ノ證據トシテ一、原審公判調書一、檢事ノ各聽取書ノ要旨ヲ告ケ云々トアルノミニシテ右ノ報告書(回答書)ニ對シ證據調ヲ爲シタルコトナシ記録中其ノ他ノ部分ニモ此ノ證據書類ニ對シテ證據調ヲ爲シタル事實ナク又訴訟關係人ニ異議ナカリシ事實モ存在セス仍テ明カニ刑事訴訟法第三百四十二條ニ違背セルモノニシテ同法第四百十條第十三號ノ法律ニヨリ公判ニ於テ取調フヘキ證據ノ取調ヲ爲ササリシトキニ該當シ常ニ上告理由アリ到底原判決ハ破毀ヲ免レサルモノト云ハサルヘカラスト云フニ在レトモ

## 【要旨第三】

記録ニ依レハ所論ノ文書ハ前科調書ニ外ナラス前科調書ハ刑事訴訟法第三百四十二條ニ所謂證據物ニ非サルハ勿論本件ノ如キ衆議院議員選舉法第一百五條第三號所定ノ被告事件ニ在リテハ罪トナルヘキ事實ノ有無ニ何等ノ關係ナキモノナレハ前記法條ニ所謂證據書類ニモ該當セスサレハ原審公判ニ於テ該前科調書ニ付所謂證據調ヲ爲ササレハトテ同法第四百十條第十三號ニ該當スル違法アルモノト謂フヲ得ス論旨理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事平井彦三郎關與



○内務省令警察犯處罰令違反被告事件(昭和十二年(九)第一九四九號  
同年十二月三日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 龜井サト 辯護人 酒井英次郎

【第一審】 秋田區裁判所 【第二審】 秋田地方裁判所

○判示事項

密賣淫容止罪ノ成立

○判決要旨

豫メ房屋ヲ準備シ密賣淫婦ヲ抱ヘ置キ來客アリタルトキハ隨時ニ  
賣淫ヲ爲スヘキコトヲ懲憑シタル者ハ個々ノ賣淫行爲力不在時ニ  
行ハレタリトスルモ容止罪ノ成立ヲ妨ケルモノニアラス

【参照】 内務省令警察犯處罰令第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘

密賣淫容止罪ノ成立



(中略)

二 密賣淫ヲ爲シ又ハ其ノ媒合若ハ容止ヲ爲シタル者

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法令ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ拘留五日ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ秋田市上米町一丁目四十二番地ニ於テ料理屋ヲ營ミ抱酌婦愛子事富樫トキヨ當十八年ヲ寄寓セシメ居リタルモノナルトコロ昭和十一年三月三日午前一時三十分頃右トキヨカ來客ヨリ金二圓ヲ受取り密賣淫ヲ爲シタル際之ニ居室ヲ供シ密賣淫ノ容止ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ明治四十一年內務省令第十六號警察犯處罰令第一條第二號後段ニ該當スルヲ以テ所定刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ拘留五日ニ處スヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人酒井英次郎上告趣意書ハ一、原判決ハ其ノ理由ニ於テ被告人ハ秋田市上米町一丁目四十二番地ニ於テ料理屋ヲ營ミ抱酌婦愛子事富樫トキヨ當十八年ヲ寄寓セシメ居リタルモノナルトコロ昭和十一年三月三日午前一時三十分頃右トキヨカ來客ヨリ金二圓ヲ受取り密賣淫ヲ爲シタル際之ニ居室ヲ供シ

以テ密賣淫ノ容止ヲ爲シタルモノナリト認定シ被告人ヲ拘留五日ニ處シタリ二、而シテ右認定ニ係ル證據判示事實ハ(一)被告人ノ當公廷ニ於ケル自分ハ判示場所ニ於テ料理屋ヲ營ミ判示酌婦ヲ寄寓セシメ居ル旨ノ供述(二)被告人ニ對スル司法警察官聽取書中ニ同人ノ供述トシテ自分方ノ酌婦ノ前借ハ現在三百六、七十圓ナリト思フカ其ノ返還方法ハ稼高ノ四分ト云フコトニナリ居リ稼高ト申スモ賣淫丈ナリ自分ハ一人ニテ營業シ居ル故自分不在ノトキノ營業方法ハ女ヲ雇入レタ當時一々之ヲ教ヘ居ル故御茶飲客ニテモ御酒ヲ上ル方ニテモ又泊ル(賣淫ノコト)客ニテモ取扱方ヲ豫メ知ラセ置クニヨリ女達ノスルコトハ皆諒解シ居レリソレ故自分不在中上リタル客カアレハ料金ハ全部金庫内ニ入レ置キ自分カ歸リ來ルト女ノ方ヨリ夫々自分ニ報告スル様ニナリ居レリ自分ハ昭和十一年三月二日午後十一時頃ヨリ外出シ翌日午前二時近クニ歸リタルカ後カラ愛子ヨリ聞キタルニ自分ノ不在中愛子ハ客ヲ取り二圓ニテ其ノ客ト寢テ賣淫シタリト云フコトナリシ旨ノ記載(三)富樫トキヨニ對スル司法警察官聽取書中同人ノ供述トシテ自分ハ丸里方ニ前借四百圓アリ前借ノ返還方法ハ稼高ノ四分ツツ借金ニ操リ入レ返濟スルモノナルカ稼高ト云フモ酌婦料又ハせんこうヲ取り働クノテモナキ故只惡イコトナカラ賣淫料丈ノ働キ高ト云フコトニナリ自分ノ家ニテハ主人龜井サトハ不在ノトキニテモ御客サンニ對シ御茶ヲ出シ御酒ヲ飲マセ又ハ御客ヲ泊メテ賣淫ヲスルコトヲ平素ニ於テ認メ居ルヨリ自分ハ主人ノ不在ナルトキモ豫メ了解ヲ得テ居ル故賣淫モ爲シ金ハ金庫ノ中ニ入レ置キ後カラ主人ニ一々報告



スルカ借金ノ返済金ハ賣淫料ノミナルヨリ前々ニモ幾回モ賣淫シ居リ三月二日午後十二時過若イ客カ  
上リ其ノ客ハ金二圓ヲ出シ泊ルト申スヨリ其ノ金ヲ貰ヒ自分ハ床ヲ延ヘソノ人ト二回ニ互リ交接シタ  
ル旨ノ記載トヲ綜合シテ之ヲ認メ被告人ノ所爲ハ明治四十一年内務省令第十六號警察犯處罰令第一條  
第二號後段ニ該當スヘキモノトシテ拘留五日ニ處シタリ三、然レトモ警察犯處罰令第一條第二號後段  
ニ所謂容止トハ密賣淫行爲ヲ現實ニ認識シナカラ之ヲ制止セサル場合ヲ謂フモノニシテ本件ノ如ク世  
帶主タル被告人カ不在中ニ密賣淫ヲ爲シタルモノアリトテ其ノ世帶主タル被告人ヲ罰スヘキ趣旨ニア  
ラス被告人カ富樫トキヨノ賣淫行爲ヲ認識セサリシコトハ原判決ニ舉示セラレタル事實ニ徴シテ明カ  
ナル所ナリ以上ノ點ヨリ看ルモ原判決ハ破毀セラルヘキモノト信スト云フニ在レトモ  
警察犯處罰令第一條第二號ニ所謂容止トハ現實ニ密賣淫行爲ヲ認識シナカラ之ヲ制止セサル場合ニ限  
ラス豫シメ房屋ヲ準備シ密賣淫婦ヲ抱ヘ置キ苟モ來客アルトキハ隨時ニ賣淫ヲ爲スヘキコトヲ懲憑シ  
居リタル如キ場合ニ於テハ偶々個々ノ賣淫行爲アリタルノ時ニ於テ不在ナリシトスルモ固ヨリ容止罪  
ノ成立ヲ妨クルモノニアラス原判決ノ證據ニ依リ認メタル事實ニ依レハ被告人ハ料理屋ヲ營ミ抱酌婦  
富樫トキヨヲ寄寓セシメ置キ賣淫ニ付キ豫シメ客ノ取扱方ヲ知ラセ置キタルニ判示日時同人カ來客ヨ  
リ金二圓ヲ受取り密賣淫ヲ爲シタルモノナリト云フニアルヲ以テ原判決ニハ所論不法ノ點ナク論旨ハ  
理由ナシ

【要旨】

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事黒川涉關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件(昭和十二年(九)第一五八三號  
同年十二月五日第五刑事部判決 破毀自判)

【上告人】 被告人 山崎 正辰 辯護人 山中 傳

【第一審】 高知區裁判所 【第二審】 高知地方裁判所

○判示事項

適法ナル選舉運動費用ノ取次

○判決要旨

議員候補者力選舉事務長ニ適法ナル選舉運動ノ費用ヲ交付スルニ  
際リ其ノ取次ヲ爲スハ選舉法違反ニ非ス

適法ナル選舉運動費用ノ取次



【参照】衆議院議員選舉法第九十六條第一項 議員候補者、選舉事務長又ハ選舉委員ニ非ザレバ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ズ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲スハ此ノ限リニ在ラズ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金二十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ十日間勞役場ニ留置ス被告人ニ對シ衆議院議員選舉法第三百三十七條第一項五年間選舉權及被選舉權ヲ有セサル旨ノ規定ヲ適用セサル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十一年二月二十日施行ノ衆議院議員選舉ニ際シ高知縣第二選舉區ヨリ立候補シタル依光好秋ノ法定ノ選舉運動者ニ非サルニ拘ラス同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同年一月末高知市浦戸町浦戸旅館ニ於テ右候補者ヨリ其ノ選舉事務長岡林氣魯男ヲシテ有效ニ使用セシムル爲同入ニ對シ適宜數回ニ交付セラレ度キ旨ノ依頼ヲ受ケ其ノ選舉運動費用金七千圓ヲ預リ之ヲ同月三十一日同年二月六日及同月十四日ノ三回ニ同市本町三丁目政友會高知支部ニ於テ右岡林氣魯男ニ交付シ以テ無資格選舉運動ヲ爲シタルモノナリ  
法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ衆議院議員選舉法第九十六條第一項第二百二十九條ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金二十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ依リ被告人ヲ十日間勞役場ニ留置スヘク尙被告人ニ對シ情狀ニ因リ衆議院議員選舉法第三百三十七條第三項ニ依リ同條第一項五年間選舉權及被選舉權ヲ有セサル旨ノ規定ヲ適用セス

○主 文

原判決ヲ破毀ス

被告人ハ無罪

○理 由

辯護人山中傳上告趣意書原判決摘示ノ事實ハ昭和十一年二月二十日施行ノ衆議院議員選舉ニ際シ高知縣第二區ヨリ立候補シタル依光好秋ヨリ其ノ選舉事務長岡林氣魯男ニ交付セラレ度キ旨ノ依頼ヲ受ケ其ノ選舉運動費用金七千圓ヲ預リ之ヲ三回ニ右岡林ニ交付シ無資格選舉運動ヲ爲シタリト判示シ同法第九十六條第一項同第二百二十九條ヲ適用處斷シタリ右同第二百二十九條ハ第九十五條ノ二第九十六條第一項第九十八條若クハ第九十八條ノ二ノ規定ニ違反シタル者トアリ第九十六條第一項ハ議員候補者選舉事務長又ハ選舉委員ニ非ザレバ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ストアリ、本件被告ノ所爲カ果シテ選舉運動ト認定シ得ルヤ若シ之ヲ肯定セントスルトキハ政黨本部カ候補者又ハ事務長ニ選舉費ヲ交付スルノ行爲又ハ政黨本部ヨリ政黨支部ヲ通シ候補者又ハ選舉事務長ニ選舉費ノ取次交付ヲ爲スノ行爲或ハ議員候補者ノ知人親族例ヘハ兄弟妻子ヲ通シ選舉事務長ニ選舉費ノ取次交付ヲ爲スノ行爲等何レモ第九十六條第一項ノ違反罪ト論セサルヘカラス然ルニ前記ノ如キ關係ハ公然何等法ノ間フ處ナク爲シ來レル百般ノ事情ヨリ推シ本件カ犯罪ヲ構成セサルヤ論ナシ、殊ニ被告人ハ高知政友會支部ノ常任總務ノ地位ニアリテ支部幹部トシテ選舉費ノ取次交付ヲ爲シタルニ過キス其ノ間何等犯意ノ存スル處ナシ



意思ナキ處ニ犯罪ナク本件ハ主觀的要件ヲ缺如スルヲ以テ犯罪ヲ構成スル處ナシ原判決ハ所論ノ違法アリテ破毀サルヘキモノト思料候也ト謂フニ在リ

案スルニ原判決ノ確定セル事實ハ要スルニ被告人ハ昭和十一年二月二十日施行セラレタル衆議院議員總選舉ニ際シ高知縣第二選舉區ヨリ立候補シタル依光好秋ノ法定ノ選舉運動者ニ非サルニ拘ラス同年一月末高知市浦戸町浦戸旅館ニ於テ右候補者ヨリ其ノ選舉事務長岡林氣魯男ヲシテ選舉運動ノ費用トシテ有效ニ使用セシムヘキ趣旨ノ下ニ金七千圓(法定額以下)ヲ預リ之ヲ同月三十一日同年二月六日及同月十四日ノ三回ニ同市本町政友會高知支部ニ於テ右岡林氣魯男ニ交付シタリト謂フニ在ルトコロ議員候補者カ選舉事務長ニ適法ナル選舉運動ノ費用ヲ交付スルハ選舉運動ノ準備行為ニシテ未タ以テ選舉運動自體ナリトナスヘキニ非サルヲ以テ法定ノ選舉運動者ニ非サル被告人カ前示ノ如ク候補者ノ意ヲ受ケ選舉運動ノ費用ヲ選舉事務長ニ取次キ交付シタレハトテ何等違法ニ非ス然ルニ原判決カ被告人ノ右行為ヲ以テ衆議院議員選舉法第九十六條第一項第二百二十九條ニ該當スル無資格選舉運動ナリト認メタルハ不法ニシテ論旨結局理由アリ原判決ハ破毀ヲ免レス本件ハ罪トナラサルモノトシテ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

仍テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條第四百五十五條前段第三百六十二條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事佐々波與佐次郎關與

○傷害被告事件(昭和十一年(九)第二四八二號  
同年十二月七日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 安原和男 辯護人 土井龜治  
【第一審】 龍野區裁判所 【第二審】 神戸地方裁判所

○判示事項

刑法第三十六條ト防衛意思

○判決要旨

急迫不正ノ侵害アル場合ト雖之ニ對スル行為カ防衛ヲ爲ス意思ニ出テタルモノニ非サル限り之ヲ正當防衛又ハ其ノ程度超越ヲ以テ目スヘキモノニ非ス

刑法第三十六條ト防衛意思



【參照】 刑法第三十六條 急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ  
已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰セス  
防衛ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

○ 事 實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ科料金五圓ニ處ス右科料ヲ完納スルコト  
能ハサルトキハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス第一審ニ於ケル訴訟費用ハ全  
部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十一年三月二十二日午後一時頃兵庫縣赤穂郡相生町松ノ浦道路ノ南西相生港岸壁ニ於テ北川新治等ト共  
ニ同所岸壁ニ繫留セル發動機船ヨリ道路工用砂利ノ陸揚運搬作業ニ從事中北川新治カ附近ニ居合セタル鮮人女崔谷  
連ニ對シ卑猥ナル鮮語ヲ以テ擲諭シタルコトヨリ同女ノ憤怒ヲ買ヒ互ニ口論ノ末北川新治ハ天秤棒ヲ以テ同女ヲ毆打  
スルニ至リタルカ附近岸壁上ニ於テ之ヲ傍觀シ居タル被告人ハ同人等ノ中ニ入り喧嘩ヲ仲裁セント試ミタルモ同人等  
カ容易ニ肯セサリシヲ以テ前同所ニ引返シタルトコロ其ノ間北川新治カ前記發動機船ニ逃ルルヤ崔谷連ハ被告人ニ立  
向ヒ來リ突然被告人ノ胸倉ヲ擲ミタルヲ以テ被告人ハ之ニ憤激シ同所ニ於テ同女ヲ海ニ向ヒ突飛ハシ右岸壁ヨリ海中  
ニ墜落セシメ因テ同女ニ對シ治療約四日間ヲ要スル海水嚙下ニ因ル氣管枝炎症ヲ負ハシメタルモノニシテ被告人ハ心  
神耗弱ノ状態ニ在リタルモノナリ  
辯護人ハ被告人ノ本件所爲ハ正當防衛ニシテ假ニ然ラストスルモ過剰防衛ナル旨主張スレトモ被害者崔谷連ノ被告人  
ニ對スル本件ノ所爲ハ被告人及崔谷連ノ年齢性別體力ノ差異其ノ他犯行當時ノ諸般ノ情況ニ關スル被告人ノ當公廷ニ

於ケル供述ニ徵スルモ未タ之ヲ以テ急迫ナル侵害トハ認メ難ク且被告人ハ崔谷連ヨリ胸倉ヲ擲マレ之ニ憤激シテ判示  
暴行ニ出テタルコト被告人ノ當公廷ニ於ケル供述ニ據リ明カナルヲ以テ被告人ノ本件所爲ハ判示不正ノ侵害ヲ防衛ス  
ル爲出テタルモノニ非スト認定スルノ外ナク被告人ノ判示所爲ニハ到底正當防衛ノ觀念ヲ容ルルノ餘地存セサルモノ  
トス果シテ然ラハ正當防衛ノ程度ヲ超過シタリト主張スル過剰防衛ノ成立ヲモ認ムルコト能ハサルヤ勿論ニシテ辯護  
人ノ辯疏ハ凡テ排斥ヲ免レス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百四條ニ該當スルヲ以テ所定刑中科料刑ヲ選擇シ被告人ハ心神耗弱者ナル  
ヲ以テ同法第三十九條第二項第六十八條第六條ニ則リ其ノ刑ヲ減輕シタル科料金額範圍内ニ於テ被告人ヲ科料金五圓  
ニ處シ右科料ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ依リ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留  
置スヘク尙原審ニ於ケル訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ヲ適用シテ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモ  
ノトス

○ 主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○ 理 由

辯護人土井龜治上告趣意書第一點本件ハ擬律ノ錯誤アリ即原判決ニヨレハ被害者崔谷連ノ被告人ニ對  
スル本件ノ所爲ハ被告人及崔谷連ノ年齢性別體力ノ差異其ノ他犯罪當時ノ諸般ノ狀況ニ關スル被告人  
ノ當公廷ニ於ケル供述ニ徵スルモ未タ以テ急迫ナル侵害トハ認メ難ク且被告人ハ崔谷連ヨリ胸倉ヲ



擱マレテ之ヲ憤激シテ判示暴行ニ出テタルコトハ當公廷ニ於ケル供述ニ據リ明カナルヲ以テ被告人ノ本件行爲ハ急迫不正ノ侵害ヲ防衛スル爲出テタルモノニアラスト認定サレ居ルモ被害者崔谷連當時ノ體力又ハ當時ノ氣勢ニ關シテハ同人ノ職業(土方ニ類スル仕事ニ從事ス)及北川新治ニ擱ミ掛リタル狀況ヨリ見テ同年輩ノ婦人ト異ナルコトヲ認メ得ヘク第一審公判調書ニヨルモ判示ノ問ニ對シ被告人ハ「前略私ハ夫レヲ仲裁スル爲同人等ノ傍ニ行キマシタ處右朝鮮ノ女ハ私ヲ北川ト同類ノ者テ加勢ニ來タ様ニ思ツタノカ今度ハ私ノ胸倉ヲ擱ンテ突然飛懸ツテ來タノテ……後略」私ハ其ノ時夢中テアリマシタカラ什ウニモナリマセンテシタ」及第一審第二回公判大壁伍助ノ證言ニヨレハ「前略北川ニ籠ヲ投付ケ今度ハ安原和男ノ胸倉ヲ擱ンテ同人ヲ押シテ居リマシタカ云々」ヨリ看テ縱へ原審公判ニ於テ被告人ハ「ワシノ胸倉ヲ取ツタ丈ケタ」ト答ヘ居ルニセヨ被告人ハ強度ノ精神耗弱者ナルノ關係ト日時經過ノ爲記憶ヲ薄ラキ且意思ノ表示拙ナルカ爲又更ニ被告人ニ於テハ道義上ヨリ看テ寧ロ賞讃サルヘキ所爲ナルニ何回ト繰リ返シ訊ネラルルヲ喜ハス斯クハ答ヘタリト認ムヘク之アルカ爲直ニ急迫不正ノ侵害ナシトスルハ被告人ノ心神ヲ考慮セス被告人ヲ責ムルノ甚タ酷ニシテ急ナルモノト謂フヘシ若シ夫レ「被告人カ之ヲ憤激シテ判示暴行ニ出テタルコト云々」ニ至リテハ事實ト相違スルコト甚タシク之ヲ原審公判調書ニ見ルモ「前略右彼女カワシノ胸倉ヲ擱ンタカラ癢ニ觸リ何スルゾイト云フテ彼女ヲ突飛ハシタラ同人ハ海ノ中ニ落ちタンデヤ」ニヨリ窺ヒ知ル依ツテ本件ハ所謂正當防衛ニシ

テ刑法第三十六條ニ該當シ且其ノ動機及被告人ノ心神程度ヲ考慮シ無罪又ハ免除サルヘキモノトス假ニ然ラストスルモ崔谷連カ非常ナ勢テ胸倉ヲ擱ミ飛ヒカカリタル際之ヲ離ス爲兩手テ突クト云フコトハ正ニ止ムナキ行爲ニシテ所謂正當ナル所爲ナルヘク從ツテ條理上刑法第三十五條ヲ適用スヘキモノトス而シテ偶々被害者崔谷連カ海中ニ落ち負傷シタリトスルモ右ハ被告人憤激ニ基ク所爲ニアラス被告人ト海トノ距離僅ニ三尺五寸(第一審五月二十四日檢證調書圖面(二)點)ニシテ其ノ中間大體一尺七寸五分(海岸ハ海ニ向ツテ稍々低シ)ノトコロニ崔谷連カ立チ居リタルモノナルヲ以テ單ニ離スカ爲ニ押シタルカ折惡シク地盤カ海ニ向ツテ低カリシト北川ノ爲負傷シタルニ原因シ海ニ落ちタルモノナリト云フニ在レトモ

原判示事實ハ原判決學示ノ證據ニ依リ之ヲ認定スルニ足り記録ニ徵スルモ原審ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナク而シテ崔谷連ハ被告人ニ立向ヒ來リ突然被告人ノ胸倉ヲ擱ミタルヲ以テ云々ナル原判示ニ依レハ崔谷連カ被告人ノ生命身體ニ對シ急迫不正ノ侵害ヲ加ヘツツアリタルカ如キ觀アリ從テ被告人ノ判示所爲ハ急迫ノ侵害ニ對スル正當防衛ノ過剰ニ非スト説明シタル原判決ハ其ノ形式妥當ナラスト雖モ元來刑法第三十六條ハ加害行爲ニ付防衛意思ノ存在ヲ必要トスルモノニシテ縱令急迫不正ノ侵害アル場合ナルニモセヨ之ニ對スル行爲カ防衛ヲ爲ス意思ニ出テタルモノニ非サル限り之ヲ以テ正當防衛又ハ其ノ程度超越ヲ以テ目スヘキモノニ非スト解スルヲ正當ナリ

## 【要旨】



トシ而シテ判示證據説明ト對照シ仔細ニ之ヲ考察スルトキハ原審ハ被告人ノ行爲ヲ以テ防衛意思ニ出テタルモノニ非スト爲シタルモノナルカ故ニ之ニ對シ刑法第三十六條ヲ適用セザリシハ結局正當ニシテ擬律錯誤ノ違法ナシ又斯カル場合カ刑法第三十五條ニ該當セサルコト勿論ニシテ其ノ他原審認定ト相容レサル所論ハ採用ノ限リニ在ラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事秋山要關與

○詐欺被告事件

(昭和十一年(九)第二一七六號  
同年十二月八日第四刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人

片岡豐太郎

辯護人

高尾恭一  
大八木喬  
松久利市

外二名

【第一審】 福岡地方裁判所小倉支部

【第二審】

長崎控訴院

○判示事項

他人ノ事件ニ付爲シタル證言ノ自己ノ事件ニ對スル證據力

○判決要旨

甲カ自己ト共犯關係アル乙被告事件ニ付證人トシテ爲シタル供述ハ其ノ後ニ於ケル甲自身ノ被告事件ニ對シテモ證據力アルモノトス

【參照】 刑事訴訟法第三百三十七條 證據ノ證明力ハ判事ノ自由ナル判斷ニ任ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人豊太郎ヲ懲役一年六月被告人團次ヲ懲役二年ニ被告人梓ヲ懲役一年ニ各處ス但シ被告人豊太郎ニ對シ第一審ニ於ケル未決勾留日數中二百五十日ヲ被告人團次ニ對シ同二百七十日ヲ各右本刑ニ算入ス訴訟費用中第一審公判ニ於ケル證人島川久吉沖村貞一草村伊勢ニ支給シタル分ハ被告人三名ノ連帶負擔トシ其ノ餘ノ分ハ全部被告人豊太郎團次ノ連帶負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 被告人松尾團次ハ中川松太郎所有ニ係ル八幡市大字槻田字杭木千五百十五番地ノ七田一反二畝二十四歩及同番地ノ一田四歩カ孰レモ道路敷地トナリ一般交換價格ナキモノナルニ拘ラス登記簿上ニ於テハ依然私有地トシテ登

他人ノ事件ニ付爲シタル證言ノ自己ノ事件ニ對スル證據力



録サレ居リ道路敷地タルコト判明セサルヲ奇貨トシテ之ヲ安價ニ買受ケタル上道路敷地ニ非サル相當價値アル土地ナルカ如ク装ヒ他ニ擔保ニ差入レテ貸借名義ノ下ニ金員ヲ騙取センコトヲ企テ昭和八年八月下旬右所有者中川松太郎ト一坪一圓ノ割合ヲ以テ右土地ニ付買受ノ約束ヲ爲シタル後被告人片岡豐太郎ニ其ノ情ヲ明シテ共謀シ先ツ被告人豐太郎ニ於テ同年九月初旬被告人福原梓ニ對シ右事情ヲ祕シ該土地ヲ擔保ニ金員借入ノ周旋ヲ依頼シ同人ヲ通シ芥川實藏ニ金借ヲ申込ミ實藏カ該土地ノ實地檢分ニ來ルヤ同人ニ對シ該土地ノ實地ナリトシテ之ニ隣接スル他人所有ノ空地ノ一部ヲ指示シ坪數ノ不足セル部分ハ道路ノ敷地ニ編入セラレタルモノノ如ク告ケ實藏ヲシテ其ノ旨誤信セシメ該二筆ノ土地ヲ擔保ニ金四千圓ノ貸與方ヲ承諾セシメ被告人團次ニ於テ同月十八日前記中川松太郎ヨリ該土地ノ所有權移轉登記ヲ告ケ實藏ノ求メヨリ債權者名義ヲ池口澄子トシテ抵當權設定登記ヲ爲シタル上同日及同月二十七日ノ兩度ニ八幡市料理屋川傳ニ於テ實藏ヨリ貸借名義ノ下ニ現金合計三千五百圓ノ交付ヲ受ケテ之ヲ騙取シ第二 被告人片岡豐太郎ハ芥川實藏カ右指示ニ係ル空地ヲ前叙二筆ノ土地ナリト誤信シ居ルニ乘シ更ニ該二筆ノ土地ノ賣買ニ名ヲ藉リ實藏ヨリ金員ヲ騙取センコトヲ企テ右抵當權設定登記ノ日タル昭和八年九月十八日被告人福原梓ニ對シ具ニ上叙ノ事情ヲ打明ケテ此ノ企圖ニ參加セシメ先ツ被告人梓ニ於テ實藏ニ該土地ノ買取方ヲ勸誘シ實藏カ被告人梓及同豐太郎カ共同買主ト爲リ代金ノ一部ヲ出金スルニ於テハ代金七千圓ヲ以テ買受クヘキ旨ヲ漏ラスヤ被告人豐太郎同梓ニ於テ共同買主トナリ代金ノ一部ヲ出金スヘキ旨申欺キテ實藏ヲシテ愈々買受ノ決意ヲ爲サシメタル上被告人松尾團次ニ右騙取ノ情ヲ明カシテ之ニ加擔セシメ茲ニ被告人三名共謀シテ被告人團次ハ賣主トナリ前記圓ヲ被告人梓ニ於テハ代金ノ内千圓ヲ被告人團次ヨリ各借受出金スルモノノ如ク装ヒテ實藏ヲシテ其ノ旨誤信セシメ該土地買受方ヲ承諾セシメ同年十月七日被告人團次ヨリ實藏ニ對シ該土地ノ所有權移轉登記手續ヲ經由シタル上

同日賣買代金名義ノ下ニ實藏ヲシテ前記川傳ニ於テ現金千圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シタルモノナリ

而シテ被告人片岡豐太郎同松尾團次ノ第一、二ノ詐欺ハ夫々犯意繼續ニ出テタルモノトス  
 法律ニ照スニ被告人片岡豐太郎同松尾團次ノ判示第一、二ノ所爲ハ刑法第二百四十六條第一項第五十五條第六十條ニ被告人福原梓ノ判示第二ノ所爲ハ刑法第二百四十六條第一項第六十條ニ各該當スルヲ以テ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ被告人三名ヲ夫々主文掲記ノ如ク量定處斷スヘク尙同法第二十一條ニ從ヒ被告人片岡豐太郎ニ對シテハ原審ニ於ケル未決勾留日數中二百五十日ヲ被告人松尾團次ニ對シテハ同二百七十日ヲ何レモ右本刑ニ算入シ訴訟費用ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ則リ主文特記ノ如ク負擔セシムヘキモノトス  
 尙第一審檢事ハ最初本件被告人三名ニ詐欺ノ共犯關係アルモノト認メ豫審判事ニ對シ右三名ノ強制處分手續ヲ請求シタルモ豫審判事カ其ノ強制處分ヲ了シテ關係書類ヲ檢事ニ送付スルヤ檢事ハ先ツ該被疑者中片岡豐太郎及松尾團次ノ詐欺被告事件ニ付豫審ヲ請求シタルノミニテ福原梓ニ對シテハ未タ豫審ノ請求ヲ爲ササリシニヨリ豫審判事ハ右片岡豐太郎等ノ豫審事件ニ付取調ノ必要上福原梓ヲ證人トシテ訊問シ其ノ調書ヲ作成シタルカ檢事ハ其ノ後福原ニ對シテモ豫審ノ請求ヲ爲シタリ而シテ原審ハ被告人等三名ノ犯罪事實ヲ斷定スルニ當リ福原ノ豫審ニ於ケル證人調書ニ記載セラレタル供述ヲ證據トシテ採用シタルモノトス

○ 主 文

他人ノ事件ニ付爲シタル證言ノ自己ノ事件ニ對スル證據力



本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

一五七〇 (七三)

○理由

被告人片岡豊太郎辯護人妹尾恭一 高桑滯上告趣意書第二點原判決ハ判示第二ニ於テ「被告人片岡豊太郎ハ芥川實藏カ右指示ニ係ル空地ヲ前敍二筆ノ土地ナリト誤信シ居ルニ乘シ——被告人福原梓ニ對シ具ニ上敍ノ事情ヲ打明ケテ此ノ企圖ニ參加セシメ——實藏ヲシテ其ノ旨誤信セシメ該土地買受ケ方ヲ承諾セシメ——賣買代金名義ノ下ニ現金千百圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シタルモノナリ」ト判示シ右事實ノ證據トシテ證人福原梓ニ對スル豫審第二回訊問調書ノ同證人ノ供述ヲ採ツテ以テ罪證ニ供シタリ然レトモ右福原梓カ證人トシテ之カ訊問ヲ受ケタル當時ニ於テハ同人ハ本件詐欺被告事件ニ付被告人片岡豊太郎ト共犯關係アルモノトシテ告訴セラレ居リ既ニ檢事ノ請求ニヨリ強制處分ノ爲判事ノ訊問ヲ受ケ居リタルモノナレハ尠ク共被告人片岡豊太郎ト被告人福原梓トノ本件犯罪共謀ノ點ニ關シテハ證人トシ之ヲ訊問スルヲ得サルモノナリ蓋被疑者ハ供述ノ義務アルモノニ非サルニ反シ證人ハ眞實ヲ陳述スヘキ義務アルモノナレハ其ノ兩者ノ地位ハ互ニ氷炭相容レサルモノナレハナリ果シテ然ラハ右福原梓ノ訊問調書ハ無効ノモノナルヲ以テ原判決カ之ヲ引用シタルハ違法ニシテ破毀セラルヘキモノナリ又何人ト雖自己ノ犯罪事實ニ付自己カ證人トシテ訊問セラルヘキモノニ非サルハ勿論ニシテ假ニ訊問セラレタリトスルモ其ノ供述ニヨリ斷罪セラルヘキ筋合ノモノニ非ス然ルニ原判決ハ被告人

福原カ被告人片岡ト共謀シテ冒頭記載ノ犯罪ヲ爲シタリトノ點ニ付キ福原自身ノ前記證言ヲ採ツテ以テ斷罪ノ資料ニ供シタリ然レトモ右訊問調書ハ到底福原自身ノ斷罪ノ資料ト爲スヲ得サルモノナレハ延イテハ之ト共犯關係アル被告人片岡豊太郎ノ判示第二ノ事實ニ付キテモ斷罪ノ資料ニ供スヘカラサルモノナリト謂ハサルヘカラスサレハ福原ノ豫審第二回證人訊問調書ヲ被告人片岡ノ判示第二ノ事實ノ罪證ニ供シタル原判決ハ違法ニシテ破毀セラルヘキモノナリト云フニ在レトモ  
記錄ヲ閱スルニ第一審檢事ハ最初本件被告人三名ニ詐欺ノ共犯關係アルモノト認メ豫審判事ニ對シ右三名ノ強制處分手續ヲ請求シタルモ豫審判事カ其ノ強制處分ヲ了シテ關係書類ヲ檢事ニ送付スルヤ檢事ハ先ツ該被疑者中片岡豊太郎及松尾團次ノ詐欺被告事件ニ付豫審ヲ請求シタルノミニテ福原梓ニ對シテハ未ダ豫審ノ請求ヲ爲ササリシニヨリ豫審判事ハ右片岡豊太郎等ノ豫審事件ニ付取調ノ必要上福原梓ヲ證人トシテ訊問シ所論ノ豫審訊問調書ヲ作成シタルモノニシテ此ノ場合ニ縱令福原梓カ片岡豊太郎等ト共犯ノ嫌疑アルモノナレハトテ之ヲ證人トシテ訊問スルハ法律上毫モ妨ナキ所ナルカ故ニ所論ノ如キ理由ニヨリ右ノ訊問調書ヲ無効ト論定スヘキニアラス從テ該訊問調書ニ記載セラレタル福原梓ノ證言ハ被告人片岡豊太郎ノ犯罪事實ニ關スル證據トシテ採用シ得ヘキハ勿論被告人福原梓自身ノ犯罪ニ付テモ亦罪證ニ供シ得ヘキモノニシテ原審カ之ヲ證據トシテ被告人等ノ所論犯罪事實ヲ斷シタルハ固ヨリ相當ナルヲ以テ論旨ハ理由ナキモノトス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

【要旨】

他人ノ事件ニ付爲シタル證言ノ自己ノ事件ニ對スル證據力

一五七一 (七三)



以上ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事徳江治之助關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件 (昭和十一年(九)第一八三四號  
同年十二月九日第五刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 高桑市藏 辯護人 (万城登)

外一名 伊藤陽介

【第一審】 高崎區裁判所 【第二審】 前橋地方裁判所

○判示事項

投票取纏方ノ依頼ト金錢供與トノ一行爲性

○判決要旨

投票取纏方ノ依頼ト投票報酬並投票買收費ノ供與トカ日時及場所  
ヲ異ニシテ行ハレタル場合ト雖之ヲ一行爲ト觀察スヘキモノトス

【參照】 衆議院議員選舉法第九十六條第一項 議員候補者、選舉事務長又ハ選舉委員ニ

非ザレバ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ演說又ハ推薦狀ニ

依ル選舉運動ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラズ

同法第一百二十二條第一項 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲナシタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ

禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ

金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束

ヲ爲シ又ハ要應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人市藏ヲ罰金百圓ニ被告人丈夫ヲ罰金七十圓  
ニ各處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ一圓ヲ一日ニ換算シタル期間當該被告人ヲ勞役場ニ留  
置ス押收ニ係ル五圓紙幣一枚(高崎區裁判所檢事局昭和十一年押第七一號)ハ被告人丈夫ヨリ沒收ス  
ル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人等ハ昭和十一年二月二十日施行ノ衆議院議員總選舉ニ際シ執レモ群馬縣第二區ノ選舉人ナルトコロ

(一) 被告人市藏ハ同區ヨリ立候補シタル畑桃作ヲシテ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ法定ノ選舉運動者ニ非サルニ拘ラ  
ス同年同月十四、五日頃居村大字上日野字下鹿島ノ路上ニ於テ被告人丈夫ニ對シ同候補者ノ爲投票並其ノ取纏方ヲ  
依頼シ次テ翌日夜肩書居宅ニ於テ丈夫ニ對シ投票報酬並投票買收費トシテ金五圓ヲ供與シ

投票取纏方ノ依頼ト金錢供與トノ一行爲性



(二) 被告人丈夫ハ前示月日場所ニテ被告人市藏ヨリ右依頼ヲ受ケテ之ヲ諾シ其ノ翌日夜市藏ノ居宅ニ於テ前記ノ趣旨ニテ金五圓ノ供與ヲ受ケタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人市藏ノ所爲中無資格選舉運動ノ點ハ衆議院議員選舉法第九十六條第一項第二百二十九條ニ金錢供與ノ點ハ同法第一百二十二條第一項第一號ニ各該當スルトコロ以上ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ一罪トシテ重キ後者ノ刑ニ從フヘク被告人丈夫ノ所爲ハ前示選舉法第一百二十二條第一項第四號ニ該當スルヲ以テ所定刑中夫々罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人市藏ヲ罰金百圓ニ被告人丈夫ヲ罰金七十圓ニ各處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ從ヒ一圓ヲ一日ニ換算シタル期間當該被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク尙主文第三項掲記ノ五圓紙幣ハ本件犯行ニヨリ被告人丈夫カ收受シタルモノナルヲ以テ前示選舉法第一百四條ニ從ヒ之ヲ沒收スヘキモノトス

### ○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

### ○理 由

被告人高桑市藏辯護人万城登上告趣意書第一點原判決ハ擬律錯誤ノ違法アルモノナリ原判決ハ其ノ事實理由ノ部ニ於テ「被告人市藏ハ群馬縣第二區ヨリ立候補シタル畑桃作ヲシテ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ法定ノ選舉運動者ニ非サルニ拘ハラヌ昭和十一年二月十四、五日頃居村大字上日野字下鹿島ノ路

上ニ於テ被告人清水丈夫ニ對シ同候補者ノ爲投票竝其ノ取纏方ヲ依頼シ次テ翌日夜肩書居宅ニ於テ丈夫ニ對シ投票報酬竝投票買收費トシテ金五圓ヲ供與シタルモノナリ」トノ事實ヲ認定シ其ノ法律理由ノ部ニ於テ「被告人市藏ノ所爲中無資格選舉運動ノ點ハ衆議院議員選舉法第九十六條第一項第二百二十九條ニ金錢供與ノ點ハ同法第一百二十二條第一項第一號ニ各該當スルトコロ以上ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ一罪トシテ重キ後者ノ刑ニ從フヘク」ト判示シタリ然レトモ右判示事實中所謂無資格選舉運動ニ該當スヘキ「候補者畑桃作ノ爲投票竝其ノ取纏方ヲ依頼」シタル行爲ト「金錢ノ供與行爲」トハ別異ノ日時場所ニ於テ行ハレタル二個ノ行爲ニシテ一個ノ行爲ニ非サルコト判示自體ニ依リテ明ナリ從ツテ判示事實ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ニ該當セサルコト明白ナリ然ルニ原判決ハ前記ノ如ク之ヲ以テ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナリトシテ刑法第五十四條第一項前段ヲ適用處斷シタルモノナレハ則チ冒頭掲記ノ違法アルモノナリト謂フニ在リ

然レトモ原判決ノ確定セル被告人カ法定ノ選舉運動者ニ非サルニ拘ラス清水丈夫ニ對シ候補者畑桃作ノ爲投票竝其ノ取纏方ヲ依頼シ投票報酬竝投票買收費トシテ金錢ヲ供與シタル事實ハ之ヲ包括的ニ觀察シテ一行爲ヲ形成スルモノト解スルヲ相當トシ右依頼ト供與トカ場所竝日時ヲ異ニシテ行ハレタルハトテ其ノ包括的一行爲性ニ何等消長ヲ來スヘキニアラサルヲ以テ原判決カ右事實ヲ一個ノ行爲ニシ

投票取纏方ノ依頼ト金錢供與トノ一行爲性



テ數個ノ罪名ニ觸ルルモノトシテ擬律セルハ洵ニ相當ニシテ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事平井彦三郎關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件(昭和十一年(九)第一九八七號 棄却)

(昭和十一年(九)第一九八七號 第五刑事部判決)

【上告人】

原審檢事 加藤治之亟

被告人 大根田定四郎

辯護人

新江 阿部 野野 太 野野 芳 太 野野 芳 夫 野野 芳 夫

【第一審】

芳賀區裁判所 【第二審】 宇都宮地方裁判所

○判示事項

第三者ニ對スル推薦狀運動費用ノ前渡ト利益供與

○判決要旨

選舉委員力選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得サルニ拘ラス第三者ニ對シ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ依頼シ其ノ費用ノ前渡ヲ爲ス行爲ハ衆議院議員選舉法第一百一條第一項ニ該當スルモ同法第一百十二條第一項第一號所定ノ利益供與ニ該當セス

【參照】 衆議院議員選舉法第一百十二條第一項 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ要應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ (以下省略)

同法第九十七條 選舉事務長又ハ選舉委員ハ選舉運動ノ爲ニ要スル飲食物、船車馬等ノ供給又ハ旅費、休泊料其ノ他ノ實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得演說又ハ推薦狀ニ依リ選舉運動ヲ爲ス者豫メ議員候補者又ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得テ其ノ運動ヲ爲スニ付亦同シ

同法第一百一條第一項 立候補準備ノ爲ニ要スル費用ヲ除クノ外選舉運動ノ費用ハ選舉事務長ニ非サレハ之ヲ支出スルコトヲ得ス但シ議員候補者又ハ選舉委員ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ妨ケス

第三者ニ對スル推薦狀運動費用ノ前渡ト利益供與



○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人大根田定四郎ヲ禁錮二月ニ處ス訴訟費用ハ全部同被告人ノ負擔トス被告人大關新之進ハ無罪タル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人大根田定四郎ハ昭和十一年二月二十日施行ノ衆議院議員選舉ニ際シ栃木縣第二區ヨリ立候補シタル議員候補者上野基三ノ選舉委員ナリシトコロ同候補者ノ選舉事務長大塚瑞穂ノ文書ニ依ル承諾ナキニ拘ラス同月十一日同縣芳賀郡茂木町昭和館ニ於テ同區選舉人大關新之進ニ對シ同候補者ノ推薦狀差出方ヲ依頼シ其ノ費用ノ前渡ヲ爲ス趣旨ニテ右新之進ノ使者ナル大關正一ニ金二十五圓ヲ交付シ以テ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ナクシテ選舉運動ノ費用ヲ支出シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人大根田定四郎ノ判示所爲ハ衆議院議員選舉法第一百一條第三百三十四條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期限範圍内ニ於ニ同被告人ヲ禁錮二月ニ處スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ同被告人ヲシテ全部之ヲ負擔セシムヘキモノトス

被告人大關新之進ニ對スル公訴事實ノ要旨ハ同被告人ハ昭和十一年二月二十日施行ノ衆議院議員選舉ニ際シ栃木縣第二區ニ於ケル選舉人ニシテ同選舉區ヨリハ議員候補者トシテ上野基三カ立候補シタルモノナルトコロ同月十一日被告人大根田定四郎ヨリ前記候補者ニ對スル投票取纏ノ運動報酬等ヲ含メテ金錢供與ヲ受クヘク大關正一ヲ使者トシテ同縣芳賀郡茂木町大字茂木活動寫眞館昭和館ニ遣ハシ被告人大根田定四郎ニ對シ其ノ要求ヲ爲シ右趣旨ノ報酬等ヲ含メテ金二十五圓ヲ受領セシメ以テ供與ヲ受ケタルモノナリト云フニ在レトモ其ノ證明ナキヲ以テ被告人大關新之進ニ對シテハ刑事訴訟法第三百六十二條ニ則リ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ執レモ之ヲ棄却ス

○理 由

原審檢事加藤治之丞上告趣意書第一、本件公訴事實ハ被告人大根田定四郎ハ昭和十一年二月二十日施行ノ衆議院議員選舉ニ際シ栃木縣第二選舉區ヨリ立候補シタル上野基三ノ選舉委員ニシテ被告人大關新之進ハ居村ニ於ケル同候補者ノ有力ナル應援者ナリシモ同候補者ノ法定ノ選舉運動者ニ非サリシモノナリシトコロ被告人大關新之進ハ被告人大根田定四郎ヨリ同月十一日同候補者ノ演說會場タル栃木縣芳賀郡茂木町昭和館ニ於テ面會シ度旨ノ通告ヲ受クルヤ同人カ同候補者ノ爲投票買收費並投票取纏ノ運動報酬ヲ含メテ金錢ヲ供與スヘキコトヲ察知シ之カ受領ノ爲所定ノ日時場所ニ大關正一ヲ代理人トシテ遣ハシタルニ被告人大根田定四郎ハ同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ右使者ヲ介シ被告人大關新之進ニ對シ投票買收費並投票取纏ノ運動報酬等ヲ含メテ選舉運動費トシテ之カ處分ヲ同人ニ任スル趣旨ニテ金二十五圓ヲ供與シ被告人大關新之進ハ即時右大關正一ヲシテ之ヲ受領セシメ以テ供與ヲ受ケタルモノナリト謂フニ在リシトコロ當裁判所ハ(一)被告人大根田定四郎ニ付同被告人カ同候補者ノ選舉委員トシテ同候補者ノ選舉事務長大塚瑞穂ノ文書ニ依ル承諾ナキニ拘ラス同月十一日芳賀郡茂木町昭和館ニ於テ同區選舉人大關新之進ニ對シ同候補者ノ爲推薦狀差出方ヲ依頼シ其ノ費用ノ前



渡ヲ爲ス趣旨ニテ右新之進ノ使者タル大關正一ニ金二十五圓ヲ交付シ以テ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ナクシテ選舉運動ノ費用ヲ支出シタル旨判示シテ公訴事實ト全然其ノ金圓授與ノ趣旨ヲ相違シテ認定シ之ト同被告人カ右金圓授與ニ付選舉事務長ヨリ文書ニ依ル承諾ヲ得サリシ事實トヲ捉ヘテ衆議院議員選舉法第一百條第一項第三百三十四條ヲ適用シ(二)被告人大關新之進ニ付同被告人カ被告人大根田定四郎ヨリ同候補者ニ對スル投票並投票取纏ノ運動報酬等ヲ含メテ金錢ノ供與ヲ受クヘク大關正一ヲ使者トシテ前示昭和館ニ遣ハシ同人ヲシテ右趣旨ヲ含メテ金二十五圓ヲ受領セシメ以テ供與ヲ受ケタルモノナリトノ前示公訴事實ハ其ノ證明ナシトノ理由ヲ以テ無罪ノ判決ヲ爲シタルハ事實ノ認定ヲ誤リタル不當ノ判決ナリトス其ノ證據トシテ當裁判所ハ被告人大根田定四郎ニ付其ノ第二審公判廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述並檢事ノ第一回聽取書(二月十三日附)中「自分ハ昭和十一年一月二十八日上野候補者ノ選舉委員ト爲リタリ而シテ同年二月十一日茂木町ノ昭和館ニ於テ同候補者ノ演說會カ開カルルコトト爲リタルヲ以テ同年一月二十五、六日頃行ハレタル政友會下野支部ノ銓衡會ニテ知合ト爲リタル大關新之進宛ニ二月十一日茂木町ニテオ會ヒ致シ度イト云フ意味ノ手紙ヲ出シタルカ同日夜自分カ昭和館ニ參リ居ルト一人ノ男カ控室ノ入口ニ來リ大根田サンカ居レハ會ヒ度ヒト申セシ故自分カ其ノ男ノ傍ニ行キ僕ハ大根田タト申スト其ノ男ハ大關カ來ラレナイカラ頼マレテ代理ニ來タト申シ手紙ヲ出シタルヲ以テ夫レヲ取上ケ見タルニ行カレナイカラ代理ヲ寄越スト云フ意味カ書キアリタリ仍テ

自分ハ手紙ヲ元通り封筒ニ入レ更ニズボンノ右ポケットニ入レアリタル錢入ヲ取出シテ二十圓カ二十五圓遣ル積リニテ五圓札四、五枚ヲ取出シ其ノ封筒ニ入レ之ヲ届ケテ貰ヒ度イ推薦狀ヲ出シテ頂ケレハ印刷代トシテ上ケルカ推薦狀ヲ出ス様ニ話シテ貰ヒ度イト申シ渡シタルトコロ其ノ男ハ「ハア」ト答ヘテ其ノ金ヤ手紙ノ這入タル封筒ヲ持チ出テ行キタリ自分ハ右ノ二十圓カ二十五圓ハ大關新之進ニ上野候補者ノ推薦狀ヲ出シテ貰ヒ度イ爲ニ其ノ費用ニ使ヒ貰フ爲ニ與ヘ様ト思ヒ使ノ者ニ託シタルモノ」ナル旨ノ供述記載ヲ援用シタリ乍然右證據採用ハ當裁判所カ被告人等ノ法廷戰術ニ引懸リ被告人等ニ對スル司法警察官ノ取調カ非常識ナリトノ感情ニ專ラ刺戟ヲ受ケタルト該金圓カ被告人大關新之進ノ代理人タル大關正一ノ手ニ渡リタルノミニテ未タ被告人大關新之進本人ニ渡ラサリシトノ同情的見地ニ立チ相當政策的ニ考察シタル爲事件ノ真髓ヲ把握スルコトヲ得ス徒ラニ皮相ノ見解ニ基キ事實ノ認定ヲ爲シタルモノト斷スルニ躊躇セサルト同時ニ當職ハ本件事案ノ真相ヲ公訴事實ノ通りニ事實認定ヲ爲ササルヘカラサルコトヲ強調スルモノナリ即(イ)使者タル大關正一ニ對スル檢事ノ第一回聽取書(二月十三日附)中「二月十一日午後六時頃大關新之進カ私方ニ來テ私ニ向ヒ俺ハ是非ナイ用事アル爲行カレナイカラ正一此ノ手紙ヲ持チ茂木町昭和館ニ行ケハ大根田カ居ル故此ノ手紙ヲ渡シ返事ト何か呉レルモノカアル故貰ツテ來テ貰ヒ度イ若シ人ニ會ツテ聞カレタラ藥買ニ行クト云ヘト云ヒハトロン紙ノ狀袋ニ入ツタ手紙ヲ出シタルニヨリ之ヲ受取り見タルトコロ表ニハ大根田大兄裏ニハ大關



ヨリト鉛筆ニテ書キ封ヲ施シアリタリ自分ハ同日午後六時半頃此ノ手紙ヲ持チ昭和館ニ行キ控室ニ行キ大根田ヲ尋ネタルニ大根田ハ自分カ大根田ト云フ者タト云ヒ自分ヨリ差出シタル手紙ヲ受取り披見シ向フ向キニナリ何カゴソゴソシテ居リタルカ間モナク中腰ニナリ之ハ推薦狀ノ分タト云ヒ自分カ先ニ渡シタ封筒ヲ返シタノテ自分ハ金カ這入ツテ居ルノタト思ヒ之ヲ受取りタリ自分ハ新之進ヨリ頼マレタ時返事カ何カ呉レルモノカアツタラ貫ツテ來イト云ハレテ居ツタノテ其ノ時初メテ金ノ事タト思ヒ金ヲ新之進ノ所ニ届ケテヤラウト思ヒタリトノ旨ノ供述記載(ロ)大關新之進ニ對スル司法警察官聽取書(二月十四日附)中「今回ノ選舉ニ上野候補ノ勢力カ餘リ好カラサリシヲ以テ自分ノ村ノ有志ト相談シテ推薦狀ヲ逆川村ノ有權者ニ配布スヘク考ヘ居リタリ二月十一日午後一時頃演說會ノビラ張ノ人夫ト思ハルル人カ私方ニ參リ上リ端ニ手紙ヲ置イテ大根田ニ面會シテ呉レト云ヒ立去リタリ其ノ手紙ヲ披見シタルニ昭和館テ御目ニ掛リ度ヒ其ノ折幾分カ選舉費用ヲ差上ケルカラ來テ貫ヒ度イト書キアリタリ自分ハ大根田ヨリ來タル手紙ニヨリ其ノ費用ハ此ノ回ノ選舉ニ付票ヲ集ムル費用タト直感シタルヲ以テ若シ金カ來タラ村内ノ同志ニ分ケテヤルコトニ決意シタリ自分ハ他ニ行カネハナラヌ用事アリタル爲遠イ親戚ニ當ル大關正一ヲ呼ビ昭和館テ大根田ニオ目ニ掛リ返事ヲ貫ツテ來ル様依頼シタリ自分カ正一ニ渡シタ封筒ハ大根田宛テ今回都合アリ出頭致シ兼ネル故此ノ者ニ依頼シタルヲ以テ委細ハ御返事一報煩度シト書キタルモノニシテ正一ニ對シテハ今ハ世間カ騒カシイカラ他ノ人ニ出會ツ

タラ藥ヲ買ヒニ茂木町ニ行ク様ニ云ヘ又昭和館ニ行ツタラ大根田ニ會ヒ返事カ何カ呉レル故貫ツテ來イト申シタリトノ旨ノ供述記載(ハ)大關新之進ニ對スル檢事ノ第一回聽取書(二月十四日附)中「二月十一日國安ト云フ者ヨリ手紙參リ又同日午後一時頃人夫カ來テ手紙ヲ持來リ大根田ヨリ來タト云ヒ手紙ヲ差出シタリ其ノ手紙ノ中味ニハ昭和館ニテオ目ニ掛リ度ヒト書キアリタルヲ以テ自分ハ大根田カ上野候補ノ選舉委員ニナリタルコトヲ聞イテ居リ自分ニ面會シ度キ旨云ヒ來レルヲ以テ自分ハ大根田カ幾分カ選舉運動費ヲ自分ニ呉レル爲昭和館ニ來テ呉レト云フ手紙ヲ寄越シタルモノナリト思ヒタリ其ノ手紙ニハ金ヲ呉レルコトモ金額モ書カレ居ラサリシモ其ノ選舉運動費ト云フノハ自分カ一票持チ居リ上野候補ヲ應援シテ呉ルコトハ大根田カ承知シ居レルヲ以テ自分ノ票ノ御禮ヤ自分カ他ノ選舉人ノ票ヲ取纏メル爲ニ御禮トシテ選舉人ニヤル金ヤ其ノ運動ノ御禮ヤ推薦狀ヲ出ス費用ヲ含メテ呉レルモノト思ヒタリ勿論自分トシテハ上野候補ノ形勢カ惡フナレハ惡イコトナレトモ上野ヲ當選サセ度ヒ爲ニ選舉人ニ金ヲ遣リ上野ニ投票ヲ御願スルツモリナリキ大根田ニ對スル手紙ニハ便箋テ鉛筆ヲ以テ小生都合有之代理ヲ以テ申上ケマス委細ハ御一報煩シマスト書キハトロン紙ノ封筒ノ中ニ入レ表ニ大根田大兄裏ニ新之進ト書キタリ正一ニ對シテハ俺ハ用事カアリ行カレヌ故昭和館ニ行キ大根田ニ會ヒ此ノ手紙ヲ渡シテ呉レルハ大根田ヨリ返事カ何カ呉レルモノアラン其ノ時ハ貫ツテ來テ呉レト頼ミ尙途中ニテ人ニ聞カレタラ藥ヲ買ヒニ茂木町迄行クト云ヘト申シタリ勿論自分トシテハ正一カ大



根田ニ會ヘハ大根田ヨリ右申ス様ナ趣旨ノ金ヲ貰ヒ來ルモノト思ヒタリ自分ノ手紙ノ中ニ「委細御一報煩度」ト書キタルハ何か良イ運動方法カアツタラ教ヘテ呉レトノ意味ニテ書キタリ而シテ自分カ上野候補ノ爲推薦狀ヲ出シ度ヒト思フタノハ自分一人ノ考ヘ丈ケニテ大根田ニ全然話シセサリシモノニテ又大根田ヨリ推薦狀ノコトヲ頼マレタルコトモナカリキ大根田ヨリ金カ來レハ其ノ幾分ヲ推薦狀ノ費用ニ使フト思ツタノハ本來自分カ出サネハナラヌ費用ニ大根田ノ方ヨリ來タ金ヲ使フト思フタルカ爲ナリ」トノ旨ノ供述記載(ニ)大根田定四郎ニ對スル檢事ノ第二回聽取書(二月十四日附)中「自分カ大關新之進ノ使者ニ會ヒタルコト間違ナシ自分ハ大關新之進本人カ出向ヒテ來ルト思ヒ居リタルニ代理ヲ寄越シタルニヨリ之ハ大關カ本當ニ上野ノ事ヲ思ヒ熱心ニ働ヒテ呉レル氣持カナイノタト思ヒタルニヨリ之ハ一ツ金テモ遣レハ大イニ働イテ呉レルナラント思ヒ金ヲ遣ル氣ニナリタルモノナリ勿論大關ハ選舉人ナル故一票持チ居リ其ノ御禮ヤ大關カ上野ノ爲投票ヲ取纏メテ呉レル盡力ノ御禮ヤ場合ニヨリテハ他ノ選舉人ニ投票ノ御禮トシテ遣ル金ヤ推薦狀ヲ出スニ付使フ金ト云フ意味ノ金ヲ引クルメテ二十五圓遣ル氣ニナリ自分カ持ツテ居ル金入ヨリ五圓札五枚ヲ取出シ大關ヨリ來タル封筒ノ中ニ入レテ使ノ者ニ渡シタルモノナリ而シテ右様ノ性質ノ金ナルヲ以テ人目モアルコトナレハ之ヲ憚リテ使者ニ對シ推薦狀ノ金ナリト云ヒ渡シタルモノナリ自分ハ大關新之進ニ對シ豫メ推薦狀ヲ出シテ貰フ事ニ付相談シタルコトナシ又大關カ推薦狀ヲ出スニ付何程費用ヲ要スルヤ内譯ヲ漏シテ費用要求

ヲ受ケタルコトナシ假ニ大關カ推薦狀ヲ出ストシテモ如何ナル程度如何ナル方法ヲ以テ出スノカ夫レモ見當付カサリシモノナリ自分トシテハ大關ヲ來ル様ニ呼ヒタルニ拘ラス大關ハ代人ヲ寄越シタルヲ以テ大關カ上野ノ爲ニ眞劍ニ働キ呉レル氣持ナク之ハ駄目タト考ヘタル爲一ツ大イニ働キ貰フ爲右ニ申ス如キ運動報酬ヤ推薦狀ヲ出ス費用等ニ使フテ貰フ氣持ニテ金ヲ出ス様ニナリタルモノナリ金ヲ出スニ付テハ選舉事務長ノ承諾ヲ全然得サリシモノニシテ自分一人ノ考ヘニテ遣リタルコトナリ」トノ旨ノ供述記載(ホ)大關新之進ニ對スル強制處分ノ判事訊問調書(二月十四日附)中「大根田ヨリ手紙ヲ受取り大根田カ自分ニ對シ金ヲ呉レル爲呼ンタ事ヲ直感シタリ其ノ金ハ自分カ推薦狀ヲ出ス費用ヤ上野候補ノ爲ニ投票ヲ取纏メノ御禮ノ費用タト云フ事ハ判リ居リタリ上野候補ノ爲ノ推薦狀ノ事ニ付テハ二月五日頃村内ニテ小幡幸太外一名ト三人テ話ヲシタコトアリシモ大根田ヤ其ノ他ノ者ニ話ヲシタルコトナシ自分ハ大關正一ヲ使トシテ昭和館ニ遣リシカ正一ニ對シ大根田ヨリ返事カ何か呉レルカラ貰フテ來テ呉レト云ヒタリソレハ大根田ヨリ金ヲ渡シタラ金ヲ貰フテ來イト云フ意味ナリキ大根田ハ二、三十圓位呉レルモノト思ヒタリ」トノ旨ノ供述記載(ヘ)大根田定四郎ニ對スル強制處分ノ判事訊問調書(二月十五日附)中「自分ハ一月二十八日上野先生カ立候補届出ヲ爲シ選舉事務長大塚瑞穂カラ依頼ヲ受ケテ選舉委員トナリタリ自分カ二月十一日昭和館ニ行キタルハ大關新之進ニ會フ爲ト茂木ノ形勢ヲ見ル爲ナリシナリ昭和館ニ大關ハ來ス代理ノ者カ手紙ヲ持チ來レルカ文意ハ大關カ都



合カ悪イカラ行ケナイ故代理人ヲ遣ル故委細ヲ宜敷ト云フコトナリキソレ故自分ハ大關カ來テ吳レナイ位ナル故愈々向フノ方ハ望ミカ少ナイト考ヘタリソレ故上野先生ノ形勢ハ當選スルカシナイカノ境目位ナリト考ヘ居リタル際ナレハ之ハ一ツ代理人ニ金ヲモ持タセテ遣レハ新之進モ何トカ運動ヲシテ吳レルナラント考ヘ洋服ノ内ポケットヨリ財布ヲ出シ其ノ内ヨリ五圓紙幣四、五枚位ソウト出シ隣リニ辯士等カ居ル故小サイ聲ニテ推薦狀ノ金タト云ヒ先方ヨリ渡サレタル封筒ノ中ニ入レテ渡シタル處其ノ者ハハイト云ヒ受取り直チニ出テ行ケリ其ノ金ヲ渡シタル趣旨ハ別ニ豫メ推薦狀ヲ出シテ吳レト頼ミタル譯ニアラサリシヲ以テ推薦狀ノ費用ニ當テテ吳レ様ト又投票取纏メノ御禮ニ使フト仕様ト左様ナ運動ノ報酬トシテ新之進カ取ツテ仕舞フト自分ノ方ニテハ一切構ハヌ積リナリキ兎ニ角金ヲ遣ツテ置ケハ其ノ金ヲ以テ上野先生ノ爲ニ働ヒテ吳レルモノト思ヒ渡シタルモノナリ其ノ際自分ハ事務長ヨリ車馬賃其ノ他ノ運動費用トシテ貫ヒ居タル金十圓ト其ノ外ニ銀貨數圓他ニ自分個人ノ金ヲ白紙ニ包ミ金三十五圓ヲ持チ居リ大關ノ代理人ニ渡シタル金ハ白紙ニ包ミシ金ノ内ヨリ出シタルモノナリトノ旨ノ供述記載ニヨリ公訴事實ノ通り被告人大根田ハ上野候補ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ被告人大關新之進ニ對シ投票買收費其ノ他選舉運動費用等含メテ金二十五圓ヲ供與シ被告人大關新之進ハ此ノ趣旨ノ下ニ該金圓ノ供與ヲ受ケタルモノナリト認定シ得ル證憑十分ナリ殊ニ被告人大根田定四郎ニ對スル前示強制處分訊問調書中金二十五圓供與ノ趣旨ニ關シ「自分ハ大關ニ對シ豫メ推薦狀ヲ出シテ

吳レト頼ミタル譯ニアラサリシヲ以テ推薦狀ノ費用ニ充テテ吳レ様ト又投票取纏メノ御禮ニ使フト仕様ト左様ナ運動ノ報酬トシテ新之進カ取ツテ仕舞フト自分ノ方ニテハ一切構ハヌ積リナリキ兎ニ角金ヲ遣ツテ置ケハ其ノ金ヲ以テ何カ上野先生ノ爲ニ働ヒテ吳レルモノト思ヒ渡シタルモノナリ大關ノ使者ニ金ヲ渡ス際推薦狀ノ金ナリト小聲ニテ云ヒタルハ人目アリシ爲之ヲ憚ル爲ナリシモノナリトノ旨ノ供述記載及之ニ相應スル被告人大關新之進ニ對スル強制處分訊問調書中「自分ハ大根田ヨリ手紙ヲ受取ルヤ同人カ自分ニ對シ推薦狀ヲ出ス費用ヤ上野候補ノ爲投票ヲ取纏メノ御禮ノ費用ノ意味ノ金ヲ吳レルト直感シタリ」トノ旨ノ供述記載コソ被告人兩名ノ眞情ヲ吐露シタル正真正銘ノ供述ナリト斷スルニ躊躇セサルモノナリ而シテ當裁判所ノ判決ニ依レハ被告人大根田ノ金二十五圓供與ニ付「推薦狀費用ノ前渡ヲ爲ス趣旨」云々ト判示シタルカ之ハ推薦狀費用ノ概算渡シヲ意味スルモノト思料セラルルモ凡ソ推薦狀運動ノ實費（推薦狀ノ印刷費並發送ニ要スル郵税）ノ前渡即概算渡トハ選舉法カ要求スル承諾簿ニ記載スルコトヲ要スル用途ノ大要ヲ指定スルヲ要スルモノニシテ從テ其ノ用途ノ大要ヲ指定セス單ニ一定額ヲ推薦狀費用ナリト稱シテ交付シタルノミニテハ未タ以テ推薦狀費用ノ前渡又ハ概算渡ト謂フヲ得サルモノト思料ス（昭和二年八月二十二日附刑事第九一五五號刑事局長通牒參照）第二、當裁判所ノ判決ニ依ル被告人大根田定四郎ノ判示事實ニ對シテハ衆議院議員選舉法第百十條第一項第一號ヲ適用スヘキモノニシテ同法第百一條第一項ヲ適用シタルハ不當ニ法律ヲ適用シタ



ル違法アリ從テ被告人大關新之進ニ對シテハ同法第一百十二條第一項第四號ヲ適用スヘキモノトス同法第一百一條第一項ニ謂フトコロノ選舉運動費用ノ「支出」トハ現實ニ其ノ要シタル費用ノ支拂ヲ爲ス事即推薦狀ヲ發シタル場合ニ之カ現實ノ支拂ヲ爲シ演說會ヲ開キタル場合ニ之ニ要シタル費用ノ支拂ヲ爲シ或ハ選舉事務所ニ於テ要シタル米味噌等ノ物品買受代金勞務者雇傭ニ對スル勞務ノ對價等實際ノ支拂義務ヲ履行スル事ヲ意味シ費用ノ前渡若ハ概算渡シ等未タ支拂ノ要否未定ノ寄託關係ヲ意味セサルノミナラス帳簿ノ記載並精算書等ノ關係ヨリ看ルモ寄託關係ヲ含ムモノニ非サルコト該法文ノ解釋上疑ヲ容レサル處ナリトス(同趣旨昭和二年七月十一日附刑事第四八一五號刑事局長通牒反對昭和五年(れ)第六〇六號同年六月三日判例昭和六年(れ)第一二三七號同年十二月十四日判例)而シテ當裁判所ノ判決シタル前示第一記載ノ判示事實ニ依レハ被告人大根田定四郎カ被告人大關新之進ノ代理人タル大關正一ニ交付シタル金圓ハ實際現實ニ要シタル選舉運動費用ノ支出ニアラスシテ後日要スル事アルヘキ推薦狀ノ印刷費並發送ニ要スル郵税等ノ實費ノ支拂寄託ナリシ事明瞭ナル事實ナリトス然ルニ當裁判所カ其ノ事實ニ對シ衆議院議員選舉法第一百一條第一項ニ謂フトコロノ選舉運動費用ノ支出ナリト判斷シタルハ事實認定ニ對スル法律ノ適用ヲ誤リタルモノニシテ全ク同法第九十七條後段ノ條文ヲ閑却シタルモノト謂ハサルヘカラス同法第九十七條後段ハ演說又ハ推薦狀ニ依リ選舉運動ヲ爲ス所謂第三者ハ豫メ議員候補者又ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得ルニ非サレハ其ノ實費辨償ヲ受クル

事ヲ得サル事ヲ正面ノ規定ト爲シ居レルヲ以テ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲シタル所謂第三者カ事前ニ議員候補者又ハ選舉事務長ト實費辨償ニ付意思ヲ通セサル時ハ勿論假令意思ヲ通シタル場合ト謂ヘトモ豫メ文書ニ依ル承諾ヲ得ルニ非サレハ議員候補者又ハ選舉事務長ヨリ其ノ實費ノ辨償ヲ受クル事ヲ得サルヘク苟クモ衆議院議員選舉法ノ建前上辨償ヲ受クル事ヲ得サル事實(選舉運動費用)ナルモノ存在スヘキ理由ナキヲ以テ斯ノ如キ實費ハ豫メ文書ニ依ル承諾ヲ得サル實事ヲ以テ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動費用ナル合法性ヲ失フト同時ニ非合法性ヲ帶フヘク所謂第三者カ斯ノ如ク非合法ノ實費ノ辨償ヲ受ケタル行爲ハ利益受供與ノ違反トナリ選舉法第一百十二條第一項第四號ニ該當スヘク當然之ニ加工シタル議員候補者又ハ選舉事務長ノ斯ノ如キ非合法ノ實費ヲ辨償シタル行爲ハ利益供與ノ違反トシテ同條第一項第一號ニ該當スルモノトス(昭和十年十一月十二日附刑事第一四七四二號刑事局長通牒參照)右理論ハ採ツテ以テ前示判決ノ判示事實ニ適合セシムル事ヲ得ヘク單ニ選舉人ニ過キサル被告人大關新之進カ其ノ代理人ノ手ヲ經テ受取リタル金二十五圓ハ豫メ議員候補者又ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ受ケサリシモノナルヲ以テ全然辨償ヲ受ケ得サル非合法ノ金圓ニシテ斯ノ如キ非合法ノ金圓ヲ受ケ取リタル同人ノ所爲ハ利益受供與ノ違反トナリ選舉法第一百十二條第一項第四號ニ該當スル犯罪トナルヘク又選舉委員タル被告人大根田定四郎カ被告人大關新之進ニ供與スル目的ヲ以テ其ノ代理人タル大關正一ニ交付シタル金二十五圓ハ被告人大根田自身ノ所有ニ係ル金圓ニシテ

第三者ニ對スル推薦狀運動費用ノ前渡ト利益供與



之ヲ交付スルニ際シ豫メ議員候補者又ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ受ケサリシモノナルヲ以テ之亦當然ノ辨償ヲ受クル事ヲ得サル非合法ノ金圓ニシテ斯ノ如キ非合法ノ金圓ヲ交付シタル同人ノ所爲ハ利益供與ノ違反トナリ選舉法第百十二條第一項第一號ニ該當スル犯罪ヲ構成ス元來推薦狀ノ實費即印刷費並之カ發送スル郵税ニ付キテハ推薦名義人ニ於テ負擔スヘキヲ原則トシ居レルモノナレハ推薦名義人カ自ラ負擔スヘキ實費ニ豫メ議員候補者又ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得シテ他人タル選舉委員カ推薦名義人ニ其ノ實費ヲ與ヘ又推薦名義人カ之ヲ受クル事ハ法第百十二條第一項ノ利益供與及受供與ノ行爲ニ該當スル事當然ナリトス以上ノ理由ナルヲ以テ當裁判所カ(一)被告人大根田定四郎ノ金圓授受ノ趣旨ヲ推薦狀費用ノ前渡ト認定シタル點並被告人大關新之進カ被告人大根田定四郎ヨリ投票買收費並投票取纏メノ運動費ヲ含メテ選舉運動費トシテ金圓ノ供與ヲ受ケタリトノ公訴事實ニ對シ其ノ犯罪ノ證明ナシト認定シ無罪ノ言渡ヲ爲シタル點ハ何レモ重大ナル事實ノ誤認アル事ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アル判決ナリト思料シ(二)被告人大根田定四郎カ豫メ議員候補者又ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得シテ推薦狀費用ノ前渡ノ趣旨ニテ被告人大關新之進ノ代理人タル大關正一ニ金圓ヲ交付シタリトノ事實認定ニ對シ衆議院議員選舉法第百一條第一項第百三十四條ヲ適用シ同法第百十二條第一項第一號ヲ適用セサリシ點ハ法律ノ解釋ヲ誤リタル法令違反ノ判決ナリト思料候條破毀ノ上更ニ相當判決相成ルヘキモノナリト思料候也ト謂フニ在リ

## 【要旨】

仍テ按スルニ被告人定四郎ニ對スル原判示事實ハ原判決舉示ノ證據ヲ綜合シテ優ニ之ヲ證明スルニ足リ記録ニ徵スルモ右事實ニ重大ナル誤認アルコトヲ疑フヘキ顯著ナル事由アルコトナク而シテ衆議院議員選舉法第百一條ニ所謂支出ハ所論ノ如ク獨リ現實ニ要シタル費用ノ支拂ノミニ限ラス原判示ノ如ク推薦狀發布ニ要スル費用ノ前渡ヲ爲ス趣旨ニ於テ金員ヲ交付スルカ如キ行爲ヲモ包含スルモノト解スヘキカ故ニ原審カ被告人定四郎ノ判示行爲ニ對シ判示法條ヲ適用シタルハ正當ナリ論旨ハ同法第九十七條後段ヲ援用シテ論議スルトコロアレトモ同條後段ハ演說又ハ推薦狀ニ依リ選舉運動ヲ爲ス第三者ハ豫メ議員候補者又ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得ルニ非サレハ後日其ノ運動ニ付事實上費用タル旅費休泊料其ノ他ノ實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得サル旨ノ規定ナルトコロ本件金二十五圓ハ被告人定四郎カ實費ノ辨償トシテ被告人新之進ニ交付シタルモノニ非サルト共ニ被告人新之進モ亦其ノ費消シタル實費ノ辨償トシテ右金員ノ交付ヲ受ケタルモノニ非ス被告人定四郎ハ被告人新之進カ將來爲スヘキ推薦狀發布ノ費用トシテ之カ前渡ヲ爲シ被告人新之進ハ同様ノ趣旨ニ於テ其ノ交付ヲ受ケタルモノニ過キサカ故ニ固ヨリ同條ノ適用ヲ受クヘキ限ニ在ラス然リ而シテ議員候補者選舉事務長又ハ選舉委員ハ法令ノ定ムルトコロニ從ヒ演說又ハ推薦狀ニ依リ選舉運動ヲ爲ス第三者ニ對シ其ノ費用ヲ支出シ得ヘキコト勿論ナルヲ以テ本件ニ於テ選舉委員タル被告人定四郎ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得ル限リ判示趣旨ノ下ニ判示金員ヲ適法ニ支出シ得ルモノナルニ拘ラス判示ノ如ク之カ承諾ヲ得



サリシモノナレハ同行爲カ衆議院議員選舉法第一條第一項ニ違背スルコト言フ俟タサルノミナラス  
 被告人定四郎カ候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ被告人新之進ニ對シ利益ヲ取得セシムル意思ノ下  
 ニ右金員ヲ交付シ被告人新之進亦右事情ヲ諒シテ之ヲ交付ヲ受ケタル事實ノ如キハ固ヨリ原判決ノ認  
 ムルトコロニ非サルヲ以テ同法第百十二條違反ノ罪ヲ以テ臨マントスル所論ハ當ラス尙記録ヲ精査ス  
 ルモ被告人大關新之進ニ對スル原判決ノ認定ニハ重大ナル誤謬アルコトヲ疑フヘキ顯著ナル事由アル  
 ヲ認メ得サルヲ以テ要スルニ原判決ニハ所論ノ如キ違法存スルコトナク論旨總テ理由ナシ(其ノ他ノ  
 上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事武松久吉關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件 (昭和十一年(九)第二六五二號 同年十二月九日第五刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 豊田 京治 辯護人 (上村 潤五郎 外二名)  
 【第一審】 長岡區裁判所 【第二審】 新潟地方裁判所

○判示事項

犯罪謀議ノ場所ト犯罪地

○判決要旨

被告人兩名カ甲地ニ於テ金錢供與罪ノ謀議ヲ爲シ乙地ニ於テ他ノ  
 被告人カ右金錢ノ供與ヲ受ケタル場合ニ於テハ該被告人ニ對シ甲  
 地モ亦犯罪地ナリ

犯罪謀議ノ場所ト犯罪地



- 【參照】 刑事訴訟法第八條第一項 數個ノ事件ハ左ノ場合ニ於テ牽連スルモノトス
- 一 一人數罪ヲ犯シタルトキ
  - 二 數人共ニ同一又ハ別個ノ罪ヲ犯シタルトキ
  - 三 數人通謀シテ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ
  - 四 數人同時ニ同一ノ場所ニ於テ各別ニ罪ヲ犯シタルトキ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人京治同正樹ヲ各懲役二月ニ被告人増廣ヲ罰金百圓ニ處ス被告人増廣カ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間同被告人ヲ勞役場ニ留置ス被告人京治同正樹ニ對シ第一審ニ於ケル未決勾留日數中十五日宛ヲ右各懲役刑ニ算入ス被告人増廣ヨリ金十六圓ヲ追徴スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人京治同正樹ハ新潟縣南魚沼郡政友俱樂部ノ最高幹部被告人増廣ハ其ノ會員ニシテ被告人京治同増廣ハ昭和十一年二月二十日施行ノ衆議院議員選舉ニ際シ新潟縣第三區ヨリ立候補シタル加藤知正ノ選舉委員被告人正樹ハ其ノ非法定選舉運動者トシテ何レモ前記加藤候補者ノ爲選舉運動ニ從事シタルモノナルトコロ

第一 被告人京治同正樹ハ同年二月五日長岡市城内町榭屋旅館ニ於テ被告人増廣ヲ右加藤候補者ノ選舉委員タラシメ同人ニ對シ一日金二圓位ノ運動報酬ヲ供與スヘキコトヲ謀議シ被告人京治ハ右謀議ニ基キ同月十四日頃前記加藤候補者ノ選舉事務所ナル新潟縣南魚沼郡六日町ノ自己ノ居宅ニ於テ被告人増廣ニ對シ同人カ前記候補者ノ爲選舉委員トシテ選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬トシテ金十六圓ヲ供與シ

第二 被告人増廣ハ前記年月日頃前記場所ニ於テ被告人京治ヨリ自己カ加藤候補者ノ爲選舉委員トシテ選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬タルノ情ヲ諒シテ金十六圓ノ供與ヲ受ケタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人京治同正樹ノ判示所爲ハ衆議院議員選舉法第十二條第一項第三號刑法第六十條ニ被告人増廣ノ判示所爲ハ衆議院議員選舉法第十二條第一項第四號ニ各該當スルヲ以テ其ノ所定刑中被告人京治同正樹ニ付テハ懲役刑ヲ選擇シ被告人増廣ニ付テハ罰金刑ヲ選擇シ其ノ刑期並罰金額ノ範圍内ニ於テ被告人京治同正樹ヲ各懲役二月ニ被告人増廣ヲ罰金百圓ニ各處シ被告人増廣カ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ從ヒ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間同被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク被告人京治同正樹ニ對シ刑法第二十一條ニ則リ原審ニ於ケル未決勾留日數中十五日宛ヲ右懲役刑ニ算入スヘク猶被告人増廣カ收受シタル判示利益ハ全部沒收スルコト能ハサルヲ以テ衆議院議員選舉法第十四條ニ則リ同被告人ヨリ其ノ價額十六圓ヲ追徴スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人上村閔五郎上告趣意書第二點原審裁判所ハ其ノ管轄ニ屬スル事件ナレトモ第一審(長岡區裁判所)カ不法ニ其ノ管轄ヲ認メ受理シタル疑アリト信ス即本件被告人等三名ハ何レモ新潟縣南魚沼郡ニ住所ヲ有スルコトハ記録上明白ナリ又新潟縣南魚沼郡ヲ管轄スル區裁判所カ六日町區裁判所ニシテ長岡區裁判所ニアラサルコトハ法令ノ規定スルトコロニシテ敢テ立證ヲ要セス刑事訴訟法第一



條ノ土地管轄ノ規定ニ「被告人ノ現在地」トアリ如何ナル事由ヲ不問檢事カ公訴提起當時被告人等ノ現在スル土地ヲ管轄スル地ノ裁判所カ土地管轄ヲ有スルカ如キ疑アルモ然ラスト信ス即斯ル場合ハ被告ノ任意ニ出テタル現在地ニ限定セサルヘカラス本件ノ場合ノ如ク檢事ノ強制處分請求ニ依リ豫審判事カ勾留處分ヲ爲シ強制的ニ勾留(未決監)シタル場合ノ現在地ハ刑事訴訟法第一條ノ現在ニ包含セサルモノト解セサルヘカラス本件被告人等ハ豫審判事ノ勾留處分ニ依リ長岡市ニ在ル新潟刑務所長岡支所ニ收容セラレ昭和十一年四月五日ノ本件公訴提起當時長岡市ニ現在シタルモ被告人等ノ任意ノ現在ニアラサル故第一審ノ土地管轄ハ六日町區裁判所ナリ然ルニ長岡區裁判所ニ於テ漫然土地管轄ヲ認メタルハ刑事訴訟法第一條ニ違反スルモノト信スル故ニ原審ハ破毀ヲ免カレサルモノト思料スト謂フニ在リ

【要旨】

然レトモ原判決ノ確定セルトコロニ依レハ被告人豊田京治及同青木正樹ハ新潟縣長岡市城内町榭屋旅館ニ於テ本件金錢供與罪ノ謀議ヲナシ同縣南魚沼郡六日町ノ被告人京治方ニ於テ被告人南雲増廣ニ右金錢ヲ供與シ同被告人ハ同所ニ於テ之ヲ受ケタルモノナルトコロ右金錢供與者ト之ヲ受ケタル者トハ相互ニ協力ヲ要スル必要の共犯ノ關係ニアルヲ以テ長岡市モ亦被告人等三名ニ依リ牽連シテ行ハレタル本件犯罪ノ犯罪地ナリト謂フヘク第一審裁判所タル長岡區裁判所ハ當然本件ニ付土地管轄ヲ有スルモノナルノミナラス被告人カ第一審公廷ニ於テ土地管轄違ノ申立ヲ爲ササリシコトハ記録ニ徴シ明白

ナルヲ以テ假令所論ノ如ク本件カ長岡區裁判所ノ土地管轄ニ屬セストスルモ同裁判所ハ管轄違ノ言渡ヲ爲スヲ得サリシモノナルヲ以テ原判決ニハ所論ノ如キ違法存スルコトナク論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
 檢事武松久吉關與

○有價證券偽造行使詐欺被告事件 (昭和十一年(九)第二二五七號 棄却)  
(同年十二月十一日第四刑事部判決)

【上告人】 被告人 會田政次郎 辯護人 (根本仙三郎 太田金次郎)

【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京刑事地方裁判所

○判示事項

連續犯ノ一部ト牽連性ヲ有スル行爲

連續犯ノ一部ト牽連性ヲ有スル行爲



○判決要旨

一定ノ行爲力連續犯ヲ構成スル一部ノ行爲ト牽連關係ヲ有スルトキハ右連續犯ヲ構成スル全部ニ對シ同關係ヲ有スルモノトシテ擬律スヘキモノトス

【参照】 刑法第五十四條第一項 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸レルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス  
同法第五十五條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸レルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役八月ニ處ス但第二審ニ於ケル未決勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和四年頃ヨリ玩具製造業ヲ營ミ來リタルカ昭和九年暮頃ヨリ漸次營業不振トナリ材料問屋方面ニ數千圓ノ借財ヲ生シ之カ辨濟ニ窮シタル結果

第一 約束手形ヲ偽造行使シ以テ他人ヨリ金圓ヲ騙取センコトヲ企テ執レモ行使ノ目的ヲ以テ豫テ買求メ置キタル約束手形用紙ニゴム印等ヲ使用シテ

(一) 昭和十年八月九日東京市江戶川區小松川二丁目三十二番地被告人自宅ニ於テ金額千二百七十圓支拂場所株式會社安田銀行馬喰町支店振出地支拂地各東京市其ノ他ノ要件ヲ記入シ振出人淺草區藏前一丁目六番地齊藤玉次ト

冒書シ同人名下ニ豫テ作成セシメ置キタル齋藤ト刻セル認印ヲ冒捺シ以テ齊藤玉次振出名義ノ約束手形一通ヲ偽造シ之ヲ即日同市神田區豐島町二番地銅鐵商矢口秀方ニ於テ恰モ真正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒ同人ニ手交行使シテ之カ割引方ヲ依頼シ同人ヲシテ眞實該手形上ノ權利ヲ取得シ得ルモノト誤信セシメ因テ同人ヲシテ即時同所ニ於テ手形割引名義ノ下ニ現金千四百九十九圓十二錢ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

(二) 同月十六日前記被告人自宅ニ於テ金額千圓支拂場所其ノ他前同様ノ齊藤玉次振出名義ノ約束手形一通(昭和十一年押第五八三號ノ一ノ一)ヲ偽造シ之ヲ即日前記矢口秀方ニ於テ同人ニ前同様手交行使シ前同様矢口ヲ欺罔シ因テ同人ヲシテ割引名義ノ下ニ現金九百八十二圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

(三) 同年九月六日前記被告人自宅ニ於テ金額七百八十圓支拂場所其ノ他前同様ノ齊藤玉次振出名義ノ約束手形一通(同押號ノ一ノ二)ヲ偽造シ之ヲ即日前同様矢口秀方ニ於テ同人ニ提出行使シ前同様同人ヲ欺罔シ割引名義ノ下ニ現金五百九十三圓九十錢ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

(四) 同年十月七日前記被告人自宅ニ於テ金額百圓支拂場所其ノ他前同様ノ齊藤玉次振出名義ノ約束手形一通(同押號ノ四)ヲ偽造シ之ヲ其ノ頃同市江戶川區平井町一丁目九百七十五番地挽物職吉田市太郎方ニ於テ同人ニ前同様手交行使シ同人ヨリ豫テ負擔セル營業上債務ノ辨濟ニ充テラレ度シト申向ケ同人ヲシテ眞正ニ成立セル手形ト誤信セシメテ同人ニ對スル債務金百圓ノ辨濟ニ代ヘ以テ財産上不法ノ利益ヲ得

(五) 同月十七日頃前記被告人自宅ニ於テ金額千四百圓支拂地振出地前同様支拂場所株式會社川崎第百銀行淺草橋通支店其ノ他ノ要件ヲ記入シ振出人淺草區淺草橋三丁目五番地合名會社關谷商店代表社員關谷元次郎ト冒書シ同人名下ニ豫テ作成セシメ置キタル關谷ト刻セル認印ヲ冒捺シ以テ關谷元次郎振出名義ノ約束手形一通(同押號ノ一ノ三)ヲ偽造シ之ヲ即日前記矢口秀方ニ於テ同人ニ提出行使シ前記(一)記載ト同様同人ヲ欺罔シ同人ヲシテ

連續犯ノ一部ト牽連性ヲ有スル行爲



割引名義ノ下ニ現金千二百四圓二十四錢ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

(六) 同年十一月三日前記被告人自宅ニ於テ金額千三百圓支拂地振出地前同様支拂場所株式會社安田銀行馬喰町支店其ノ他ノ要件ヲ記入シ振出人齊藤玉次ト冒書シ同人名下ニ豫テ作成セシメ置キタル前記齊藤ト刻セル認印ヲ冒捺シ以テ同人振出名義ノ約束手形一通(同押號ノ一ノ四)ヲ偽造シ之ヲ即日前同様矢口秀方ニ於テ同人ニ提出行使シ前同様同人ヲ欺罔シ割引名義ノ下ニ現金千八百八十二圓六錢ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

(七) 同月六日前記被告人自宅ニ於テ金額六百三十圓支拂場所住友銀行人形町支店其ノ他ノ要件ヲ記入シ振出人神田區岩本町九番地風間忠治ト冒書シ同人名下ニ豫テ作成セシメ置キタル風間ト刻セル認印ヲ冒捺シ以テ風間忠治振出名義ノ約束手形一通ヲ偽造シ之ヲ即日前同様矢口秀方ニ於テ同人ニ提出行使シ前同様同人ヲ欺罔シ割引名義ノ下ニ現金六百二十三圓七十五錢ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第二 其ノ得意先ナル同市四谷區鹽町三丁目二十番地玩具卸輸出商合名會社浪花花本店ヨリ金圓ヲ騙取センコトヲ企テ同年十月九日頃ヨリ昭和十一年一月七日頃迄ノ間前後數十回ニ互リ玩具投下爆彈外約八種合計五十二萬九千餘個ヲ右浪花花本店ニ賣却納品シタルニ過キサリニ拘ラス恰モ九十五萬三千餘個ヲ賣却納品シタルカ如ク虚偽ノ納入傳票ヲ作成シ之ヲ其ノ頃前記浪花花本店ニ於テ代表社員浪花鐵雄ニ提示シテ其ノ代金ヲ請求シ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ同人ヲシテ賣買代金名義ノ下ニ數十回ニ右差額ニ相當スル合計金千六十四圓餘ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シタルモノニシテ以上有價證券偽造偽造有價證券行使詐欺ノ各所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中有價證券偽造ノ點ハ刑法第六十二條第一項第五十五條ニ偽造有價證券行使ノ點ハ同法第六十三條第一項第五十五條ニ詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第五十五條ニ各該當スルトコロ以上ハ順次手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ最モ重キ偽造有價證券行使罪ノ刑ニ從ヒ其ノ刑期範圍

内ニ於テ被告人ヲ懲役八月ニ處スヘキモノトシ尙同法第二十一條ニ則リ當審ニ於ケル未決勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人根本仙三郎上告趣意書第一點原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルカ又ハ擬律錯誤ノ不法アルモノトス原判決ハ本件第二ノ事實ノ「其ノ得意先ナル四谷區鹽町三丁目二十番地玩具卸輸出商合名會社浪花花本店ヨリ金圓ヲ騙取センコトヲ企テ同年十月九日頃ヨリ昭和十一年一月七日頃迄ノ間ニ前後數十回ニ互リ玩具投下爆彈外約八種合計五十二萬九千餘個ヲ右浪花花本店ニ賣却納品シタルニ過キサリニ拘ハラス恰モ九十五萬三千餘個ヲ賣却納品シタルカ如ク虚偽ノ納入傳票ヲ作成シ之ヲ其ノ頃前記浪花花本店ニ於テ代表社員浪花鐵雄ニ提示シテ其ノ代金ヲ請求シ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ賣買代金名義ノ下ニ數十回ニ右差額ニ相當スル合計金千六十四圓餘ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ」ト判定シ次テ第一第二ノ事實ヲ總括シ「タルモノニシテ以上有價證券偽造偽造有價證券行使詐欺ノ各所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノナリ」ト認定シ右第二ノ事實ヲモ有價證券偽造偽造有價證券行使詐欺ノ犯罪事實ト認定シタリ從テ其ノ法律ノ適用ニ於テモ「法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中有價證券偽造ノ點ハ刑法第百

連續犯ノ一部ト牽連性ヲ有スル行爲



六十二條第一項第五十五條ニ偽造有價證券行使ノ點ハ同法第六十三條條一項第五十五條ニ詐欺ノ點  
 ハ同法第二百四十六條第五十五條ニ各該當スルトコロ以上ハ順次手段結果ノ關係ニアルヲ以テ同法第  
 五十四條第一項後段第十條ニ則リ……被告人ヲ懲役八月ニ處スヘキモノトシ」ト掲記シ第二ノ事實ニ  
 對スル詐欺モ有價證券偽造偽造有價證券行使ト手段結果ノ關係ニアルモノト爲シタリ然レトモ第二ノ  
 事實ニ對シテハ有價證券偽造偽造有價證券行使ノ事實ナシ即被告人カ作成セル納入傳票ハ被告人カ得  
 意先ニ物品ヲ納入シタルコトヲ證スル文書ニシテ何等其ノ傳票自體ニ於テ權利ヲ表明スル證券ニ非ス  
 有價證券ハ刑法第六十二條第一項ニ規定スル如ク公債證書官府ノ證券會社ノ株券其ノ他有價證券ヲ  
 指稱スルモノニシテ前述ノ納入傳票ハ之ニ該當セサルコト明カナルヲ以テ被告人カ右納入傳票ニ虛偽  
 ノ記入ヲ爲シ之ヲ偽造スルモ有價證券ノ偽造ニ非ス又之ヲ提出スルモ偽造有價證券行使ニ非ス從テ刑  
 法第六十二條ノ犯罪タル事實ニ非ス左レハ原判決カ之ヲ有價證券偽造偽造有價證券行使ノ所爲アリ  
 トシタルハ全ク事實ヲ誤認シタルモノト云フ可ク又右虛偽ノ納入傳票ノ行使ノ結果金圓ヲ騙取シタル  
 行爲ニ付キ右騙取ノ犯罪タル詐欺ト有價證券偽造偽造有價證券行使ト順次手段結果ナル關係アリト認  
 定シタル事實モ亦單純ナル詐欺ナルノ性質上全ク事實ヲ誤認シタルモノニシテ右ハ重大ナル事實ヲ誤  
 認シタルモノニ係リ之ニ對シ刑法第六十二條第六十三條及手段結果ノ關係アリトシテ刑法第五十  
 四條第一項後段ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ不法アルモノニシテ原判決ハ破毀ヲ免レサルモノトスト云

ヒ」同第二點原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルカ又ハ擬律ノ錯誤アルモノトス本件第二ノ判示事實ハ  
 第一點ニ説明セルカ如ク虛偽ノ納入傳票ノ作成ハ有價證券ノ偽造事實ニ非サルヲ以テ單純ナル詐欺罪  
 ヲ成立ス可ク第二ノ事實ハ全ク有價證券偽造及偽造有價證券行使ト關係ナキモ第一ノ事實ハ有價證券  
 偽造及偽造有價證券行使ノ事實ナルヲ以テ之レト牽連關係ノ存否ヲ考査スルニ其ノ時期ニ於テハ多少  
 關係アルカ如クモ其ノ行爲ハ全ク獨立シテ何等ノ關係ナキモノトス從テ第一事實ト第二事實トノ關係  
 ニ於テモ又手段結果ノ關係ヲ認ムルヲ得ス從テ法律ノ適用ニ付テハ之ヲ併合罪トシテ刑法第四十七條  
 ヲ適用ス可キモノトス然ルニ法律ノ適用ニ於テ「詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第五十五條ニ該當ス  
 ルトコロ以上ハ順次手段結果ノ關係アルヲ以テト認定シ之ニ刑法第五十四條第一項後段ヲ適用シ」ト  
 掲記シタルハ手段結果ノ關係アリト事實ヲ誤認シタルモノニシテ重大ナル事實ノ誤認タル可ク又適用  
 ス可カラサル刑法第五十四條第一項ヲ適用シタルモノニシテ擬律錯誤ノ不法アリテ原判決ハ破毀ヲ免  
 レサルモノトスト云フニ在レトモ

原判決ハ所論傳票ノ作成行使ヲ判示第二ノ詐欺ノ方法トシテ判示シタルニ止リ之ヲ以テ有價證券ノ偽  
 造行使ト認メタル趣旨ニ非サルコトハ判文上明白ナリトス然レトモ一定ノ行爲カ連續犯ヲ構成スル一  
 ノ行爲ト牽連關係ヲ有スルトキハ右連續犯ヲ構成スル他ノ行爲ニ對シテモ牽連性ヲ有スルコトハ當院  
 判例ノ示ストコロナリ原判示ニ依レハ第一ノ詐欺ト第二ノ詐欺トハ連續一罪ヲ構成スルモノニシテ而

## 【要旨】



シテ右事實ハ原判決ノ舉示スル證據ニ依リ優ニ之ヲ證明シ得ルカ故ニ右第一ノ詐欺ト牽連關係ヲ有スル所論有價證券ノ偽造行使ハ第二ノ詐欺トモ同關係ヲ有スルコトハ敍上説明ノ如クナルヲ以テ原判決カ判示事實ニ付所論ノ如ク法律ノ適用ヲ爲シタルハ洵ニ正當ニシテ所論ノ如キ違法アルコトナシ論旨孰レモ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事佐々波與佐次郎關與

### ○關稅法違反同幫助外國爲替管理法違反幫助被告事件

(昭和十一年(九)第二二二〇號  
同年十二月十四日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 近藤 三彌 辯護人

外三名

安藤 眞一  
黑田 敬夫  
中村 俊夫  
早島 武夫  
稻田 逸郎

【第一審】 神戸區裁判所 【第二審】 神戸地方裁判所

#### ○判示事項

關稅法第七十五條但書ニ所謂原價ノ意義

#### ○判決要旨

關稅法第七十五條但書ニ所謂原價トハ輸入港ニ於ケル到着價格ヲ指稱スルモノトス

【參照】 關稅法第七十五條 關稅ノ違脫ヲ圖リ又ハ關稅ヲ違脫シタル者ハ其ノ違脫ヲ圖リ又ハ違脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ犯罪ニ係ル貨物ヲ沒收ス但シ犯罪ニ係ル貨物カ關稅定率法別表輸入稅表第四百十二號第二項ニ掲ケル貴石ナルトキハ罰金又ハ科料ハ其ノ原價ノ三倍ニ相當スル金額トス  
關稅定率法第二條 從價稅品ハ輸入ノ際ニ於ケル到着價格ニ依リテ課稅ス

#### ○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人近藤三彌ヲ罰金二萬四千九百九十二圓ニ處ス被告人重田俊策ヲ懲役五月及罰金六萬四千三百八圓九十錢ニ處ス被告人河田清二ヲ罰金二十萬一千七百七十七圓ニ處ス被告人田中正喜ヲ關稅違脫ノ罪ニ付罰金十八萬八千九百九十三圓九十錢ニ金地金密輸出幫助ノ罪ニ付罰金五十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人近藤三彌ヲ六十日間被告人重田俊策ヲ百五十日間被告人河田清二ヲ三百六十五日間被告人田中正喜ヲ關稅違脫ノ罪ニ付三百四

關稅法第七十五條但書ニ所謂原價ノ意義



十日間金地金密輸出幫助ノ罪ニ付一日間夫々勞役場ニ留置ス被告人近藤三彌ヨリ金八千六百二十八圓五十錢ヲ被告人重田俊策ヨリ金二萬三千八十四圓ヲ被告人河田清二ヨリ金七萬一千七百五十三圓二十錢ヲ被告人田中正喜ヨリ金六萬七千二百二十二圓ヲ追徴スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人近藤三彌ハ大連市ニ於テ一般貿易及金地金賣買等ヲ業トセル合名會社三清洋行ノ代表者被告人河田清二ハ其ノ支配人タリシモノ被告人重田俊策ハ同市ニ於テラヂオ蓄音機商ヲ被告人大村一郎ハ神戸市ニ於テ油脂商ヲ被告人田中正喜ハ同市ニ於テ貴金屬寶石商ヲ各營ミ被告人肥田常五郎ハ大阪商船株式會社大連航路汽船香港丸及扶桑丸ニ被告人中川彦四郎ハ同扶桑丸及ばいかる丸ニ各給仕トシテ乘組ミ居リタルモノナルトコロ

第一 被告人河田清二重田俊策 近藤三彌 大村一郎 田中正喜 肥田常五郎ハ寶石類ヲ大連ヨリ内地ニ密輸入セシコトヲ企テ

(一) 被告人河田清二ハ

(イ) 昭和六年九月頃ダイヤモンド十三カラット 價格金六千五百二十圓五十錢 (此ノ課稅價額金三千五百五十圓關稅同額) ノモノヲ同市居住ノ被告人大村一郎ニ

何レモ大連市ヨリ段ボール紙ノ間隙ニ挿入シテ各密送シ通關手續ヲ爲スコトナクシテ夫々同人等ニ到達セシメ (ロ) 同年四月下旬頃ダイヤモンド二十一カラット 價額合計金八千四百七十六圓七十錢 (此ノ課稅價額金四千九十五圓關稅同額) ノモノヲ

同年九月頃ダイヤモンド三十カラット 價額金一萬一千七百七十八圓 (此ノ課稅價額金五千四百圓關稅同額) ノモノヲ

何レモ汽船便ニテ大連ヨリ神戸港ニ携へ來リ密ニ之ヲ陸揚シテ通關手續ヲ爲スコトナクシテ同稅關構外ニ搬出シ

以テ關稅合計金一萬四千四百四十五圓ヲ納付セスシテ之ヲ遁脱シ

(二) 被告人河田清二 近藤三彌ハ共謀ノ上被告人三彌ニ於テ密輸入ノ實行方ヲ擔當シ

(イ) 同年六月頃ダイヤモンド二十五カラット 價額金一萬三千四十一圓 (此ノ課稅價額金六千三百圓關稅同額) ノモノヲ汽船便ニテ大連ヨリ神戸港ニ携へ來リ密ニ之ヲ陸揚シテ通關手續ヲ爲スコトナクシテ同稅關構外ニ搬出シ

(ロ) 同九年一月頃ダイヤモンド十カラット 價格金三千六百五十一圓五十錢 (此ノ課稅價額金千七百六十四圓關稅同額) ノモノヲ飛行便ニテ安東縣ヲ經由シ内地ニ携へ來リタルカ日滿國境通過ニ際シ通關手續ヲ爲スコトナクシテ密ニ之ヲ新義州ニ運ヒ入レ

以テ關稅合計金八千六十四圓ヲ納付セスシテ之ヲ遁脱シ

(三) 被告人河田清二 田中正喜ハ共謀ノ上被告人清二ニ於テ密輸入ノ實行方ヲ擔當シ

(イ) 同年三月下旬頃ダイヤモンド五十五カラット 價額金二萬一千四百二十四圓五十錢 (此ノ課稅價額金一萬三百五十圓關稅同額) ノモノヲ情ヲ知ラサル妻河田惠子ニ委託シテ大連ヨリ門司港ニ携へ來ラシメ密ニ之ヲ陸揚シテ通關手續ヲ爲スコトナクシテ同稅關構外ニ搬出セシメ

(ロ) 同年五月頃ダイヤモンド六十五カラット 價格金二萬四千二百十九圓 (此ノ課稅價額金一萬一千七百圓關稅同額) ノモノヲ自ラ汽船便ニテ大連ヨリ神戸港ニ携へ來リ密ニ之ヲ陸揚シテ通關手續ヲ爲スコトナクシテ同稅關構外ニ搬出シ

(ハ) 同年八月中旬頃ダイヤモンド八十カラット 價額金三萬七千二百六十圓 (此ノ課稅價額金一萬八千圓關稅同



額)ノモノヲ汽車便ニテ大連ヨリ安東縣ヲ經由シ内地ニ携へ來リタルカ日滿國境通過ニ際シ通關手續ヲ爲スコトナクシテ密ニ之ヲ新義州ニ運ヒ入レ

以テ關稅合計金四萬五千圓ヲ納付セスシテ之ヲ連脱シ

(四) 被告人河田清二 田中正喜 肥田常五郎ハ重田俊策ト共謀ノ上被告人常五郎ニ於テ密輸ノ實行方ヲ擔當シ同年八月中旬頃ダイヤモンド十八カラット價額金九千三百十五圓(此ノ課稅價額金四千五百圓關稅同額)ノモノヲ汽船扶桑丸ニテ大連ヨリ大阪港ニ携へ來リ密ニ之ヲ陸揚シテ通關手續ヲ爲スコトナクシテ同稅關構外ニ搬出シ以テ關稅金四千五百圓ヲ納付セスシテ之ヲ連脱シ

(五) 被告人田中正喜 重田俊策 肥田常五郎ハ共謀ノ上被告人常五郎ニ於テ密輸入ノ實行方ヲ擔當シ同年六月頃ダイヤモンド四十カラット價額金一萬五千九百九十五圓五十錢(此ノ課稅價額金七千七百二十七圓三十錢關稅同額)ノモノヲ

同年七月頃ダイヤモンド六十カラット價額金二萬一千六百三十九圓八十錢(此ノ課稅價額金一萬四百五十四圓關稅同額)ノモノヲ

何レモ汽船扶桑丸ニテ大連ヨリ神戸港ニ携へ來リ密ニ之ヲ陸揚シテ通關手續ヲ爲スコトナクシテ同稅關構外ニ搬出シ

以テ關稅合計金一萬八千八百八十一圓三十錢ヲ納付セスシテ之ヲ連脱シ

(六) 被告人重田俊策ハ

(イ) 同三年七月頃ヨリ同六年三月頃ニ至ル迄ノ間前後五回ニ互リ猫目石三百カラット價額金三百三十圓(此ノ課稅價額金百五十圓關稅同額)ルビー合計三千カラット價額合計金千三百三十圓(此ノ課稅價額金六百三十圓

關稅同額)アレキササンダー合計千五百カラット價額合計金八百五十五圓(此ノ課稅價額金四百五圓關稅同額)及ルビー、アレキササンダー其ノ他ノ色石合計三千カラット價額金千四百四十圓(此ノ課稅價額金五百四十圓關稅同額)ノモノヲ何レモ汽船便ニテ大連ヨリ神戸港ニ携へ來リ密ニ之ヲ陸揚シテ通關手續ヲ爲スコトナクシテ同稅關構外ニ搬出シ

(ロ) 同六年七月ルビー、アレキササンダー其ノ他ノ色石合計三千カラット價額金千四百四十圓(此ノ課稅價額金五百四十圓關稅同額)ノモノヲ衣類中ニ隱匿ノ上情ヲ知ラサル被告人中川彦四郎ニ委託シテ汽船便ニテ大連ヨリ神戸港迄携へ來ラシメ同港到著ト同時ニ同シク情ヲ知ラサル被告人大村一郎ヲシテ密ニ之ヲ陸揚シテ通關手續ヲ爲スコトナクシテ同稅關構外ニ搬出セシメ

以テ關稅合計金二千二百六十五圓ヲ納付セスシテ之ヲ連脱シ

(七) 被告人重田俊策 大村一郎ハ共謀ノ上被告人俊策ニ於テ同年十月頃ルビー、アレキササンダー其ノ他ノ色石合計三千カラット價額金九百五十圓(此ノ課稅價額金四百五十圓關稅同額)ノモノヲ

同八年三月頃前同様ノ寶石三千カラット價額金千四百四十圓(此ノ課稅價額金五百四十圓)ノモノヲ何レモ前同様衣類中ニ隱匿シタル上情ヲ知ラサル被告人中川彦四郎ニ委託シテ汽船便ニテ其ノ都度大連ヨリ神戸港迄携へ來ラシメ同港到著ト同時ニ被告人一郎ニ於テ密ニ之ヲ陸揚シテ通關手續ヲ爲スコトナクシテ同稅關構外ニ搬出シ以テ關稅合計金九百九十圓ヲ納付セスシテ之ヲ連脱シ

(第二 省略)

第三 被告人重田俊策 大村一郎 肥田常五郎 中川彦四郎ハ金地金ヲ内地ヨリ大連ニ密輸出セムコトヲ企テ大藏大臣ノ許可及稅關ノ免許ヲ受ケサルニ拘ラス

關稅法第七十五條但書ニ所謂原價ノ意義



(一) 被告人重田俊策 大村一郎 肥田常五郎ハ共謀ノ上被告人俊策ハ金地金買入資金ヲ出資シ被告人一郎ハ之カ買入方等ニ從事シ被告人常五郎ニ於テ密輸出ノ實行方ヲ擔當シ昭和七年十月中旬及下旬ノ二回ニ互リ金地金合計百八十匁(内三十匁ハ二十金ノ鎖)ヲ神戸港碇泊中ノ前記香港丸ニ積込ミ大連ニ携行シ

(二) 被告人重田俊策 大村一郎 肥田常五郎ハ相被告人近藤三彌ト共謀ノ上前同様被告人常五郎ニ於テ密輸出ノ實行方ヲ擔當シ同年十一月初頃ヨリ同年十一月初頃ニ至ル迄ノ間前後十八回ニ互リ金地金合計五貫十四匁ヲ前同様ノ方法ヲ以テ大連ニ携行シ

(三) 被告人重田俊策 大村一郎 中川彦四郎ハ相被告人近藤三彌ト共謀ノ上被告人彦四郎ニ於テ密輸出ノ實行方ヲ擔當シ同年十月末頃ヨリ同年十一月初頃ニ至ル迄ノ間前後十七回ニ互リ金地金合計五貫五百九十匁ヲ神戸港碇泊中ノ前記ばいかる丸ニ積込ミテ大連ニ携行シ

(中略)

以テ密輸出ヲ遂ケ

第四 被告人田中正喜ハ被告人大村一郎等カ大藏大臣ノ許可及税關ノ免許ヲ受ケスシテ輸出スルモノナルコトヲ知り乍ラ昭和七年十月下旬頃ヨリ同年一月下旬頃ニ至ル迄ノ間前後六回ニ互リ金地金合計六百六十匁ヲ肩書自宅ニ於テ同被告人ニ賣却シ其ノ都度同被告人等ヲシテ前記ノ如ク孰レモ大連ニ密輸出スルニ至ラシメ以テ其ノ密輸出行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ

タルモノニシテ被告人等ノ右各犯行ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

尙被告人近藤三彌ハ昭和十年四月三十日神戸區裁判所ニ於テ外國爲替管理法違反ニ因リ懲役五月ニ處セラレ右判決ハ同年五月三日確定シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人等ノ本件犯行ニ係ルダイヤモンド其ノ他ノ寶石類中猫目石ヲ除ク其ノ餘ハ關稅定率法別表輸入稅表第四一二號第二項ノ寶石ニ該當スルトコロ右寶石ニ關シテハ本件犯行後昭和十年法律第四十號及第三十八號ニ依ル關稅率變更ハ同時ニ同年法律第三十七號ニ依ル關稅法中罰則ノ變更アリタルニヨリ新舊兩法ヲ比照スルニ右寶石ニ對スル關稅ヲ遺脫シタル所爲ハ舊法即行爲時法ニ依レハ明治四十四年法律第四十四號ヲ以テ改正セラレタル關稅法(以下舊關稅法ト假稱ス)第七十五條ニ該當シ遺脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處スヘク右稅金ハ犯行當時ノ大正十三年法律第二十四號贅澤品等ノ輸入稅ニ關スル件第一項別表輸入稅表第四一二號第二項關稅定率法第二條ニ依リ到著價格ノ十割ナルヲ以テ罰金又ハ科料ノ額ハ結局到著價格ノ三倍トナリ新法即裁判時法ニ依レハ昭和十年法律第三十七號ヲ以テ改正セラレタル關稅法(以下新法關稅ト假稱ス)第七十五條但書ニ該當シ其ノ原價ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處スヘキモノナルヲ以テ右ニ所謂原價ノ意義並之ト到著價格トノ關係ニ付按スルニ凡ソ原價ナル文字ハ二様ノ意義ニ用ヒラレ狭義ニ於テハ買入原價即商品ノ仕入地ニ於ケル仕入値段ノミヲ意味シ廣義ニ於テハ取得原價即右買入原價ノ外ニ仕入地ヨリ商品引取ニ要シタル運賃保險料等ノ諸費用ヲ加ヘタルモノヲ意味ス後者ノ意義ニ於ケル原價ハ市價ニ對立スルモノニシテ關稅定率法第二條ノ到著價格ト同一ノモノナリ而シテ之カ法令ニ於ケル從來ノ用例ニ徵スルニ煙草專賣法ニハ第四十一條第二項ニ「前項ノ價格トハ其ノ煙草ノ生産地又ハ仕入地ニ於ケル原價ニ云々」トアルニ對シ關稅法ニハ第七十四條ニ「貨物ノ原價ニ相當スル罰金」ナル規定アルヲ以テ法律ハ狭義ノ原價ヲ指稱スル場合ニハ單ニ原價ナル文字ヲ使用スルヲ避ケ特ニ「生産地又ハ仕入地ニ於ケル」ナル文字ヲ冠シ廣義ニ於ケル原價ヲ指稱スル場合ハ單ニ原價ナル文字ヲ使用スルモノト解スルヲ相當トシ新關稅法第七十五條但書ニハ單ニ原價トアリテ生産地又ハ仕入地ナル文字ナキニヨリ同條ノ原價ハ從前ヨリ存シタル同法第七十四條ノ用例ヲ踏襲シ犯行當時ノ市價ヲ意味スル同法第八十三條ノ價額ト對立スル廣義ノ原價ヲ指稱スルモノト解スルヲ妥當トスヘク更ニ

關稅法第七十五條但書ニ所謂原價ノ意義



之ヲ立法趣旨ニ徴スルニ貴石ニ對スル關稅率ノ前記變更ハ從來ノ十割ヲ一躍其ノ十分ノ一ナル從價一割トナシタル結果關稅通脫罪ノ刑ヲ一律ニ稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ト規定シタル舊法ノ規定ヲ其ノ儘ニ存置スルトキハ貴石ノ關稅ヲ通脫シタル場合ハ其ノ罰金又ハ科料ノ額モ當然從前ノ十分ノ一ニ減輕セラレコトナルヘキトコロ同年法律第三十七號ニ依ル關稅法ノ改正ハ右稅率改正ノ後ニ於テモ罰金又ハ科料ノ額ヲ從前ノ十割ヲ課シタル場合ト同一額ニ止メテ貴石密輸ノ取締ヲ嚴ニシ稅額ノ低減ト相俟テ可及的ニ之カ密輸ノ根絶ヲ期セントスル趣旨ニ出アタルモノニ非サル言スレハ貴石ノ輸入稅率變更ニ伴フ刑ノ輕減ヲ防遏セントシタルモノニシテ毫毛刑ノ減輕ヲ豫定シタルモノニ非サルコトハ稅率ノ變更ナカリシ半貴石ノ關稅通脫等ニ對スル刑ヲ從前ノ通り稅金ノ三倍相當ノ罰金又ハ科料トナシ變更ヲ加ヘサリシコト及後記ノ如ク關稅ヲ通脫シタル貴石ノ故買運搬等ノ罪ニ付却テ刑ヲ加重シ居ルニ徴シ明瞭ナリ然ルニ若原價ノ意義ヲ狹義ニ解シ到著價格ノ一部ナル買入原價ヲ指稱スルモノト解スルトキハ右改正ノ結果關稅ヲ通脫シタル罪ニ付科スヘキ罰金又ハ科料ハ貴石ニ關スル限リ到著價格ト買入原價トノ差額ノ三倍ニ相當スル金額ヲ減輕セラレタルコトトナリ新關稅法ノ企圖スルトコロト全然背馳スル結果トナルヲ以テ新關稅法ノ立法趣旨ヨリスルモ亦廣義ニ於ケル原價ヲ指稱スルモノト解スルヲ妥當トスヘシ之ヲ要スルニ孰レノ見地ヨリスルモ新關稅法ニ所謂原價ハ關稅定率法ノ到著價格ト同一意義ニ解スルノ外ナキモノト謂ハサルヘカラス斯ノ如ク新關稅法第七十五條但書ノ原價ハ課稅標準タル到著價格ト同一モノナルニヨリ新舊兩法共其ノ刑ハ何レモ到著價格ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處スト謂フニ歸シ其ノ間ニ輕重ナク又猫目石ハ關稅定率法及大正十三年法律第二十四號ノ各別表輸入稅表第四一三號第二項乙ノ半貴石ニ該當シ新關稅法第七十五條但書ノ貴石ニ該當セス從テ之ニ對スル關稅ヲ通脫シタル罪ニ付テハ何等刑ノ變更ナキヲ以テ被告人中川彦四郎ヲ除ク爾餘ノ被告人等ノ關稅通脫ノ所爲ニ對シテハ何レモ行爲時法ナル舊關稅法ヲ適用スヘキモノトス此ノ點ニ付被告人河田清二等ノ辯護人中村俊夫等ハ右原價ヲ前示二個ノ用例中ノ狹義ノモノニ

解シ新關稅法ノ刑輕キヲ以テ刑法第六條ニ則リ裁判時法ヲ適用スヘキモノナル旨主張スレトモ右見解ハ之ヲ採用セス次ニ關稅ヲ通脫シタル貴石ヲ運搬牙保シタル所爲ハ舊法即行爲時法ニ依レハ舊關稅法第七十五條ノ二ニ該當シ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處スヘク新法即裁判時法ニ依レハ新關稅法第七十五條ノ二但書ニ該當シ五千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ其ノ貴石ノ原價カ五千圓ヲ超ユルトキハ其ノ原價以下ノ罰金又ハ科料ニ處スヘク舊法ノ刑輕キヲ以テ刑法第六條ニ依リ行爲時法ヲ適用スヘク尙被告人田中正喜ノ大藏大臣ノ許可ヲ受ケサル金ノ密輸出ヲ幫助シタル所爲ニ付テモ亦犯行後法律ノ變更アリタルヲ以テ新舊兩法ヲ比照スルニ舊法即行爲時法ニ依レハ昭和六年大藏省令第三十六號刑法第六十二條第一項ニ該當シ新法即裁判時法ニ依レハ昭和八年法律第二十八號外國爲替管理法第一條第二號第五條第一項本文同年大藏省令第七號外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件第一條刑法第六十二條第一項ニ該當シ舊法ノ刑輕キヲ以テ刑法第六條ニ依リ行爲時法ヲ適用スヘキモノトス

果シテ然ラハ被告人等ノ判示所爲中被告人重田俊策 河田清二 近藤三彌 田中正喜ノ關稅通脫ノ點ハ舊關稅法第七十五條刑法第五十五條ニ被告人重田俊策ノ大藏大臣ノ許可ヲ受ケスシテ金地金ヲ密輸出シタル點ハ昭和八年法律第二十八號外國爲替管理法第一條第二號第五條第一項本文昭和八年大藏省令第七號外國爲替管理法ニ基ク命令ノ件第一條ニ稅關ノ免許ヲ受ケスシテ貨物ヲ輸出シタル點ハ關稅法第七十六條本文ニ被告人田中正喜ノ大藏大臣ノ許可ヲ受ケサル金地金ノ輸出ヲ幫助シタル點ハ昭和六年大藏省令第三十六號刑法第六十二條第一項ニ稅關ノ免許ヲ受ケサル貨物ノ輸出ヲ幫助シタル點ハ關稅法第七十六條本文刑法第六十二條第一項ニ各該當スルトコロ被告人重田俊策ノ大藏大臣ノ許可ヲ受ケスシテ金地金ヲ輸出シタル所爲ト稅關ノ免許ヲ受ケスシテ貨物ヲ輸出シタル所爲及被告人田中正喜ノ右輸出ヲ幫助シタル各所爲ハ何レモ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ各刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ被告人重田俊策ニ對シテハ重キ前者ノ罪ノ被告人田中正喜ニ對シテハ之ヲ幫助シタル罪ノ刑ニ從フヘク尙何レモ連續



犯ニ係ルヲ以テ刑法第五十五條ニ依リ一罪トシ被告人重田俊策ニ付外國爲替管理法第五條第一項本文ノ所定刑中懲役刑ヲ選擇スヘク被告人田中正喜ニ付テハ右大藏省令所定刑中罰金刑ヲ選擇シタル上從犯ナルヲ以テ刑法第六十三條第六十八條第四號ニ依リ法定ノ減輕ヲ爲シ被告人等ノ關稅法違反ノ罪ニ付各罰金刑ヲ選擇スヘク被告人重田俊策田中正喜ノ以上ノ所爲ハ刑法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十八條第一項ニ依リ被告人重田俊策ニ對シテハ外國爲替管理法違反ノ懲役刑ト關稅法違反ノ罰金刑ヲ併科スヘク尙關稅法第八十二條ノ四ニ依リ被告人田中正喜ノ關稅連脫ノ罪及金地金密輸出幫助ノ罪ニ付夫々各別ニ處斷スヘク被告人近藤三彌ニハ前示ノ如キ確定判決ヲ經タル罪アリテ之ト其ノ判決確定前ニ犯サレタル判示關稅連脫ノ罪トハ刑法第四十五條後段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第五十條ヲ適用シテ末々裁判ヲ經サル判示關稅連脫ノ罪ニ付處斷スヘキモノトス

因テ被告人近藤三彌ヲ連脫稅合計金八千六百四十四圓ノ三倍ニ相當スル罰金二萬四千九百九十二圓ニ被告人重田俊策ヲ所定刑期範圍内ニ於テ懲役五月及連脫稅合計金二萬一千四百三十三圓三十錢ノ三倍ニ相當スル罰金六萬四千三百八圓九十錢ニ被告人河田清ニ付連脫稅合計金六萬七千五百九十九圓ノ三倍ニ相當スル罰金二十萬千七百七十七圓ニ被告人田中正喜ヲ關稅連脫ノ罪ニ付連脫稅合計金六萬二千七百三十一圓三十錢ノ三倍ニ相當スル罰金十八萬八千九百九十三圓九十錢ニ金地金密輸出幫助ノ罪ニ付所定金額ノ範圍内ニ於テ罰金五十圓ニ處シ被告人等ニ對シ右各罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ依リ主文掲記ノ期間夫々同被告人等ヲ勞役場ニ留置スヘク

被告人等ノ關稅連脫ノ犯罪ニ係ル判示寶石類ハ何レモ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ關稅法第八十三條第一項ニ則リ被告人近藤三彌ニ付テハ判示貴石ノ價額金一萬六千六百九十二圓五十錢ヨリ其ノ關稅金八千六百四十四圓ヲ控除シタル金八千六百二十八圓五十錢ヲ被告人重田俊策ニ付テハ判示貴石及貴石ノ價額金四萬四千五百二十圓三十錢ヨリ其ノ關稅金二萬一千四百三十六圓三十錢ヲ控除シタル金二萬三千八百八十四圓ヲ被告人河田清ニヨリ判示貴石ノ價額十三萬八千

八百十二圓二十錢ヨリ其ノ關稅金六萬七千五百九十九圓ヲ控除シタル金七萬一千七百五十三圓二十錢ヲ被告人田中正喜ヨリ判示貴石ノ價額金十二萬九千八百五十三圓八十錢ヨリ其ノ關稅金六萬二千七百三十一圓三十錢ヲ控除シタル金六萬七千二百二十二圓五十錢ヲ夫々右被告人等ヨリ追徵スヘキモノトス

主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

理 由

被告人河田清ニ辯護人黒田敬之中村俊夫被告人重田俊策辯護人中村俊夫上告趣意書第一點原判決ハ法律ノ解釋ヲ誤リタル不法アリト思料ス原審ハ其ノ理由ニ於テ本件犯罪ニ對シ舊法ヲ適用スヘキカ新法ヲ適用スヘキカニツキ結論トシテ「舊關稅法ニ所謂原價トハ關稅定率法ノ到著價格ト同一意義ニ解スル外ナシ」トシ「斯クノ如ク新關稅法第七十五條但書ノ原價ハ課稅標準タル到著價格ト同一ノモノナルニヨリ新舊兩法其ノ刑ハ何レモ到著價格ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處スト謂フニ歸シ其ノ間ニ輕重ナク」從ツテ行爲時法タル舊法ヲ適用スヘキタト斷定シテ居ルカ此ノ見解ハ誤ツテ居ル即關稅法第七十五條ハ「關稅ノ連脫ヲ圖リ又ハ關稅ヲ連脫シタルモノハ其ノ連脫ヲ圖リ又ハ連脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ犯罪ニ係ル貨物ヲ沒收ス但シ犯罪ニ係ル貨物カ關稅定率法別表輸入稅表第四百十二條第二項ニ掲クル貴石ナルトキハ罰金又ハ科料ハ其ノ原價ノ三倍ニ相當スル



金額トス」ト規定シテキル而シテ右ノ内但書ハ昭和十年法律第三七號ニヨツテ新タニ加入セラレタモノテアル借而舊法ニヨレハダイヤモンドノ密輸ニ對スル罰金ハ一率ニ税金ノ三倍テアツタ而シテ税金ハ「從價稅品(例之ダイヤモンド)ハ輸入ノ際ニ於ケル到著價格ニヨリ課稅ス」ルコトニナツテキルカラ所謂到著港價格ノ三倍カ罰金トナルノテアツタ然ルニ新シク但書カ加ヘラレソレニヨレハ貴石(例之ダイヤモンド)ニ對シテハ「原價ノ三倍」ト定メラレタノテアルカラ若シ但書ノ原價カ到著價格ヨリ低額テアレハ新法ニヨツテ刑カ減輕サレタコトナルカラ當然裁判時法主義ニ則リ新法カ適用サルヘキモノト信ス然ラハ關稅法第七十五條但書ニ言フ原價トハ何ヲ指スカ煙草專賣法第四十一條ニ「政府ノ命令又ハ許可ヲ受ケスシテ煙草ノ輸入ヲ圖リ若クハ其ノ輸入ヲ爲シタルモノハ其ノ煙草ノ價格ノ十倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ煙草ヲ沒收ス但其ノ罰金額ハ百圓ヲ下ルコトヲ得ス前項ノ價格ハ其ノ煙草ノ生産地又ハ仕入地ニ於ケル原價ニ荷造費運送費保險料其ノ他輸入地ニ到著スル迄ノ諸費及輸入稅ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノトス」ト定メ明カニ原價ヲ以テ生産地又ハ仕入地ノ原價ト明定シテ居ル立法趣旨ヨリシテ關稅法ニ於ケル原價モ亦到著價格ヨリ二割乃至三割ノ利益ヲ控除シタル生産地又ハ仕入地ノ價格ヲ指稱スルヲ妥當トスヘキテアル唯生産地又ハ仕入地ノ原價不明ノ場合ノミ止ムナク到著價格ヲ以テ原價トスヘキテアツテ本件ノ如ク被告人河田清二カ大連ニ於テダイヤモンド商ジヤマルデイン等ヨリ仕入レタル價格カ明瞭トナツテキルカ如キ事案ニ於テハ罰金算定ノ基礎モ亦仕入

地ノ原價ノ三倍トスヘキテアツテ斷シテ到著價格ノ三倍トスヘキテハナイ原審ハ舊法ヲ適用スルヲ妥當ナリトノ理論ツケニ「後記ノ如ク關稅ヲ逋脫シタル貴石ノ故買運搬等ノ罪ニ付却ツテ刑ヲ加重シ居ルニ徴シ明瞭ナリ」ト云ツテキルカ新法ニ於テ故買運搬ニ關シ舊法ニ比シ罪ヲ重クシタノハ昭和十年三月二十三日貴族院ニ於ケル會我委員長ノ報告ノ如ク(昭和十年三月二十六日官報號外御參照)「貴石ノ關稅逋脫犯ニ對シマシテハ其ノ故買犯ト云フモノカ原動力トナツテ働イテキルト云フ場合カ多イノテコサイマス」トアリ此ノ趣旨ニ於テ故買運搬等ノ犯罪ニツキ刑カ加重サレタノテアツテ原價ノ説明ニ對シテハ何等ノ資料トハナリ得ナイノテアル然ラハ原審カ本件ニツキ舊法ヲ適用シタルハ不當ナリト云ハネハナラナイト云ヒ」被告人田中正喜辯護人島田武夫上告趣旨書第六點原判決ハ擬律錯誤ノ違法アリ原判決ハ其ノ擬律ノ部ニ於テ「本件犯行ニ係ルダイヤモンドハ關稅定率法別表輸入稅表第四一二號第二項貴石ニ該當スルトコロ右貴石ニ關シテハ本件犯行後昭和十年法律第四十號及第三十八號ニ依ル關稅率變更ト同時ニ同年法律第三十七號ニ依ル關稅法中罰則ノ變更アリタルニヨリ新舊兩法ヲ比照スルニ右貴石ニ對スル關稅ヲ逋脫シタル行爲カ舊法即行爲時法ニ依レハ明治四十四年法律第四十四號ヲ以テ改正セラレタル關稅法(舊關稅法)第七十五條ニ該當シ逋脫シタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處スヘク右税金ハ犯行當時ノ大正十三年法律第二十四號贅澤品等ノ輸入稅ニ關スル件第一項別表輸入稅表第四一二號第二項關稅定率法第二條ニ依リ到著價格ノ十割ナルヲ以テ罰金又ハ科料ノ



額ハ結局到著價額ノ三倍トナル之ニ反シ裁判時法ニ依レハ昭和十年法律第三十七號ヲ以テ改正セラレタル關稅法(新關稅法)第七十五條但書ニ該當シ其ノ原價三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處スヘキモノナルモ右ニ所謂原價ノ意義ハ關稅法上到著價額ノ意義ト同一ナリトナシ其ノ理由トシテ(一)稅法上原價ナル文字ハ到著地ノ市價ヲ意味シ「生産地又ハ仕入地ニ於ケル價額」ヲ意味セス(二)關稅法第七十五條ノ原價ナル文字ハ從前ヨリ存シタル第七十五條ノ用例ヲ踏襲シ犯則當時ノ市價ヲ意味ス(三)關稅率ノ變更ハ從來ノ十割ヨリ一躍從價一割ニナシタルモ罰金又ハ科料ノ額ノミハ從前ノ十割ヲ課シタル場合ト同一額ニ止メ貴石密輸ノ取締ヲ從前通り嚴重ナラシメタルモノナリト云フニ在リ然レトモ關稅法第七十五條但書ニハ「犯罪ニ係ル貨物カ關稅定率法別表輸入稅表第四百十二號第二項ニ掲クル貴石ナルトキハ罰金又ハ科料ハ其ノ原價ノ三倍ニ相當スル金額トス」トアリ所謂「其ノ原價ノ三倍」トハ犯罪ニ係ル貨物ノ生産地又ハ仕入地ノ價額ヲ指スモノナルコト規定自體ニ依リテ明白ナルノミナラス關稅法ノ附屬法規タル關稅定率法第二條ニハ「從價稅品ハ輸入ノ際ニ於ケル到著價格ニ依リテ課稅ス」ト規定シ課稅ノ時ヲ明カニスルノミナラス課稅ノ標準トナル價格ハ到著價格ナリトナス然ルニ關稅法第七十五條ハ前記ノ如ク單ニ「原價ノ三倍」ト規定スルノミニシテ關稅定率法第二條トハ全然其ノ文言ヲ異ニシ其ノ所謂「原價」ナル文字ハ關稅定率法第二條トノ比較上「到著價格」ナル意味ヲ有セス之ヲ煙草專賣法第四十一條ニ見ルモ其ノ第一項ハ「政府ノ命令又ハ許可ヲ受ケスシテ煙草ノ輸入ヲ圖リ若

クハ其ノ輸入ヲ爲シタル者ハ其ノ煙草ノ價格ノ十倍ニ相當スル罰金ニ處シ云々」トアリ其ノ第二項ニハ「前項ノ價格ハ其ノ煙草ノ生産地又ハ仕入地ニ於ケル原價ニ荷造費運送費保險料其ノ他輸入地ニ到著スル迄ノ諸費及輸入稅ニ相當スル金額ヲ加ヘタルモノトス」トアリテ「原價」ナル文字カ到著地ノ價額ニアラサルコトヲ明示ス故ニ稅法上「原價」ナル文字ハ本來到著地ノ價額ヲ意味スル文字ニアラス關稅法第八十三條ハ同法第七十四條ヲ承ケ沒收不能ノ場合ノ追徵規定ニシテ犯人ヲシテ犯則物件ノ利益ヲ享有セシメサル趣旨ナルカ故ニ其ノ所謂「價額」ナル文字ハ到著價額ヲ意味スルコト論理上當然ナリ之ヲ同法第七十五條ノ原價ト同一視スル能ハサルナリ昭和十年法律第三十八號關稅定率法カ關稅率ヲ從來ノ十割ヨリ一割ニ激減シタル經過ヨリ之ヲ見ルモ關稅ノ低廉ナル物件ノ反則ハ其ノ高價ナル物件ノ反則ヨリモ其ノ罰金額ハ少額ナルヲ以テ足レリトスヘク關稅率ヲ低下シナカラ反則者ニ對スル罰金ヲ從前ノ高率關稅ノ時ト同一ナラシムルハ著シク權衡ヲ失スルモノト云ハサルヘカラス關稅率ヲ低下シタルトキハ反則者ニ對スル刑罰モ亦輕減サルヘキコト當然ノ歸結ナリ以上ノ理由ニヨリ關稅法第七十五條ニ所謂「原價」ナル文字ハ貴石ノ生産地又ハ仕入地ノ價額ト解スヘキナリ之ヲ刑罰法規ノ原理ヨリスルモ刑罰法規ノ文字ハ之ヲ犯人ノ利益ニ解スヘク之ヲ類推シテ犯人ノ不利益ニ解スルハ嚴ニ戒ムヘキコトナリ斯ノ如ク關稅法第七十五條ニ所謂「原價」ハ生産地又ハ仕入地ノ價額ヲ意味スルカ故ニ裁判時法ハ行爲時法ヨリ其ノ刑輕ク被告人ニ對シテハ刑法第六條ニ依リ輕キ裁判時法ヲ適用ス



へキモノナルニ拘ラス原判決カ關稅法第七十五條ノ原價ヲ到著價格ナリト解シ行爲時法タル舊關稅法ヲ適用處斷シタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノト云ハサルヘカラスト云ヒ」被告人河田清二辯護人早稻田逸郎 中村俊夫上告趣意書第三點原判決ハ其ノ理由中法律適用ニ於テ「法律ニ照スニ被告人等ノ本件犯行ニ係ルダイヤモンド其ノ他ノ寶石類中猫目石ヲ除ク其ノ餘ハ關稅定率法別表輸入稅表第四一二號第二項ノ寶石ニ該當スルトコロ右寶石ニ關シテハ本件犯行後昭和十年法律第四十號及第三十八號ニ依ル關稅率變更ト同時ニ同年法律第三十七號ニ依ル關稅法中罰則ノ變更アリタルニ因リ新舊兩法ヲ比照スルニ右寶石ニ對スル關稅ヲ逋脫シタル所爲ハ舊法即行爲時法ニ依レハ明治四十四年法律第四十四號ヲ以テ改正セラレタル關稅法(以下舊關稅法ト假稱ス)第七十五條ニ該當シ逋脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處スヘク右稅金ハ犯行當時ノ大正十三年法律第二十四號費澤品等ノ輸入稅ニ關スル件第一項別表輸入稅表第四一二號第二項關稅定率法第二條ニ依リ到著價格ノ十割ナルヲ以テ罰金又ハ科料ノ額ハ結局到著價格ノ三倍トナリ新法即裁判時法ニ依レハ昭和十年法律第三十七號ヲ以テ改正セラレタル關稅法(以下新關稅法ト假稱ス)第七十五條ニ該當シ其ノ原價ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處スヘキモノナルヲ以テ右ニ所謂原價ノ意義竝之ト到著價格トノ關係ニ付按スルニ凡ソ原價ナル文字ハ二様ノ意義ニ用ヒラレ狭義ニ於テハ買入原價即貨物ノ仕入地ニ於ケル仕入値段ノミヲ意味シ廣義ニ於テハ取得原價即右買入原價ノ外ニ仕入地ヨリ商品引取ニ要シタル運賃保險料等ノ諸費用ヲ加

へタルモノヲ意味ス後者ノ意義ニ於ケル原價ハ市價ニ對立スルモノニシテ關稅定率法第二條ノ到著價格ト同一ノモノナリ而シテ之カ法令ニ於ケル從來ノ用例ニ徵スルニ煙草專賣法ニハ第四十一條第二項ニ「前項ノ價額トハ其ノ煙草ノ生産地又ハ仕入地ニ於ケル原價ニ云々」トアルニ對シ關稅法ニハ第七十四條ニ「貨物ノ原價ニ相當スル罰金」ナル規定アルヲ以テ法律ハ狭義ノ原價ヲ指稱スル場合ニハ單ニ原價ナル文字ヲ使用スルヲ避ケ特ニ「生産地又ハ仕入地ニ於ケル」ナル文字ヲ冠シ廣義ニ於ケル原價ヲ指稱スル場合ハ單ニ原價ナル文字ヲ使用スルモノト解スルヲ相當トシ新關稅法第七十五條但書ニハ單ニ原價トアリテ生産地又ハ仕入地ナル文字ナキニヨリ同條ノ原價ハ從前ヨリ存シタル同法第七十四條ノ用例ヲ踏襲シ犯則當時ノ市價ヲ意味スル同法第八十三條ノ價格ト對立スル廣義ノ原價ヲ指稱スルモノト解スルヲ妥當トスヘク更ニ之ヲ立法趣旨ニ徵スルニ寶石ニ對スル關稅率ノ前記變更ハ從來ノ十割ヲ一躍其ノ十分ノ一ナル從價一割トナシタル結果關稅逋脫罪ノ刑ヲ一律ニ稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ト規定シタル法ノ規定ヲ其ノ儘ニ存置スルトキハ寶石ノ關稅ヲ逋脫シタル場合ハ其ノ罰金又ハ科料ノ額モ當然從前ノ十分ノ一ニ減輕セラルコトナルヘキトコロ同年法律第三十七號ニ依ル關稅法ノ改正ハ右稅率改正ノ後ニ於テモ罰金又ハ科料ノ額ヲ從前ノ十割ヲ課シタル場合ト同一額ニ止メ寶石密輸ノ取締ヲ嚴シシ稅額ノ低減ト相俟テ可及的ニ之カ密輸ノ根絶ヲ期セントスル趣旨ニ出テタルモノ換言スレハ寶石ノ輸入稅率變更ニ伴フ刑ノ輕減ヲ防遏セントシタルモノニシテ毫モ刑ノ減輕



ヲ豫定シタルモノニ非サルコトハ税率ノ變更ナカリシ半貴石ノ關稅逋脫等ニ對スル刑ヲ從前ノ通り稅金ノ三倍相當ノ罰金又ハ科料ト爲シ變更ヲ加ヘサリシコト及後記ノ如ク關稅ヲ逋脫シタル貴石ノ故買運搬等ノ罪ニ付却ツテ刑ヲ加重シ居ルニ徴シ明瞭ナリ然ルニ若シ原價ノ意義ヲ狹義ニ解シ到著價格ノ一部ナル買入原價ヲ指稱スルモノト解スルトキハ右改正ノ結果關稅ヲ逋脫シタル罪ニ付料スヘキ罰金又ハ科料ハ貴石ニ關スル限リ到著價格ト買入原價トノ差額ノ三倍ニ相當スル金額ヲ減輕セラレタルコトト爲リ新關稅法ノ企圖スル所ト全然背馳スル結果トナルヲ以テ新關稅法ノ立法趣旨ヨリスルモ亦廣義ニ於ケル原價ヲ指稱スルモノト解スルヲ妥當トスヘシ之ヲ要スルニ孰レノ立場ヨリスルモ新關稅法ニ所謂原價ハ關稅定率法ノ到著價格ト同一意義ニ解スルノ外ナキモノト謂ハサル可ラス斯ノ如ク新關稅法第七十五條但書ノ原價ハ課稅標準タル到著價格ト同一モノナルニ依リ新舊兩方共其ノ刑ハ何レモ到著價格ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處スト謂フニ歸シ其ノ間ニ輕重ナク(中略)從テ之ニ對スル關稅ヲ逋脫シタル罪ニ付テハ何等刑ノ變更ナキヲ以テ被告人中川彦四郎ヲ除ク爾餘ノ被告人等ノ關稅逋脫ノ所爲ニ對シテハ何レモ行爲時法ナル舊關稅法ヲ適用スヘキモノトス此ノ點ニ付被告人河田清二等ノ辯護人中村俊夫等ハ右原價ヲ前示二個ノ用例中ノ狹義ノモノニ解シ新關稅法ノ刑輕キヲ以テ刑法第六條ニ依リ裁判時法ヲ適用スヘキモノナル旨主張スレトモ右見解ハ之ヲ採用セス云々ト判示セラレタリ即之ヲ要約スレハ新關稅法(昭和十年法律第三十七號ヲ以テ改正)ニ所謂原價ハ關稅定率

法ノ到價著格ト同一意義ニ解スヘキモノニシテ從テ新關稅法第七十五條但書ノ原價ハ課稅標準タル到著價格ト同一モノナルニヨリ新舊兩法共其ノ刑ハ以レモ到著價格ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處スト云フニ歸シ其ノ間ニ輕重ナク從テ之ニ對スル關稅ヲ逋脫シタル罪ニ付テハ何等刑ノ變更ナキヲ以テ被告人等ノ關稅逋脫ノ所爲ニ對シテハ行爲時法タル舊關稅法ヲ適用スヘキモノナリト云フニ在リ惟フニ舊關稅法(原判決ノ假稱ニ從フ)第七十五條ニ依レハ貴石ノ關稅ヲ逋脫シタル場合ニ於テハ逋脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處スヘキ旨ヲ規定シ而シテ大正十三年法律第二十四號贅澤品等ノ輸入稅ニ關スル法律第一項ニ依レハ前記貴石ニ對シテハ從價十割ノ輸入稅ヲ課スヘキトコト關稅定率法第二條ニ依レハ從價稅品ハ輸入ノ際ニ於ケル到著價額ニ依リテ課稅スヘキ旨ヲ規定スルヲ以テ右貴石ニ對スル關稅ヲ逋脫シタル者ハ右貴石ノ輸入時ニ於ケル到著價額ノ十割即到著價額ト同額ノ稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處スヘキコトニ歸著スルモノトス而シテ之ニ對シ改正後ノ新關稅法第七十五條但書ハ右貴石ノ關稅ヲ逋脫シタル者ハ貴石ノ原價ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處スヘキ旨ヲ規定スルヲ以テ舊法ニ於ケル到著價額ト新法ニ於ケル原價トノ關係ニ付キ按スルニ關稅定率法ニ所謂到著價額トハ貨物ヲ原產地ヨリ輸入スル場合ニハ其ノ原產地ニ於ケル生產價額其ノ他ノ地ヨリ輸入スル場合ニハ其ノ仕入地ニ於ケル仕入價額ニ原產地若クハ仕入地ヨリ輸入地ニ至ル迄ノ運賃保險料其ノ他ノ諸費用ヲ加算シタルモノヲ指稱スルモノニシテ新關稅法第七十五條但書ニ所謂原



價トハ關稅定率法ニ所謂到著價額ニ對スルモノニシテ右到著價額ヨリ前記運賃保險料其ノ他ノ費用ヲ控除シタルモノ即原產地ヨリ輸入スル場合ニ於テハ其ノ地ニ於ケル生産價額原產地以外ノ地ヨリ輸入スル場合ニ於テハ仕入地ニ於ケル仕入價額ヲ指稱スルモノト解スルヲ相當トス而シテ本件ニ於テハ運賃保險料其ノ他ノ費用ヲ要セサリシモノナルヲ以テ右原價ト到著價額トハ偶々同一額ニ歸スルモ理論上ハ原價ハ到著價額ノ一部ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ原價ノ三倍ノ罰金又ハ科料ハ到著價格ノ三倍ノ罰金又ハ科料ヨリ輕キモノト謂ハサル可ラス從テ本件關稅連脫ノ所爲ニ付テハ刑法第六條ニ則リ輕キ裁判時法タル新法ヲ適用處斷スヘキモノナリト謂ハサル可ラス然ルニ原判決カ前記摘示ノ如ク判示シ新關稅法第七十五條但書ニ所謂原價トハ關稅定率法ノ到著價額ト同一意義ニ解スヘキモノナリトシ從テ新舊兩法ノ間ニハ何等輕重ナク何レモ到著價額ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處スヘキモノニシテ何等刑ノ變更ナク被告人等ノ關稅連脫ノ所爲ニ對シテハ行爲時法タル舊關稅法ヲ適用スヘキモノナリト判示シタルハ新關稅法ニ所謂原價ノ意義ヲ誤解シ延テ法律ノ適用ヲ誤リタル違法アルモノニシテ破毀ヲ免レスト信ス然シテ今假ニ之ヲ新關稅法ニ所謂原價ト關稅定率法ノ到著價格トハ同一意義ニ解スヘキモノトスルモ尙且優先的ニ新法ヲ適用スヘキモノト謂ハサル可ラス從ツテ關稅定率法第二條ニ「到著價格ニ依リ云々」ト規定シ之ヲ原價ト同一的ニ解シ輕キ新關稅法第七十五條關稅定率法別表第四一二號ヲ適用シテ罰金額ヲ定ムヘキモノナリト謂ハサル可ラス然ルニ原判決カ前記ノ如ク舊關稅法ヲ適用

## 【要旨】

處斷シタルハ何レノ見地ヨリスルモ法律ノ適用ヲ誤リタル違法アルモノナリト信スト云フニ在レトモ改正關稅定率法カ貴石ノ輸入稅率ヲ激減シタルハ其ノ合法的輸入ヲ獎勵スルヲ目的トシタルモノニシテ關稅連脫ノ犯則行爲ニ對スル取締ヲ寬ニスルノ趣旨ニ非サルコト素ヨリ明白ナリ從テ關稅法第七十五條但書モ亦從前ノ制裁ヲ輕減シタルモノト解スルノ根據ナシ蓋關稅定率法ニ依レハ輸入課稅額ハ輸入港到著價格ヲ標準トシテ算定スヘク(同法第二條)又同法附屬別表ニ依レハ其ノ改正前ニ在リテハ貴石ノ輸入稅ハ到著價格ノ十割ニシテ即到著價格ト同一額ナルカ故ニ關稅法第七十五條本文ノ稅額額三倍ハ畢竟到著價格ノ三倍ニ當ルコト明ナルトコロ右定率法別表改正ニ因リ貴石ノ稅率到著價格ノ一割ニ低下シタルヲ以テ關稅法第七十五條ニ於テハ新ニ但書ヲ設ケテ從前ノ制裁ヲ維持スル爲右別表改正前ニ於ケル稅額算定ノ基礎タル貴石ノ到著價格ニ相當スル原價ノ三倍ヲ以テ刑金額ト定メタルモノニ外ナラス但右第七十五條但書カ右定率法第二條ニ倣ヒ到著價格ナル文字ヲ使用セサリシ爲右但書ノ原價カ之ト異リタル意義ヲ有スル如キ外觀ヲ生セリト雖斯ル形式ニ拘泥シテ上叙ノ精神ヲ没却スルハ正當ニ非ス然レハ則チ原審カ貴石ニ對スル本件關稅連脫ノ行爲ニ對シ行爲時法タル關稅法第七十五條ノ罰則ト改正後ノ同條罰則トハ其ノ刑ノ變更ナキモノナリト爲シ行爲時法ヲ適用處斷シタルハ正當ニシテ其ノ刑ニ變更ナキ場合ニハ行爲時法タル舊法ヲ適用スヘキモノナルコトハ島田辯護人上告論旨第七點ニ對スル說明ニヨリ之ヲ諒解スヘシ論旨ハ孰レモ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之



ヲ省略ス)

以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事秋山要關與

○自動車交通事業法違反被告事件

(昭和十一年(れ)第二五五一號  
同年十二月十六日第五刑事部判決)

棄却)

【上告人】 被告人 山口正志 辯護人 (羽吹 幸夫)

【第一審】 米澤區裁判所 【第二審】 山形地方裁判所

○判示事項

自動車交通事業法第五十五條ニ所謂破壊

○判決要旨

人ノ現在スル自動車運輸事業ノ自動車ノ放熱器ヲ損傷シ因テ之ニ

屢々水ヲ補給スルニ非サレハ安全ナル運轉ヲ繼續スル能ハサルニ  
至ラシメタル以上右損傷ハ自動車交通事業法第五十五條ニ所謂自  
動車ノ破壊ニ該當ス

【参照】 自動車交通事業法第五十五條 人ノ現在スル自動車運輸事業ノ自動車ヲ顛覆

シ又ハ破壊シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ傷ニ致シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處シ死ニ致シタ  
ルモノハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

同法第五十六條 第五十四條ノ罪ヲ犯シ因テ自動車ノ顛覆又ハ破壊ヲ致シタル者亦  
前條ノ例ニ同シ

同法第五十七條 過失ニ因リ第五十四條第一項又ハ第五十五條第一項ノ罪ヲ犯シタ  
ル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ業務ニ従事スル者犯シタルトキハ一年以下ノ  
禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金三十圓ニ處ス右罰金ヲ完納セザルト  
キハ被告人ヲ三十日間勞役場ニ留置ス訴訟費用ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ自動車運轉者ニシテ昭和十年十月二十八日北村山郡高崎村ヨリ貨物自動車山形第三六號ニ木炭七十俵ヲ積載

自動車交通事業法第五十五條ニ所謂破壊



米澤市ニ向ヒ運轉進行中午後零時半頃米澤市土橋町ノ手前ニ於テ其ノ前方ヲ十數名ノ乗客ヲ載セ米澤市ニ向ヒ進行中ナル運轉者樋口茂運轉ノ米澤市旭町今村八助經營ノ定期乗合自動車山形第一一一五號ヲ認メタルカ之ヲ追越サンカ爲クラクシヨシ(音響器)ヲ吹鳴シタルモ容易ニ避讓セス土橋町入口附近ニ於テ漸ク左側ニ避讓進行シタルヲ以テ被告人ハ其ノ右側ヲ通過シ乗合自動車ノ前方ニ出ツルヤ避讓ノ遅レタル理由ヲ詰問スル爲メ停車セントシタルカ如斯後車カ前車ヲ追越シタル際追越シタル車ハ其ノ儘進行ヲ繼續スルヲ通例トシ何等ノ事故ナキニ不拘追越スヤ否ヤ其ノ直前ニ於テ停車スル如キハ通常追越サレタル車ノ運轉者ニ於テ豫期セサルトコロナレハ自動車運轉者タル被告人カ此ノ際右乗合自動車ノ前方ニ停止セント欲シタランニハ須ク彼我ノ間隔速度ノ相違ヲ斟酌シ停車位置ヲ考量シ或ハ相當ナル合圖ヲ與フル等追突ノ危険ヲ未然ニ避クル爲メ必要適切ナル處置ヲ講シタル上停車方法ヲ執ルヘカリシニ不拘被告人ハ此ノ注意義務ヲ懈リ乗合自動車ノ直前約三間ノ距離ニ於テ停車ノ目的ヲ以テ急激ニ速力ヲ時速約三十五軒ヨリ約七軒ニ低減シタル爲メ乗合自動車ノ運轉者ニ於テ應急ノ處置ヲ執リタルモ及ハス右乗合自動車ノ前部ヲ被告人運轉ノ自動車ノ後部ニ追突セシメ乗合自動車ノヘッドライト(前照燈)ラヂエーター(放熱器)エンジンボネット(原動機覆)フロントフエンダー(前部泥除)等ヲ損傷セシメタル結果屢々放熱器ニ水ヲ補給スルニ非サレハ安全ナル運轉ヲ繼續スル能ハサルニ至ラシメ以テ過失ニ因リ人ノ現在スル自動車運轉事業ニ使用スル自動車ヲ破壊シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ自動車交通事業法第五十七條前段第五十五條第一項ニ該當スルヲ以テ其ノ所定罰金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金三十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納セサルトキハ刑法第十八條ヲ適用シ三十日間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

### ○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

### ○理 由

辯護人羽吹曉 赤井幸夫上告趣意書第二點原判決ハ其ノ事實理由中「被告人ハ自動車運轉者ニシテ昭和十年十月二十八日北村山郡高崎村ヨリ貨物自動車山形第三六號ニ木炭七十表ヲ積載シ米澤市ニ向ヒ運轉進行中午後零時半頃米澤市土橋町ノ手前ニ於テ其ノ前方ヲ十數名ノ乗客ヲ載セ米澤市ニ向ヒ進行中ナル運轉者樋口茂運轉ノ米澤市旭町今村八助經營ノ定期乗合自動車山形第一一一五號ヲ認メタルカ(中略)土橋町入口附近ニ於テ漸ク右乗合自動車カ左側ニ避讓進行シタルヲ以テ被告人ハ其ノ右側ヲ通過シ乗合自動車ノ前方ニ出ツルヤ(中略)右乗合自動車ノ直前約三間ノ距離ニ於テ停車ノ目的ヲ以テ急激ニ速力ヲ時速約三十五軒ヨリ約七軒ニ低減シタル爲メ乗合自動車ノ運轉者ニ於テ應急ノ處置ヲ採リタルモ及ハス右乗合自動車ノ前部ヲ被告人運轉ノ自動車ノ後部ニ追突セシメ乗合自動車ノヘッドライト、ラヂエーター、エンジンボネット、フロントフエンダー等ヲ損傷セシメタル結果屢々放熱器ニ水ヲ補給スルニ非サレハ安全ナル運轉ヲ繼續スル能ハサルニ至ラシメ以テ過失ニ依リ人ノ現在スル自動車運轉事業ニ使用スル自動車ヲ破壊シタルモノナリ」ト判示シ自動車交通事業法第五十七條前段第五十五條第一項ヲ適用處斷シタリ然レトモ右判示スル處ニ依レハ判示追突ニヨリ判示乘自合自動車ノ附屬装置ノ一部ヲ損傷シタルコトハ之ヲ認メ得ヘキモ該自動車ノ實質ヲ著シク損傷シテ其ノ交通機關タル機能ヲ喪失セシメタルモノト云フヘカラス即法ニ所謂自動車ヲ破壊シタルモノニ非サルナリ尤モ右判



示事實竝證據說明ニヨレハ判示乗合自動車カ判示場所ヨリ米澤市ニ於ケル停留所ニ至ル迄ノ間放熱器ニ水ヲ補給スルノ必要ヲ生セシメタル事實ハ認メ得ヘシト雖斯クノ如キハ未タ以テ自動車ソノモノヲ破壊シタルモノトハ謂フヘカラス現ニ判示乗合自動車ハ判示衝突後其ノ儘乗客ヲ乗セテ右停留所迄運轉セラレ其ノ間何等ノ危険ナカリシコト記録上明ナル處ナリ要スルニ原判決カ上告人ノ過失ニヨリ判示乗合自動車ヲ破壊シタルモノナリトシテ前示法條ヲ適用シテ有罪ノ言渡ヲ爲シタルハ事實ヲ誤認シ罪トナラサル行爲ニ對シテ刑ヲ科シタル違法アルモノニシテ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信スト謂フニ在レトモ

【要旨】

原判示事實ハ原判決舉示ノ證據ヲ綜合シテ之ヲ證明スルニ足り記録ニ徴スルモ右事實ニ重大ナル誤認アルコトヲ疑フヘキ顯著ナル事由ヲ發見セス而シテ判示ノ如ク乗合自動車ノ放熱器ヲ損傷シ因テ右放熱器ニ屢々水ヲ補給スルニ非サレハ安全ナル運轉ヲ繼續スル能ハサルニ至ラシメタル以上右損傷ハ自動車交通事業法第五十五條ニ所謂自動車ノ破壊ニ該當スルモノト謂フヲ妨ケス然レハ原審カ判示行爲ニ對シ判示法條ヲ適用處斷シタルハ相當ニシテ論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事佐々波與佐次郎關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件 (昭和十一年(九)第二三六〇號 同年十二月十七日第一刑事部判決 破毀自判)

【上告人】 被告人 安 藤 巖 辯護人 (上村 閔五郎 石川 博三)

【第一審】 長岡區裁判所 【第二審】 新潟地方裁判所

○判示事項

衆議院議員選舉法施行令第五十七條ノ三第一號及衆議院議員選舉運動等取締規則第五條第一號ノ適用

○判決要旨

共同推薦者中ノ一人カ他ノ共同者ヲシテ其ノ推薦狀ノ若干部ヲ選舉人ニ發送セシムル爲情ヲ知ラサル使者ヲ介シテ共同者中ノ數人ニ對シ送り届ケシメタル行爲ハ衆議院議員選舉法施行令第五十七

衆議院議員選舉法施行令第五十七條ノ三第一號及衆議院議員選舉運動等取締規則第五條第一號ノ適用



條ノ三第一號ニモ亦衆議院議員選舉運動等取締規則第五條第一號ノ孰レニモ違反セサルモノトス

【参照】衆議院議員選舉法施行令第五十七條ノ三 衆議院議員選舉法第九十六條第一項但書ノ規定ニ依リ議員候補者、選舉事務長又ハ選舉委員ニ非ザル者ガ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲ス場合ニ於テハ左ノ各號ノ制限ニ從フベシ  
一 選舉人ニ對シ戸別訪問ヲ爲シ又ハ連續シテ個個ノ選舉人ニ對シ面接シ若ハ電話ニ依リ通話ヲ爲スコトヲ得ズ

(以下省略)

衆議院議員選舉運動等取締規則第五條 選舉運動ノ爲使用スル文書圖畫ヲ頒布シ又ハ貼付シ若ハ揭示スル場合ニ於テハ左ノ各號ノ制限ニ從フベシ  
一 郵便ニ依ルノ外頒布スルコトヲ得ズ但シ演說會告知ノ爲ニスル引札及新聞紙ノ廣告ハ此ノ限ニ在ラズ

(以下省略)

衆議院議員選舉法第九十六條 議員候補者、選舉事務長又ハ選舉委員ニ非ザレバ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ズ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラズ  
第八十九條第一項ノ規定ニ依リ選任セラレタル勞務者ニ非ザレバ選舉運動ノ爲勞務ヲ提供スルコトヲ得ズ但シ議員候補者ト同居スル親族、家族及常備ノ使用人ハ此ノ限ニ在ラズ

同法第百條 内務大臣ハ選舉運動ノ爲頒布シ又ハ揭示スル文書圖畫ニ關シ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

### ○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金五十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十一年二月二十日施行ノ衆議院議員選舉ニ際シ新潟縣第三區ヨリ立候補シタル加藤知正ノ法定ノ選舉運動者ニ非サリシトコロ豫テ被告人外十四名名義ヲ以テ右候補者ノ爲ノ推薦狀約八百枚ヲ作成シ内六百枚程ヲ被告人肩書居村タル同縣古志郡新組村内有權者ニ發送シタルカ仍ホ二百枚程ノ殘部アリタルヨリ同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ之ヲ右推薦狀ノ加名者ヲシテ新組村以外ノ有權者ニ發送セシメンコトヲ企圖シ同月十七日情ヲ知ラサル恩田左平次ヲシテ前記推薦狀約百枚ヲ之カ發送方依頼ノ回狀ト共ニ持參ノ上右新組村選舉人ニシテ右推薦狀ノ加名者タル櫻井與三郎 安藤政義 諸橋秀松 小能謹三郎 田崎寅二 田崎穂方ヲ順次各別ニ訪問セシメ該本人又ハ其ノ家人ニ對シ右回狀ニ據リ前記ノ依頼ヲ爲サシメ猶同時ニ右推薦狀ノ内櫻井與三郎方ニ二、三枚安藤政義方ニ約十枚諸橋秀松方ニ約十枚田崎寅二方ニ約三十枚田崎穂方ニ約三十枚ヲ各配付セシメ以テ一面不法ノ選舉運動ヲ爲シ他面郵便ニ依ラスシテ選舉運動ノ爲使用スル文書ヲ頒布シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中無資格選舉運動ノ點ハ衆議院議員選舉法第二百二十九條第九十六條第一項同法施行令第五十七條ノ三第一號ニ郵便ニ依ラスシテ選舉運動ノ爲使用スル文書ヲ頒布シタル點ハ衆議院議員選舉法第三十二條第二項第一項第百條衆議院議員選舉運動等取締規則第五條第一號ニ各該當スルトコロ右ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ重キ前者ノ罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其

衆議院議員選舉法施行令第五十七條ノ三第一號及衆議院議員選舉運動等取締規則  
第五條第一號ノ適用



ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金五十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ從ヒ金一圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

原判決ヲ破毀ス

被告人ハ無罪

○理 由

被告人上告趣意書第一點原審ニ於テ確定セラレタル事實ハ要スルニ被告人カ其ノ他ノ者トノ連名ノ推薦狀八百枚許リヲ作成シ之ヲ有權者ニ發送シタル殘部二百枚許リアリタルヲ右推薦狀ノ署名者(推薦者)數名ヘ推薦狀トシテ使用セシメントシテ使ノ者ヲ以テ頒布シタリト云フニ在リテ畢竟右頒布シタル推薦狀ハ之ヲ選舉運動ニ使用スル文書ナリト解セルモノナルカ實ハ未タ推薦狀タルニ至ラサルモノニシテ將來或ハ推薦狀タルニ至ルヘキ材料タルノモノナリ從テ又未タ選舉運動ニ使用スル文書ナリト稱シ得サルモノナリト信ス印刷セル推薦文言アル紙片ハ之ヲ受取リタル署名者カ眞ニ推薦狀トシテ使用スルコトヲ決意シ其ノ頒布ニ著手シタルトキハ始メテ推薦狀ト稱スヘク又選舉運動ニ使用スル文書ナリト云フヲ得ヘキモ然ラサル以前ニ在リテハ之只將來推薦狀タリ得ル素材ニシテ其ノ頒布ハ例ヘハ印刷營業者カ注文ニ依リ作成シタル推薦文句アル紙片ヲ連名推薦者ノ各自ニ配達スルト全ク同

一ニシテ單ニ推薦狀頒布ノ前提ノ行爲タルノミニシテ未タ推薦狀又ハ選舉運動ニ使用スル文書ノ頒布ニアラサルナリ故ニ原審判決ハ法令ニ違背シ事實ヲ認定セル不法アリト云ヒ」同第二點原判決ニ於テハ被告人ノ推薦狀用紙ヲ使ノ者ヲ以テ各推薦署名者ニ頒布シタル事實ヲ目シテ無資格ニシテ選舉運動ヲ爲シタルモノトセリ然レトモ凡ソ第三者カ推薦狀ニ依リ選舉運動ヲ爲スコトハ法ノ禁セサル所又此ノ推薦運動ヲ數人共同シテ爲スコトモ毫モ不法ニアラサルナリ果シテ然ラハ共同ノ推薦ノ旨ノ書狀ヲ以テ第三者ノ運動ヲ爲スニ至ル前提ノ當然ノ行爲ハ又法ノ禁セサル所ナリト云ハサルヘカラス即被告人ノ爲シタル使者ニ依ル推薦狀用紙ノ頒布ノ如キハ共同ノ推薦者トシテノ文書ノ頒布ト云フ適法ナル行爲ニ至ル當然ナル前提ノ行爲ニシテ之ヲ缺ケハ恐ラクハ多クノ場合ニ適法ナル共同推薦者ノ文書ノ頒布ト云フ行爲ニ至ルコト能ハサラン且此ノ前提ノ準備行爲ノ目的ハ直チニ候補者ニ當選ヲ得シムルニアルニアラスシテ候補者ニ當選ヲ得シムル目的ノ行爲ヲ目的トス故ニ此ノ如キ被告人ノ行爲ヲ以テ資格ナキ選舉運動ナリトスルハ又法令ニ違反シテ事實ヲ認定セル不法アリト信スト云ヒ」辯護人上村 閔五郎上告趣意書第一點原審ハ被告人ハ昭和十一年二月二十日施行ノ衆議院議員選舉ニ際シ……中略 ……以テ一面不法ノ選舉運動ヲ爲シ他面郵便ニ依ラスシテ選舉運動ノ爲使用スル文書ヲ頒布シタルモノナリト判示レ被告人ノ所爲中一面不法ノ選舉運動ト爲シ衆議院議員選舉法第九十六條第一項ヲ適用シ無資格運動者トシテ處罰シタリ然共被告人ノ選舉運動ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ニシテ敢テ選舉委員



(又ハ事務長)タル資格ヲ必要トスル選舉運動ニアラサル故之ヲ無資格選舉運動ト認定シタルハ法令ノ適用乃至解釋ヲ誤リタル違法アリト信ス即被告人ノ所爲ハ衆議院議員選舉法第九十六條但書ニ依ル選舉運動ニシテ同條第一項ノ選舉運動ニアラサルコトハ判示事實中ノ推薦狀云々ニ依テ明白ナル事實ナリ從而演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動カ縱シヤ命令ノ定ムル所ニ依ラサルトスルモ這ハ無資格運動者(事務長又ハ選舉委員ニアラサル者ノ違法者)ニ變質スルモノニアラス其ノ所爲ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ニシテ衆議院議員選舉法第九十六條但書ニテ許サレタル有資格運動者ナリト云ヒ」同第二點原審ハ被告人ハ他面郵便ニ依ラス選舉運動ノ爲使用スル文書ヲ頒布シタリト判示シタリ然共被告人ノ所爲ハ未タ頒布ノ程度ニ至ラサルモノナリ被告人ハ訴外櫻井與三郎 安藤政義 諸橋秀松ト共同シテ候補者ノ爲推薦狀ニ係ル選舉運動ヲ爲スヘク所謂推薦加名人等ノ櫻井與三郎 諸橋秀松 安藤政義三人宅ニ其ノ推薦狀ヲ配布シタルニ過キス從而共同推薦者同志ノ者(特ニ三名ニ過キス)ニ其ノ推薦狀ヲ配布シテモ之ヲ郵便ニ依ラス配布シタリト云フヲ得ス恰モ印刷業者カ其ノ印刷物ヲ注文者ニ配布スル程度ニ過キス本件ハ被告人カ推薦者以外ノ有權者ニ推薦狀ヲ郵便ニ依ラス配布シタルモノニアラス被告人ハ推薦狀ヲ推薦加名者カ郵便ニテ發送頒布スル便宜上同志ニ右推薦狀ヲ配布シタルニ過キスト云ヒ」同第三點原審ハ法律ニ照スニ被告人ノ所爲中……中略……右ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テト判示シタリ然共被告人ノ所爲ハ數個ノ罪名ニ觸ルルモノニアラス衆議院議員選舉法第九

十六條但書ノ選舉運動ニシテ唯問題ハ同法但書中ノ命令ノ定ムル所ニ依據シタルヤ否ヤカ本件ノ爭點ニシテ無資格運動者ノ推薦狀ニ依ル選舉運動ト云フコトハ法律上有リ得ヘカラサルモノナリ從而本件ニ刑法第五十四條ヲ適用シタル原判決ハ全部破毀ヲ免レスト信スト云ヒ」辯護人石川惇三追加上告趣意書第一點昭和十一年十一月十六日提出理由書記載第一點「衆議院議員選舉法第九十六條第一項ニ該當セス」トノ點ニ付更ニ追加ス本件上告人ハ法定ノ運動員ニ非ス而テ法定ノ運動員ニ非サル者ハ演說又ハ文章ノ推薦狀ニ依ル運動ハ法ノ許ス處ナリ而テ上告人ノ爲シタル行爲ハ推薦狀ノ一部ヲ共同推薦者タル推薦狀記名者ニ對シ廻狀ヲ附シテ恩田佐平次ヲシテ送り届ケシメタト云フ行爲テアルコトハ疑ナシ而テ此ノ推薦狀作成ハ記名者ノ承認ニ依リ上告人カ作成シタルモノナルモ其ノ發送ニ付テハ集合シ協議シタルコトナク亦代表者ヲ定メタルコトナシ從テ推薦狀文案ヲ印刷シ且可然發送爲シタル上告人ハ他ノ記名者ニモ報告スルノ要アルコトハ勿論ノコト他ノ記名者モ上告人ト同様ニ何通カ適宜ニ發送權アルヘシト信スルコトハ普通人ノ常識トシテ當然ノコトテアル若シ夫レ假ニ二人亦ハ三人カ集合シテ各自發送シタルトキハ如何トナス集合ヲ得サル爲ニ廻付シタルコトハ止ムナキ處置ニシテ之ヲ以テ選舉運動トハ云ヒ難シ推薦狀ヲ作成シ郵便ニテ發送スル行爲ハ勿論當選ヲ得ル目的ヲ以テ爲ス運動行爲ナルモ之ハ法ノ認ムル範圍ニシテ推薦狀ヲ作成シテ發送スル迄ノ順序ヲ爲スコトハ推薦者間ニ於テ當然ニ爲サルヘキ行爲ナリト云ハサルヲ得ス原審ハ之ヲ以テ戶別訪問ト見ルカ如シト雖モ投票ノ依



頼亦ハ其ノ目的ナキ戸別訪問ハ訪問ノ形ハ存スルモ所謂戸別訪問トハ云ヒ難キコト疑フ餘地ナシ殊更ニ言語ヲ用ヒス廻狀ヲ以テスル點ヲ見ルモ明カナリ而テ本件上告人ノ行爲ハ推薦者間ニ於テ文案作成印刷竝發送スル迄ノ行爲ヲ爲サレタルニ過キスシテ其ノ行爲ヨリハ一步モ出ツルモノニ非ス然ルニ原審裁判所ハ「……二百枚程ノ殘部アリタルヨリ……各配付セシメ以テ一面不法ノ選舉運動ヲ爲シ云々」ト判示シ殊更ニ二百枚ノ殘部云々ト云ヒテ（之ハ殘部ニ非ス推薦狀ノ一部ナリ）前記ノ推薦狀ヲ發送スル資格アル記者ニ推薦狀ヲ廻付シタル行爲ヲ以テ推薦狀ニ依ル選舉運動以外ニ何カ不法運動ヲ爲シタルカ如ク判示ヲ爲シ同法第九十六條第一項ニヨリ處罰セラレタルハ何等處罰ノ目標タル獨立行爲ナキニ拘ス之ヲ有ル如ク事實ヲ認定シタルモノニシテ根本的ニ事實ヲ誤認シ法令ノ適用ヲ誤リタル不法アルモノニシテ破毀セラルヘキモノト信スト云ヒ」同第二點同前提理由書記載第二點「郵便ニ依ラス選舉運動ヲ爲シタル」トスル點ノ補充原審裁判所ハ前述ノ如ク判示シテ更ニ「他面郵便ニ依ラスシテ選舉運動ノ爲使用スル文書ヲ頒布シタルモノナリ」ト判示セラレタリ然レトモ本件推薦狀ハ推薦名義人タル上告人ヨリ同名義人櫻井與三郎外四名ニ交付セラレタルニ過キス凡ソ文書ノ頒布ト云フハ作成名義人ヨリ第三者ニ交付セラレタルトキテアル本件ノ如ク作成名義人ノ間ニ分配ラレタルトキハ所謂頒布トハ云ヒ難シ例ヘハ吾人カ右ノ袂ヨリ左ノ袂ニ場所ヲ代ヘタル如ク或ハ右モ左モ兩袂ニ置キタルカ如ク亦ハ會社ノ代表取締役カ數人アル場合ニ之ニ分配シタルカ如ク客觀的ニ法律關係ノ生

スル餘地ナシト謂フヘキテアル衆議院議員選舉法ニ於テ所謂頒布ト云フハ推薦名義者ヨリ第三者タル有權者ニ推薦狀ヲ交付スルコトテアル而テ斯ル場合ニハ郵便ヲ以テ爲スヘシト云フニアリ果シテ然ラハ本件ノ如ク推薦名義者ヨリ同推薦名義者ニ分配スル場合ハ同法ノ所謂頒布トハ云ヒ難キコトハ疑ナカルヘシ然ルニ原審裁判所ハ此ノ點ニ付キ何等ノ判斷ヲモ爲サス漫然此ノ行爲ヲ以テ頒布ナリト斷定シタルハ犯罪事實ノ根本ニ關スル判斷ヲ脱漏シ犯罪事實ヲ誤認シ刑罰ヲ科セラレタルモノニシテ原判決ハ事實ニ關スル重大ナル點ノ判斷ヲ遺脱シ事實ヲ誤認シタルノ不法アルモノニシテ破毀セラルヘキモノト信スト云ヒ」同第三點原審裁判所ハ判示シテ曰ク「……新組村以外ノ有權者ニ發送セシメンコトヲ企圖シ……方ヲ順次戸別ニ訪問セシメ該本人亦ハ其ノ家人ニ對シ廻狀ニ依リ前記ノ依頼ヲ爲サシメ猶同時ニ右推薦狀ノ内櫻井與三郎方ニ三枚……各配付セシメ以テ一面不法ノ選舉運動ヲ爲シ他面郵便ニ依ラスシテ云々」ト判示シ第一ニ「新組村以外ノ有權者ニ發送セシメンコトヲ企圖シ」ト云ヒ更ニ「順次戸別ニ訪問セシメ」ト云ヒ最後ニ「一面不法ノ選舉運動ヲ爲シ他面郵便ニ依ラスシテ云々」ト云ヒテ之ニ法律ヲ適用シテ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レルトセラレタリ然レトモ本件上告人カ分配シタル櫻井與三郎外四名ハ何レモ推薦名義者ニシテ推薦狀ヲ發送スルノ權利ヲ有スルモノト言ハサルヘカラス亦之等分配ノ爲使者ヲ用ヒタルコトハ戸別訪問ト云ヒ難キコトハ既ニ論述シタル處ニシテ分配ノ爲ノ已ムナキ行爲ナリ果シテ然ラハ前記判示ノ「一面不法ノ選舉運動ヲ爲シ云々」ト



ハ何ヲ指スカ此ノ重大ナル點ニ付原審裁判所ハ全然理由ノ説明ヲ缺ク即最モ重要ナル點ニ付判斷ヲ遺脱シ理由ヲ附セサルモノニシテ理由不備亦ハ理由ヲ缺除スルノ違法アリ破毀セラルヘキモノト信スト云フニアリ

## 【要旨】

仍テ案スルニ共同推薦者中ノ一人カ他ノ共同者ヲシテ其ノ推薦狀ノ若干部ヲ選舉人ニ發送セシムル爲情ヲ知ラサル使者ヲ介シテ共同者中ノ數人ニ對シ送り届ケシメタルニ過キサル場合ニハ其ノ行爲ハ合法的推薦運動ノ範圍ニ屬スルモノニシテ衆議院議員選舉法施行令第五十七條ノ三第一號ハ斯ル場合ニ適用ナキモノト解セサルヘカラス原判決ハ被告人カ判示候補者ヲシテ當選ヲ得セシムル目的ヲ以テ有權者タル判示推薦名義者ニ其ノ推薦狀ヲ各別ニ使送シタル廉ヲ以テ右施行令第五十七條ノ三第一號ニ該當スルモノト爲シ被告人ノ行爲ヲ衆議院議員選舉法第九十六條第一項違反ト解シタルコト明白ナリト雖凡ソ文書ニ依ル推薦ハ候補者ヲシテ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ有權者カ爲ス選舉運動トシテ同法第九十六條第一項但書ノ是認スルトコロナレハ共同推薦者間ニ於テ推薦狀發送ノ爲分配ヲ行フ場合ニ於テ其ノ分配ヲ受ケタル者カ有權者タルノ故ヲ以テ共同推薦行爲ノ範圍ヲ脱シタルモノト爲スヘキニ非スト解スヘク而シテ原判示事實ニ依レハ上敍ノ意味ニ於テ被告人ノ行爲ハ共同推薦者間ニ於ケル單純ナル推薦運動ノ範圍ニ屬スルコト明白ナルカ故ニ之ヲ以テ選舉人ニ對スル個別訪問等ニ關スル右施行令ノ規定ニ該當スルモノト爲シ同法第九十六條第一項違反トシテ之ヲ處斷スヘキモノニ非ス又判示

取締規則第五條第一號ノ規定モ亦選舉人ニ對スル文書ノ配布ニ關スルモノニシテ判示ノ如ク共同推薦者間ニ於テ發送準備ノ爲分配スル場合ニハ其ノ適用ナキモノト解スルヲ相當ナリトシ而モ判示行爲ハ其ノ他ノ罰條ニ該當スルモノニ非サルカ故ニ被告人ニ對シテハ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノナリト然ルニ原判決カ有罪ノ言渡ヲ爲シタルハ違法ニシテ論旨理由アリ從テ爾餘ノ量刑ニ關スル上告論旨ハ判斷ノ要ナキニ至リタルヲ以テ之カ説明ヲ省略シ刑事訴訟法第四百四十七條第四百三十九條第四百四十八條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事平井彦三郎關與



○衆議院議員選舉法違反縣會議員選舉罰則違反被告事件

(昭和十一年(九)第二五一五號  
同年十二月二十三日第五刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 柿本忠太郎 辯護人

外二名

川崎齊一郎  
山口貞昌  
赤井幸夫

【第一審】 高知地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

受託供與者ニ返還セラレタル金員ト其ノ追徴——利害關係利用誘導罪ニ於ケル選舉人ノ復數ト其ノ擬律

○判決要旨

一 受託者甲力受託ノ趣旨ニ從ヒ非法定運動者タル乙ニ對シ投票取  
纏ノ選舉運動ヲ爲スコトノ報酬竝投票買收資金トシテ其ノ受託

受託供與者ニ返還セラレタル金員ト其ノ追徴 利害關係利用誘導罪ニ於ケル  
選舉人ノ復數ト其ノ擬律



金員ヲ供與シタル後該金員中一部ヲ返還セラレ而モ自己ノ金員ト混和シテ之ヲ沒收スルコト能ハサルニ至リタルトキハ該一部ニ付テハ其ノ返還ヲ受ケタル甲ヨリ其ノ價額ヲ追徴スヘキモノトス【要旨第一】

二縣會議員ノ選舉ニ立候補ノ意思ヲ有スル者力其ノ選舉區内ノ特定部落ノ代表者ニシテ選舉人タル者三名ニ對シ自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ其ノ者ノ關係アル該部落ノ特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導シタルトキハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第百十二條第一項第二號所定ノ單純一罪ヲ成スモノニシテ相手方タル選舉人ノ數ニ應シタル一行爲數罪ト爲ルモノニ非ス【要旨第二】

【參照】衆議院議員選舉法第百十四條 前三條ノ場合ニ於テ收受シ又ハ交付ヲ受ケタル利益ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

府縣制第四十條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス衆議院議員選舉法第百十二條第一項 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以

下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

(中略)

二 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ其ノ者又ハ其ノ者ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權寄附其ノ他特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲シタルトキ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人忠太郎ヲ禁錮五月被告人鶴吉茂猛ヲ各禁錮三月ニ處ス但被告人忠太郎ニ對シ縣會議員選舉罰則違反被告事件及衆議院議員選舉法違反被告事件ノ未決勾留日數中各十日被告人鶴吉ニ對シ未決勾留日數中十日ヲ各本刑ニ算入ス縣會議員選舉罰則違反被告事件ノ押第九號ノ金百圓(十圓兌換券十枚)ハ被告人鶴吉ヨリ衆議院議員選舉法違反ノ被告事件ノ押第三號ノ金百圓(十圓兌換券十枚)ハ原審相被告人岡豐常雄ヨリ各之ヲ沒收シ被告人忠太郎ヨリ金五十圓被告人茂猛ヨリ金十圓ヲ追徴ス(訴訟費用負擔ノ點省略)ル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 被告人柿本忠太郎ハ政友會高知縣支部ノ下級團體長陵同志會ニ隸屬スル嶺北同友會ノ會長ニシテ同會支持ノ下ニ昭和十年十月五日施行ノ高知縣會議員選舉ニ際シ同年九月二十一日同縣長岡郡選舉區ヨリ立候補シ原審相被告人大久保勝右衛門ハ其ノ選舉事務長被告人山中哲臣同北窪鶴吉ハ原審相被告人飯田利男ト共ニ其ノ選舉委員原審相被告人豐永英則ハ非法定選舉運動者ナルトコロ

(一) 被告人柿本忠太郎ハ昭和十年六月十一日肩書住居ニ於テ高知縣長岡郡吉野村山本繁喜等ノ紹介ニヨリ同村七

受託供與者ニ返還セラレタル金員ト其ノ追徴 利害關係利用誘導罪ニ於ケル 選舉人ノ數ト其ノ擬律



戸部落代表者ニシテ選舉人タル高橋倉一郎外二名ニ會見シ同人等ヨリ縣道本山、三島線(被告人忠太郎ノ選舉區タル長岡郡本山町ヨリ愛媛縣三島町ニ到ルモノ)ハ目下吉野澤ケ内迄竣工シ居レカ同路線カ同所ヨリ北上シテ愛媛縣ニ至ル間右居村七戸部落ヲ通スル様盡力シ吳レ度シ部落民一同被告人ヲ支持スヘキ同意アル旨申出ツルヤ同被告人ハ當時既ニ右選舉ニ立候補ノ意嚮ヲ有シ居リタルヨリ之ヲ奇貨トシ自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ右路線ノ開設ニ盡力スヘキニ依リ來ルヘキ縣會議員選舉ニ際シ七戸部落選舉人一同カ自己ニ投票アリ度旨申向ケ以テ特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導シ且立候補届出前(無資格)ノ選舉運動ヲ爲シ

- (一) 被告人柿本忠太郎ハ自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ被告人山中哲臣及原審相被告人大久保勝右衛門ハ右忠太郎ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ三名共謀ノ上忠太郎ノ選舉運動者ニ金員ヲ供與セムコトヲ企テ右勝右衛門ニ於テ
- (イ) 昭和十年十月一日頃同郡西豐永村川戸上村初馬方ニ於テ岡豊常雄ヲ介シ原審相被告人豊永英則ニ對シ右候補者ノ爲選舉運動並英則ヨリ更ニ他ノ選舉運動者ニ供與スヘキ運動報酬資金ヲ含メ金五十圓ヲ
- (ロ) 同年同月三日及四日ノ二回ニ互リ同村大田口大利益旅館事飯田晴敏方外一個所ニ於テ原審相被告人飯田利男ニ對シ右(イ)ト同趣旨ノ下ニ合計金百圓ヲ
- (ハ) 同月二日及四日ノ二回ニ互リ同郡東豐永村落合小林省次方外一個所ニ於テ被告人北窪鶴吉ニ對シ右(イ)ト同趣旨ノ下ニ合計金百圓ヲ

各供與シ

- (三) 被告人北窪鶴吉ハ前示第一ノ(二)ノ(ハ)記載ノ趣旨ヲ諒承ノ上同記載ノ日時場所ニ於テ被告人大久保勝右衛門ノ手ヲ經テ合計金百圓ノ供與ヲ受ケ

第二 被告人柿本忠太郎 岡豊常雄及本山茂猛ハ昭和十一年二月二十日施行ノ衆議院議員選舉ニ際シ高知縣第一選舉

區ヨリ立候補シタル田村實ノ非法定選舉運動者ナルトコロ(是ヨリ先被告人柿本忠太郎ハ同被告人ニ對スル前記縣會議員選舉罰則違反被告事件ニ付高知地方裁判所ノ公判ニ付セラレ居リシヲ以テ右衆議院議員選舉ニ際シテハ其ノ選舉運動ニ携ハラサル旨ノ決意ヲ爲シ居リタルカ更ニ以下犯行ヲ敢行シタルモノナリ)

- (一) 被告人柿本忠太郎ハ同月十七日前記被告人住居ニ於テ島崎行重ノ手ヲ經テ右候補者ノ選舉委員北村正陽ヨリ同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ他ノ選舉運動者ニ供與スヘキ選舉運動ノ報酬並投票買收資金トシテ金百五十圓ノ寄託ヲ受クルヤ右同一目的ノ下ニ即日同所ニ於テ被告人岡豊常雄ニ對シ投票取纏ノ選舉運動ヲ爲スコトノ報酬並投票買收資金ヲ含メ右金百五十圓ヲ供與シ同時ニ選舉運動ヲ爲シ

(二) 被告人岡豊常雄ハ

- (イ) 被告人柿本忠太郎カ前記第二ノ(一)記載ノ如キ趣旨ノ下ニ金員ヲ供與スルモノナルコトノ情ヲ知りナカラ同記載ノ日時場所ニ於テ同人ヨリ金百五十圓ノ供與ヲ受ケ

- (ロ) 前記候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同月十八日被告人肩書住居ニ於テ被告人本山茂猛ニ對シ投票取纏ノ選舉運動ヲ爲スコトノ報酬並投票買收資金ヲ含メ金七十圓ヲ供與シ同時ニ選舉運動ヲ爲シ

(三) 被告人本山茂猛ハ

- (イ) 被告人岡豊常雄カ前記第二ノ(二)ノ(ロ)記載ノ如キ趣旨ノ下ニ金員ヲ供與スルモノナルコトノ情ヲ知リナカラ同記載ノ日時場所ニ於テ同人ヨリ金七十圓ノ供與ヲ受ケ

- (ロ) 同月二十二日高知縣長岡郡大杉村三宮旅館ニ於テ右候補者ノ選舉委員笹岡神爲ヨリ同候補者ノ爲選舉運動ヲ爲シタルコトノ報酬トシテ金十圓ノ供與ヲ受ケ

タルモノナリ

受託供與者ニ返還セラレタル金員ト其ノ追徴 利害關係利用誘導罪ニ於ケル 選舉人ノ複數ト其ノ擬律



而シテ被告人柿本忠太郎ノ判示第一ノ(一)(二)ノ所爲中利害關係利用誘導ト金錢供與被告人北窪鶴吉ノ金錢收受被告人本山茂猛ノ金錢收受ノ所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人柿本忠太郎ノ判示所爲中第一ノ(一)(二)ノ各金錢供與ノ點ハ刑法第六十條ニ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第十二條第一項第一號ニ該當シ第一ノ(一)ノ利害關係利用誘導ノ點ハ府縣制第四十條右選舉法第一百二十二條第二號(但犯罪當時ニ於テハ府縣制第四十條昭和九年法律第四十九號ニヨル改正前ノ衆議院議員選舉法第一百二十二條第二號ニ該當シ新舊兩法ノ刑ニ變更アルモ右所爲ハ後記ノ如ク右改正法施行後ノ犯罪タル前記金錢供與ヲ爲シタル所爲ト連續一罪ノ關係アルヲ以テ特ニ刑法第六條ニヨル新舊兩法ノ比照ヲ爲サス單ニ右改正法ノミヲ適用スヘキモノトス)ニ届出前ノ無資格選舉運動ノ點ハ府縣制第三十九條第四十條衆議院議員選舉法第九十五條ノ二第二百二十九條(但犯罪當時ニ於テハ府縣制第四十條昭和十年法律第四十四號ニヨル改正前ノ府縣制第三十九條前記改正前ノ選舉法第九十六條第二百二十九條ニ該當スルモ右所爲ハ後記ノ如ク前記利害關係利用誘導ノ所爲ト一所爲數法ノ關係ニ在リ且右利害關係利用誘導ノ所爲ハ前記金錢ノ供與ヲ爲シタル所爲ト連續犯ノ關係ニ在リテ結局一罪トシテ處斷スヘキモノナルヲ以テ敍上ノ如ク改正法ノミヲ適用スヘキモノトス)ニ該當スルトコロ利害關係利用誘導ノ所爲ト届出前ノ無資格運動ノ所爲トハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸レ利害關係利用誘導ノ所爲ト金錢供與ヲ爲シタル所爲トハ連續犯ノ關係ニ在ルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條第五十五條ヲ同時ニ適用シ結局最重シト認ムル金錢供與罪ノ刑ニ從ヒ所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ同被告人ノ判示第二ノ(一)ノ所爲中金錢供與ヲ爲シタル點ハ衆議院議員選舉法第一百二十二條第一項第一號ニ無資格運動ノ點ハ右選舉法第九十六條第一項第二百二十九條ニ該當スルトコロ右ハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニヨリ重キ前者ノ刑ニ從ヒ所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ以上ハ刑法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條本文第十條及第四十七條但書ノ制限ニヨリ犯情重

シト認ムル前者ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ同被告人ヲ禁錮五月ニ處シ被告人北窪鶴吉ノ判示所爲ハ府縣制第四十條右選舉法第一百二十二條第一項第四號刑法第五十五條ニ該當スルヲ以テ所定刑中夫禁々鋼刑ヲ選擇シ其ノ刑罰範圍内ニ於テ同被告人ヲ禁錮三月ニ處シ被告人本山茂猛ノ判示所爲ハ右選舉法第一百二十二條第一項第四號刑法第五十五條ニ該當スルヲ以テ所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ其ノ刑罰範圍内ニ於テ同被告人ヲ禁錮三月ニ處スヘク刑法第二十一條ニヨリ被告人柿本忠太郎ニ對シ判示兩被告事件ニ於ケル未決勾留日數中各十日(合計二十日)ヲ被告人北窪鶴吉ニ對シ未決勾留日數中十日宛ヲ同被告人等ノ右本刑ニ算入シ縣會議員選舉罰則違反被告事件ノ押收物件證第九號ノ金百圓(十圓兌換券十枚)ハ被告人北窪鶴吉カ判示犯罪行爲ニヨリ收受シタル利益ナルヲ以テ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十四條前段ニヨリ之ヲ沒收シ衆議院議員選舉法違反被告事件ノ押收物件證第三號十圓兌換券十枚(金百圓)ハ被告人岡豊常雄カ判示犯罪行爲ニヨリ收受シ又ハ其ノ犯行後被告人本山茂猛ヨリ返還ヲ受ケタル金員ナルヲ以テ右選舉法第一百十四條前段ニヨリ之ヲ沒收シ被告人柿本忠太郎カ判示第二ノ(一)ノ犯罪行爲ニヨリ被告人岡豊常雄ニ金錢ヲ供與シタル後更ニ同人ヨリ返還ヲ受ケタル金五十圓被告人本山茂猛カ笹岡諷爲ヨリ收受シタル金十圓ハ何レモ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ右選舉法第一百十四條後段ニヨリ其ノ價額ヲ追徵スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人忠太郎辯護人川崎齊一郎 山口貞昌上告趣意書第一點ハ原判決ハ被告柿本忠太郎ニ對スル衆議

受託供與者ニ返還セラレタル金員ト其ノ追徵 利害關係利用誘導罪ニ於ケル 選舉人ノ複數ト其ノ擬律



院議員選舉法違反罪ニ關シ同人カ議員候補者田村實ノ選舉委員北村正陽ヨリ同候補者ヲ當選セシムル目的ヲ以テ他ノ選舉運動者ニ供與スヘキ運動報酬並投票買収資金百五十圓ノ寄託ヲ受ケ即日右同一目的及趣旨ノ下ニ之ヲ相被告人岡豐常雄ニ供與シタル犯罪事實ヲ認定シ仍テ右ノ内金五十圓ヲ被告忠太郎ヨリ追徵スヘキコトヲ言渡シタリ然レトモ衆議院議員選舉法第一百四條ハ違反行爲ニ因リ現實利益ヲ得タル者ヨリ其ノ不正利益ヲ沒收又ハ追徵スヘキコトヲ規定シタルモノナレハ原院判示ノ如ク寄託ノ趣旨ニ從ヒ受託金全部ヲ他人ニ供與シ自ラ一錢モ私セサリシ被告忠太郎ヨリ該金ヲ追徵スルノ失當ナルヤ多言ヲ要セス尤モ原判決ニ依レハ岡豐常雄ハ事犯以後ニ於テ内金五十圓ヲ柿本忠太郎ニ返還シタルモノノ如シト雖之ヲ以テ常雄ノ受ケタル報酬及買収資金カ金百五十圓ナルコトノ事實ヲ抹殺シ難ク且亦被告忠太郎ハ最初ノ供與者北村正陽ニ代リ返還ヲ受領スル權限ナキカ故ニ右一部返金云々ハ岡豐對柿本間ニ於テ別途ノ法律關係ニ依リ之ヲ解決スヘキモノニシテ本違反罪ノ成否及沒收追徵ニハ毫末モ影響ナキモノト謂ハサルヘカラス而シテ敍上所論ハ御院昭和五年(レ)第一三八四號同年十月二十一日宣告及昭和六年(レ)第一八八號同年四月十四日宣告各判例ノ是認セフル所ナリト思料ス猶且原判決カ被告ニ金五十圓ノ返還アリタル事實ヲ認メタルニ拘ラス何等其ノ證據說示ヲ爲ササルハ違法ニシテ亦記錄ニ依ルモ岡豐ヨリ被告ノ妻ニ金五十圓ヲ貸與シタル證據アルニ止リ被告ニ該金ヲ返還シタル事實ノ證據ハ絕對ニ存スルコトナシト云フニ在レトモ

## 【要旨第一】

被告人ハ原判決判示第二ノ(一)ノ如ク議員候補者田村實ノ選舉委員北村正陽ヨリ同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ他ノ選舉運動者ニ供與スヘキ選舉運動ノ報酬並投票買収資金トシテ金百五十圓ノ寄託ヲ受クルヤ右ト同一目的ノ下ニ即日原審相被告人岡豐常雄ニ對シ投票取纏ノ選舉運動ヲ爲スコトノ報酬並投票買収資金トシテ右金百五十圓ヲ供與シ同時ニ無資格選舉運動ヲ爲シ其ノ後岡豐常雄ヨリ該金員中五十圓ヲ返還セラレ而モ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ衆議院議員選舉法第一百四條ニ依リ其ノ價額ヲ追徵スル旨言渡シタルモノニシテ其ノ後段ノ判示事實ニ記錄ヲ參照スルトキハ右ノ如ク返還セラレタル金五十圓ハ被告人ノ金ト混和セラレシ爲之ヲ沒收スルコト能ハサルニ至リタルモノトス惟フニ同法第一百四條ニハ前三條ノ場合ニ於テ收受シ又ハ交付ヲ受ケタル利益ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵スト規定シアリテ其ノ收受又ハ交付セラレタル利益ハ之ヲ沒收又ハ追徵スヘキモノナルカ故ニ其ノ收受又ハ交付セラレタル利益カ供與者ニ返還セラレタルトキハ其ノ返還ヲ受ケタル者ヨリ沒收又ハ追徵スヘキ趣旨ナリト解スヘク從テ前說示ノ如ク供與ヲ受ケタル者ヨリ返還セラレ而モ自己ノ金員ト混和シテ之ヲ沒收スルコト能ハサルニ至リタル以上其ノ返還ヲ受ケタル者ヨリ其ノ價額ヲ追徵スヘキモノトス論旨引用ノ判例ハ改正前ノ法條ノ下ニ於テ爲サレタルモノニシテ而モ本件ニ適切ナラサルモノトス而シテ追徵ニ關スル判決ノ理由ハ原判示ノ程度ヲ以テ足り固ヨリ罪トナルヘキ事實ニ非サルヲ以テ其ノ證據說明ヲ爲ササレハトテ違法ナリト

受託供與者ニ返還セラレタル金員ト其ノ追徵 利害關係利用誘導罪ニ於ケル 選舉人ノ複數ト其ノ擬律



謂フヲ得ヌ又記録ニ徵スルモ該五十圓ハ岡豐常雄ヨリ被告人ノ妻ニ貸與シタルモノト認定セサルヘカラサルモノニ非ス論旨理由ナシ

同第三點ハ原判決ニ於テ「被告忠太郎ハ昭和十年六月十一日長岡郡吉野村七戸部落代表者ニシテ選舉人タル高橋倉一郎外二名ト會見シ云々自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ縣道本山三島線ノ開設ニ盡力スヘキニヨリ來ルヘキ縣會議員選舉ニ際シ七戸部落選舉人一同投票アリ度旨申向ケ」以テ特種ノ直接利害關係ヲ利用誘導シタル犯罪アリト認メ之ニ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一項第二號ヲ適用處斷シタリ然レ共右犯罪ノ成立ニハ被告カ其ノ相手方ニ選舉人タル資格アル事實ヲ認識シ加モ敢テ誘導ヲ爲シタルコトヲ必要トス仍テ原院援用ニ係ル各證據ニ付果シテ被告カ右事實ヲ認識シタル證明資料アリヤ否ヲ考察スルニ(一)被告忠太郎第二回豫審訊問調書ニハ「七戸部落代表者高橋倉一郎 山下惣盛 堀川福太郎三名ト會見シタリ」ト記載アルニ止リ他ニ右高橋等カ縣會議員ノ選舉人タルコト及被告カ其ノ資格ヲ知得對談シタルコトヲ證スヘキ資料ナシ(二)山中幹規ノ豫審第一回訊問調書ニハ「七戸部落ノ有志又ハ部落代表者高橋倉一郎外二名」トアリ又山本繁喜ノ豫審訊問調書ニハ「七戸部落村會議員高橋倉一郎云々部落代表者高橋倉一郎 山下惣盛及堀川福太郎三名ヲ紹介ス」トアルニ過キスシテ右者等カ選舉人タルコト及被告忠太郎カ之ヲ知リタルコトヲ認ムヘキ證左ナシ(三)高橋倉一郎及山下惣盛ノ各豫審調書ニハ「同人等カ昭和十年十月五日施行ノ高知縣會議員選舉ニ際シ同

縣長岡郡選舉區内吉野村ノ選舉有權者ナル旨」ノ記載アリト雖這ハ同人カ同年十一月十五日豫審判事ノ訊問ニ方リ右選舉當時ニ於ケル資格ヲ申立テタルニ過キス被告忠太郎ト會見ノ時其ノ資格ヲ具有シ且被告ニ對シテ選舉人タル事實ヲ認識セシメタルコトヲ陳述セルモノニ非サルヲ以テ之ニ因リ犯時ノ事實如何ヲ證明スルヲ得サルヘシ(四)敍上ノ如クニシテ原判決ハ虛無ノ證據ニ因リ斷罪シタル違法アリト謂ハサルヘカラス(五)原判決ハ選舉人高橋 山下及堀川ノ三名ニ對シ同時ニ特殊ノ直接利害關係ヲ利用誘導シタルモノト認メタルカ如シ然ラハ一所爲數罪ヲ構成スル場合ナルニ拘ハラヌ其ノ擬律ヲ爲ササリシハ失當ナリ(六)若シ或ハ原判決ニ於テ右高橋等三名ニ限ラス七戸部落民中不特定ナル選舉人或者ヲ誘導シタル罪アリト爲ス趣旨ナリトセハ此ノ點ニ付其ノ旨ノ明確ナル判示ヲ缺如シ且被告ト會見對談シタル高橋等カ被告ノ所言ヲ該部落ノ選舉人ニ報導告知シタル事實ヲ確定セスシテ輒ク右罪ノ既遂犯成立スルカ如ク解シタルハ理由不備タルヲ免レスト云フニ在レトモ

【要旨第二】  
 原判決判示第一冒頭ノ事實並其ノ(一)ノ事實殊ニ所論被告人カ相手方ニ選舉人タル資格アル事實ヲ認識シテ原判示ノ誘導ヲ爲シタル事實ハ原判決引用ノ證據ニ依リ之ヲ推斷スルヲ得ヘク而シテ原判示認定ノ如ク被告人ハ七戸部落代表者ニシテ選舉人タル高橋倉一郎外二名ト會見シ同人等ヨリ縣道本山三島線ハ目下吉野澤ケ内迄竣工シ居レルカ同路線カ同所ヨリ北上シテ愛媛縣ニ到ル間右七戸部落ヲ通スル様盡力シ吳レ度シ部落民一同被告人ヲ支持スヘキ用意アル旨申出ツルヤ被告人ハ當時既ニ判示縣

受託供與者ニ返還セラレタル金員ト其ノ追徴 利害關係利用誘導罪ニ於ケル 選舉人ノ複數ト其ノ擬律



會議員ノ選舉ニ立候補ノ意嚮ヲ有シ居リタルニヨリ之ヲ奇貨トシ自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ右路線ノ開設ニ盡カスヘキニヨリ來ルヘキ縣會議員選舉ニ際シ七戸部落選舉人一同カ自己ニ投票アリ度キ旨申向ケタルモノナレハ被告人ノ行爲ハ當選ヲ得ル目的ヲ以テ選舉人ニ對シ其ノ者ノ關係アル部落ノ特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導シタルモノト謂フヘク從ツテ其ノ行爲ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第二號(改正法第一百十二條第一項第二號)ニ該當スルハ勿論該法文ノ構成上ヨリ之ヲ觀察スルモ右ノ如キ場合ハ單純ノ一罪ヲ成スモノト解スルヲ以テ相當トスヘク相手方タル選舉人ノ數ニ應シ一行爲數罪トシテ律スヘキモノニ非ス又敍上ノ如ク七戸部落代表者ニシテ選舉人タル高橋倉一郎外二名ニ對シ原判示ノ如ク申向ケ以テ其ノ關係アル部落ノ特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導シタル以上前記罰條ノ犯罪ヲ構成シ高橋倉一郎等カ歸リテ同部落ノ他ノ選舉人ニ報告シタリヤ否ヤハ既ニ成立セル犯罪ニ消長ヲ及ホスモノニ非ス要スルニ原判決ニハ論旨所論ノ如キ違法アルモノト謂フヘカラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事平井彥三郎關與

○公選投票偽造被告事件(昭和十一年(九)第二六九四號 破毀自判)

(同年十二月二十三日第五刑事部判決)

【上告人】 被告人 惣元宗之介 辯護人 沼田勇三郎

【第一審】 高岡區裁判所 【第二審】 富山地方裁判所

○判示事項

偽造公選投票ノ沒收

○判決要旨

偽造公選投票ハ公選投票偽造罪ノ組成物件ニシテ公選投票偽造行爲ヨリ生シタルモノニアラス

【參照】 舊刑法第二百三十三條 公選ノ投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ増減シタル者ハ一月以上一年以下ノ(輕禁錮)ニ處シ(二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加)ス

刑法第十九條 左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得

- 一 犯罪行爲ヲ組成シタル物
- 二 犯罪行爲ニ供シ又ハ供セントシタル物

偽造公選投票ノ沒收



三 犯罪行為ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物  
没收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ル

一六五六 (一五六)

### ○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ禁錮三月ニ處ス押收ニ係ル偽造投票用紙十枚(證第二號中十枚綴ノモノ)ハ之ヲ沒收スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和十一年三月十七日富山縣射水郡二塚村役場ニ於テ畜産組合法ニ依リ設立セラレタル富山縣畜産組合總代會議員選舉ノ施行セラルルニ際リ同村書記トシテ投票立會人ニアラスシテ該投票所ニ立會ヒ居リタルモノナルトコロ同郡ニ於ケル定員二名ナルニ三名ノ議員候補者立候補シタルニ居村選舉人五十名中棄權者多クシテ自己ノ居村ヨリ推薦シタル議員候補者畑博ノ當選危フマレタルヨリ茲ニ畑博ノ投票ヲ偽造シテ同人ニ當選ヲ得シメンコトヲ企テ同日同所ニ於テ自己ノ保管シ居タル投票用紙十枚ニ夫々擅ニ順次「畑博」ト墨書シ其ノ都度之ヲ投票函ニ投シ以テ畑博ノ投票十票ヲ各偽造シタルモノニシテ

右各公選投票偽造ノ行爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示各公選投票偽造ノ行爲ハ刑法施行法第二十五條舊刑法(明治十三年太政官布告第三十六號)第二百三十三條刑法第八條第五十五條ニ該當スルヲ以テ刑法施行法第十九條第二十條ニ則リ被告人ヲ禁錮三月ニ處シ押收ニ係ル偽造投票用紙十枚(證第二號中十枚綴ノモノ)ハ本件公選投票偽造行爲ヨリ生シタル物ニシテ何人ノ所有ヲモ許ササルモノナルヲ以テ刑法施行法第二十五條第二項刑法第八條第十九條第一項第三號第二項ニ依リ之ヲ沒收スヘキモノトス

### ○主文

原判決ヲ破毀ス

被告人ヲ禁錮三月ニ處ス

押收ニ係ル偽造投票十枚(證第二號中十枚綴ノモノ)ハ之ヲ沒收ス

### ○理由

辯護人沼田勇三郎上告趣意書第二點一、原判決ハ偽造投票用紙十枚ヲ沒收セリ而シテ刑法第十九條第三號ヲ適用セリ蓋投票トハ之ニ依テ選舉權ヲ行使シ以テ其ノ意思ヲ發表スルモノヲ云フモノナレハ投票偽造罪ハ偽造行使ナル事論ヲ俟タスサレハ此ノ方面ヨリ觀察スルトキハ投票用紙ハ犯罪組成ノ物件ニシテ犯罪ニ因リテ生シタルモノト謂フヘカラス刑法第十九條第三號ヲ適用シ沒收シタルハ違法ナリト謂フニ在リ

### 【要旨】

按スルニ舊刑法第二百三十三條ニ所謂公選ノ投票ヲ偽造ストハ公選ニ際シ不實ノ投票ヲ爲スノ義ニシテ先ツ投票ヲ偽造シ然ル後其ノ偽造投票ヲ行使スルノ謂ニアラスト解スヘキモノナルヲ以テ所論偽造投票ハ公選投票偽造罪ノ組成物件ニシテ公選投票偽造行爲ヨリ生シタルモノニ非ス然ルニ之ヲ沒收スルニ刑法第十九條第一項第一號ヲ適用セスシテ同條項第三號ヲ適用シタル原判決ハ違法ニシテ論旨理由アリ原判決ハ破毀ヲ免レス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ同法第四百四十八條ニ依リ本



院ニ於テ更ニ判決ヲ爲スヘキモノトス依テ原判決ノ認定シタル事實ヲ法律ニ照スニ被告人ノ判示公選  
 投票偽造ノ行爲ハ刑法施行法第二十五條舊刑法第二百三十三條刑法第八條第五十五條刑法施行法第十  
 九條第二十條ニ該當スルヲ以テ所定期範圍内ニ於テ被告人ヲ禁錮三月ニ處シ押收ニ係ル偽造投票十  
 枚(證第二號中十枚綴ノモノ)ハ本件公選投票偽造罪ノ組成物件ニシテ何人ノ所有ヲモ許ササルモノ  
 ナルヲ以テ刑法施行法第二十五條第二項刑法第八條第十九條第一項第一號第二項ニ依リ之ヲ沒收スヘ  
 キモノトス  
 仍テ主文ノ如ク判決ス  
 檢事平井彦三郎關與

○業務上横領背任商法違反被告事件

(昭和十一年(九)第一四九八號) 棄却  
 同十二年十二月二十四日第一刑事部判決

【上告人】 被告人 金田一國士 辯護人

柏木五百次郎  
 金子勝藏  
 平山菊治  
 大田熊一  
 本外六名

【第一審】 盛岡地方裁判所 【第二審】 宮城控訴院

○判示事項

業務横領罪ノ成立——裁判所書記ノ契印ナキ豫審訊問調書ノ效力——  
 刑法第二百四十七條ニ所謂背任ノ目的

○判決要旨

- 一 銀行取締役力業務上保管ニ係ル行金ヲ自己ノ用途ニ費消スル意  
 思ヲ以テ擅ニ之ヲ取出シタルトキハ業務上横領罪ヲ構成スヘク  
 後日之ヲ補填スヘキ意思ヲ有スルト或ハ又之ヲ自己ノ用途ニ費  
 消シタルト否トハ犯罪ノ成否ニ影響ナキモノトス【要旨第一】
- 二 豫審訊問調書ハ裁判所書記ノ契印ヲ缺クモ一個ノ訊問調書ト認  
 メ得ヘキ場合ハ無効ニ非ス【要旨第二】
- 三 他人ノ爲事務ヲ處理スル者カ本人ノ損害ニ歸スヘキコトヲ認識  
 シナカラ自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ其ノ任務ニ背キタル行  
 爲ヲ爲シタル以上ハ刑法第二百四十七條ニ所謂背任ノ目的アル  
 場合ニ該當スルモノトス【要旨第三】

業務横領罪ノ成立——裁判所書記ノ契印ナキ豫審訊問調書ノ效力——刑法第二百四十七條ニ所謂背任ノ目的



【參照】 刑法第二百五十三條 業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

同法第二百四十七條 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス  
刑事訴訟法第五十六條 被告人、被疑者、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ訊問ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 被告人、被疑者、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ訊問及供述
  - 二 證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人宣誓ヲ爲ササルトキハ其ノ事由
- 調書ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ供述者ニ讀聞カサシメ又ハ供述者ヲシテ之ヲ閱覽セシメ其ノ記載ノ相違ナキカ否ヲ問フヘシ  
供述者増減變更ヲ申立テタルトキハ其ノ供述ヲ調書ニ記載スヘシ  
調書ニハ供述者ヲシテ署名捺印セシムヘシ  
同法第七十一條 官吏又ハ公吏ノ作ルヘキ書類ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外年月日ヲ記載シテ署名捺印シ其ノ所屬ノ官署又ハ公署ヲ表示スヘシ  
書類ニハ每葉ニ契印スヘシ

### ○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人國士ヲ懲役二年ニ處ス右被告人ノ未決勾留

日數中百二十日ヲ右本刑ニ算入ス(訴訟費用負擔ノ點省略)ル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人國士ハ大正八年三月盛岡市紺屋町所在株式會社盛岡銀行(以下盛銀ト略稱ス)ノ支配人ト爲リ翌四月常務取締役ニ就任シ同年一月ヨリ昭和七年七月迄頭取トシテ就任シ被告人孝太郎ハ大正九年十月盛銀ノ支配人トナリ同年一月常務取締役ニ就任シ昭和七年十一月ヨリ同八年十二月二十五日ニ至ル迄頭取ヲ勤メ被告人正三郎ハ被告人國士ノ實弟ニシテ大正十二年七月盛銀ノ支配人ト爲リ昭和六年七月取締役ニ就任シ昭和七年十一月ニ至ル迄支配人ヲ兼務シ爾後同八年六月迄監査役ヲ勤メタルモノナルトコロ

盛銀ハ明治二十九年五月資本金五萬圓ニテ創立シ翌三十年七十萬圓同四十五年百五十萬圓ニ増資シ次テ大正九年五百四十五萬圓ノ増資ト資本金五萬圓ノ前澤銀行ヲ合併シ資本金七百萬圓トシ昭和三年資本金二十萬圓ノ黒澤尻銀行及同四年資本金二十五萬圓ノ花卷銀行ヲ合併シ資本金七百四十五萬圓トシ同六年末ニ於テハ拂込資本金四百四十五萬圓ヲ有シ青森宮城秋田岩手ノ四縣ニ跨リ支店三十八箇所出張所數十箇所ヲ設置シ以テ營業ノ發展ヲ期シタルモ偶昭和六年十一月二十四日青森五十九銀行ニ起リタル取付騒ノ影響ヲ受ケ同月二十六日支拂制限ヲ爲シ間モナク支拂ヲ停止シ同七年五月十八日新規取引停止ヲ命セラレ同八年六月三日遂ニ營業取消處分ヲ受ケテ解散シタルカ

第一 (イ) 岩手輕便鐵道株式會社(以下岩手輕鐵ト略稱ス)ハ明治四十四年一月資本金百萬圓ヲ以テ創立シ次テ大正七年五十萬圓ヲ増資シテ今日ニ至レルモノナルカ被告人國士ノ養父金田一勝定ハ同社創立當時ヨリ社長ト爲リ爾來大正九年十二月死亡スル迄其ノ職ニ在リテ大ニ力ヲ盡シ被告人國士ハ大正十年一月其ノ後ヲ襲ヒ社長ト爲リ昭和七年七月辭任スルニ至ル迄養父ノ遺志ヲ繼ギ努力シ來レルカ本鐵道ヲ基本トシ東海岸ニ達スル國有鐵道敷設ノ必要ヲ痛感シ地元有力者ト提携シテ請願書ヲ提出代表者ノ陳情等熱烈ナル運動ノ結果昭和二年三月鐵道敷設法

業務橫領罪ノ成立 裁判所書記ノ契印ナキ豫審訊問調書ノ效力 刑法第二百四十七條ニ所謂背任ノ目的 一六六一 (1661)



ニ編入サレ爾來花卷釜石間鐵道建設及岩手輕鐵買收問題ハ同地方地元民岩手縣會議員等ニ於テモ關係當局ニ對シ陳情請願等益々白熱化シ遂ニ昭和七年五月大養内閣當時末次鐵道大臣時代ニ至リ右鐵道買收ノ件ハ決定サレタルカ該内閣總辭職ト爲リ次ニ齋藤内閣ニ於テハ右輕鐵買收案ノ上提ヲ中止スルニ至ル等其ノ間波瀾アリ敍上ノ情況ナルニ依リ被告人國士ハ被告人孝太郎正三郎ノ同意ヲ得テ自己ノ社長タル右岩手輕便鐵道會社所有ノ鐵道財團ヲ政府ニ買收セシムル運動ニ付政黨ニ寄附シ又ハ政黨方面等ノ關係者及同鐵道沿線町村有志運動者ヲ招待シタル宴會費其ノ他ノ運動費或ハ又岩手輕鐵乃至同社重役ノ負擔ニ歸スヘキ或ル部分ノ收支ニ付之カ支拂ヲ爲シ以テ同社ノ經費ヲ節約シ利益ヲ多額ニ假裝シテ後日同社ノ鐵道財團カ政府ヨリ買收セラレヘキ場合ニ於ケル買收價格ヲ高價ナラシメ買收ノ曉ニハ同社重役ノ功勞金ヲ以テ補填セントスル等ノ目的ヲ以テ各自カ業務上保管ニ係ル同銀行ノ行金ヲ後記ノ如ク擅ニ取出シ又ハ取出シタル行金ヲ盛岡市東京市其ノ他ニ於テ敍上各目的ノ爲ニスル各種費用ノ支拂ニ向ケ消費シ又ハ他人ニ贈與セムコト等ヲ企テ

- (一) 被告人國士 孝太郎 正三郎ハ共謀シ同被告人等カ業務上保管ニ係ル盛銀ノ行金ヨリ取出シタル金員中擅ニ  
(イ) 昭和三年八月二十三日ヨリ十一月初旬迄ノ間ニ金千二百二十圓九十一錢ヲ 岩手輕鐵買收運動ノ爲東京市及花卷温泉等ニ於テ關係者ヲ招待シタル宴會費ニ向ケ支拂ヒ
- (ロ) 同年十月一日金四千三百圓ヲ……(中略)……支拂ヒ
- (ハ) 同年十二月頃金千七百四十九錢ヲ……(中略)……支拂ヒ
- (ニ) 昭和四年二月二十七日金千圓ヲ……(中略)……支拂ヒ
- (ホ) 同年三月中金七百七十二圓二十一錢ヲ……(中略)……支拂ヒ
- (ヘ) 昭和四年四月中數回ニ合計金千五百三十三圓三錢ヲ……(中略)……支拂ヒ

- (ト) 昭和四年六月十四日金四千九百五十一圓十六錢ヲ……(中略)……支拂ヒ
- (チ) 同年二月頃金二千六百六十二圓五十五錢ヲ……(中略)……支拂ヒ
- (リ) 同年六月中金二百八十八圓八十一錢……(中略)……支拂ヒ
- (ヌ) 昭和四年十一月十二日金三百圓ヲ……(中略)……支拂ヒ
- (ル) 昭和四年十二月十三日金六百八十四圓ヲ……(中略)……支拂ヒ
- (ヲ) 昭和四年十月十日金百圓……(中略)……贈與シ
- (ワ) 昭和四年六月十四日合計金五千圓ヲ……(中略)……支拂ヒ
- (カ) 昭和五年八月十六日金二十五圓……(中略)……支拂ヒ
- (二) 被告人國士 孝太郎 正三郎ハ共謀シ當時岩手輕鐵買收案カ議會ニ提出セラレタルヲ好機トシ貴族院議員タル被告人彌右衛門ヲシテ該案通過ノ爲關係方面ニ運動セシムヘク其ノ費用ニ充ツル爲萬昌一郎名義手形ヲ假裝シ昭和四年二月二十八日前同様行金ヨリ擅ニ金四千圓ヲ取出シ
- (三) 被告人國士 孝太郎 正三郎ハ共謀シ 岩手輕鐵買收運動費ニ充ツル爲同社重役梅津東四郎名義ノ手形貸付ヲ假裝シ……(中略)……宿泊料等ニ支拂ヒ
- (四) 前記被告人等ハ共謀シ 岩手輕鐵社員加藤雄城 岡山實元名義手形貸付ヲ假裝シ……(中略)……宿泊料等ニ向ケ支拂ヒ
- (ろ) 被告人國士ハ株式會社盛岡貯蓄銀行盛岡信託株式會社盛岡電燈株式會社三陸水產冷藏株式會社等其ノ他多クノ會社重役ヲ兼務シ居リシヨリ是等關係會社ノ爲運動費雜費及私的交際費遊興費其ノ他權限外ノ支出等ニ付擅ニ業務上保管ニ係ル盛銀ノ金庫内ヨリ現金ヲ取出シ之カ支拂ニ充ツヘク被告人孝太郎 正三郎等ヲシテ同意セ

業務權領罪ノ成立 裁判所書記ノ契印ナキ豫審訊問調査ノ效力 刑法第二百四十七條ニ所謂責任ノ目的